

# 2025年度 全国競技運営責任者会議

## 報告書

日程：2026年2月11日（水・祝）  
会場：味の素ナショナルトレーニングセンター  
（オンライン会議併用）

公益財団法人 日本陸上競技連盟  
競技運営委員会

## ファイル番号一覧

会議資料ファイルは日程順に1から番号を付与しており、**事前配信した資料には枝番0**が付いています。  
 なお、資料の配信がない項目については、欠番になっています。

ファイル番号	題名
00_0	表紙
00_1	日程
00_2	参加者名簿
00_3	参加者名簿 (JTO, JRWJ他)
00_4	都道府県審判員数
00_5	議事録
01_0	2026年度競技規則修改正 (案)
01_1	2026年度競技規則・競技用靴規則修改正のポイント (当日説明版)
01_2	競技用靴に関する規程
02_0	広告展示物規則PT
02_1	広告展示物規則PT (スライド)
03_0	施設用器具委員会報告
04_0	公認審判員制度の改正について
04_1	公認審判員制度の改正について (スライド)
05_0	世界陸上のビデオ判定事例報告
05_1	世界陸上のビデオ判定事例報告 (スライド)
06_0	世界陸上のスタートについて
<b>分科会 1</b>	
07_0	競技会公認申請
08_0	日本記録申請について
08_2	2025年度日本記録一覧
09_0	公認記録申請について
10_0	記録用紙改訂
<b>分科会 2</b>	
11_0	S級審判昇格審査報告
11_1	S級審判昇格審査報告 (スライド)
12_0	審判ハンドブックPT
13_0	審判育成・研修PT
14_0	2025年度JTO活動報告
14_1	2025年度JTO活動報告 (スライド)
<b>競技会報告</b>	
15_0	競技会報告
<b>2026年アジア競技会</b>	
16_0	2026年 アジア競技大会について
<b>事務局より</b>	
17_0	陸連事務局からの連絡事項
18_0	世界陸上報告書
19_0	「JAAF人権ポリシー」 「JAAFインテグリティ行動指針」

## 2025（令和7）年度 全国競技運営責任者会議 日程

2026年2月11日（水・祝） 於：味の素ナショナルトレーニングセンター

- 9:30 受付・オンライン開始
- 10:00 あいさつ（5分） 田崎専務理事
- 10:05 事務連絡（5分） 羽田幹事
- 10:10 2026年度競技規則修改提案（50分） 片岡裕委員
- 11:00 広告展示物規則 PT（15分） 田中委員
- 11:15 質疑応答（10分）
- 11:30 施設用器具委員会報告（10分） 高木施設用器具委員長
- 11:40 公認審判員制度の改正について（10分） 青柳委員
- 11:50 世界陸上のビデオ判定事例報告（10分） 片岡裕委員
- 12:00 世界陸上のスタートについて（15分） 関委員
- 12:15 質疑応答（15分）
- 12:30 昼食休憩（40分）
- 13:10 分科会（30分）

分科会 1	分科会 2
①競技カレンダー・記録 PT	① S級審判昇格審査報告（吉田委員）
競技会公認申請（鍋島委員）	② 審判ハンドブック PT（資料参照）
日本記録申請について（村上委員）	③ 審判員研修 PT（寺尾幹事）
公認記録申請について（岩脇委員）	④ 2025年度 JTO 活動報告（杉本幹事）
記録用紙改訂（資料参照）	

- 13:40 分科会報告（5分）
- 13:45 質疑応答（5分）
- 13:50 競技会報告（報告書参照）
  - ① 第109回日本陸上競技選手権大会 東京
  - ② 第109回日本陸上競技選手権大会・混成競技  
第41回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技 岐阜
  - ③ 第78回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 広島
  - ④ 第52回全日本中学校陸上競技選手権大会 沖縄
  - ⑤ 第41回U20日本陸上競技選手権大会 静岡
  - ⑥ 第79回国民スポーツ大会 滋賀
  - ⑦ 第19回U18／第56回U16陸上競技大会 三重
- 13:55 2026年アジア競技大会について（10分） 伊藤テクニカルパレションマネージャー
- 14:05 陸連事務局からの連絡事項（10分） 事務局
- 14:15 あいさつ・事務連絡（5分） 鈴木委員長・羽田幹事
- 14:20 閉会

## 2025年度全国競技運営責任者会議参加者

日程：2026年2月11日（水） 会場：味の素ナショナルトレーニングセンター研修室

所属	出席者（分科会1）	役職名	参加方法	出席者（分科会2）	役職名	参加方法
北海道	玉井 康夫	審判委員長	会場	遠藤 典康	競技委員長	オンライン
青森	名後 利英	競技部長	会場	小野 武則	審判部長	会場
岩手	高橋 義柄	競技部長	会場	箱石 文夫	審判部長	オンライン
宮城	三浦 良晃	総務委員長	オンライン	鹿又 政信	審判委員会 委員長	会場
秋田	櫻田 文人	競技委員長	会場	高橋 和夫	審判委員長	オンライン
山形	山崎 真司	競技副委員長（審判担当）	会場	庄司 隆志	競技副委員長（競技担当）	会場
福島	山下 訓史	競技委員長	オンライン	武田 正志	審判委員長（JTO）	会場
茨城	高島 香	競技委員長	会場	稲田 正人	審判委員長（JTO）	オンライン
栃木	海老名 貴之	競技運営委員長	会場	小針 敏明	審判委員長	オンライン
群馬	田中 恵一	競技運営委員長	会場	荻野 歩	審判部長	オンライン
埼玉	清水 互	競技委員長	オンライン	今井 亮	審判委員長	オンライン
千葉	松本 剛史	競技運営委員長	オンライン	八幡 麻理	審判部長	会場
東京	東出 英樹	競技運営委員会競技部部长	会場	石井公一	競技運営委員会審判部部长	会場
神奈川	山崎 正俊	記録部長	会場	中野 賢一	審判部長	会場
山梨	萩原 伸治	競技運営委員長	会場	笹本 忠彦	審判委員長	オンライン
新潟	鈴木 圭輔	競技副部长	オンライン	青木 祐一	審判部長	オンライン
長野	細田 和生	競技部長	会場	小林 幸太郎	審判部長	会場
富山	佐々木 貴義	競技部長	会場	杉木 一文	審判部長	オンライン
石川	出澤 英之	競技部長	会場	川嶋 聡	審判部長	オンライン
福井	南部 諭史	競技委員長	オンライン	平木 寿治	審判委員長	会場
静岡	堀之内 大	県競技委員長	オンライン	榎本 好孝	県審判委員長	オンライン
愛知	安田 純久	競技委員長	オンライン	伊藤 明久	審判委員長（JTO）	会場
三重	藤原 康喬	競技委員長	会場	東 一郎	審判部長	オンライン
岐阜	郷 直人	競技委員長	オンライン	國島 智也	審判委員長	会場
滋賀	藤田 武志	競技委員長	会場	高田 毅	審判委員長	会場
京都	福田 晴也	競技部長	オンライン	長屋 敏弘	審判部長（JTO）	会場
大阪	室井 愉志	競技委員会副委員長・競技部長	会場	山口 忠広	競技委員会審判部長	会場
兵庫	藤田 和洋	競技委員長	オンライン	松岡 誠一郎	審判委員長	会場
奈良	松井 紀之	競技部長	会場	安達 昌広	審判部長	オンライン
和歌山	酒部 政希	競技部長	オンライン	岡本 規	審判部長	会場
鳥取	美多賀鼻 孝裕	競技部長・JTO	会場	佐々木 伸頭	審判副部长	オンライン
島根	河村 靖宏	情報処理部長	オンライン			
	辻本 健彦	競技部長	会場			
岡山	堀川 正徳	競技運営委員長	オンライン	尾川 登太郎	審判委員会副委員長（JTO）	会場
広島	堀江 一成	競技運営委員会 委員長	会場	大掛 真実	競技運営委員会 副委員長	会場
山口	石原 宏昭	競技運営委員長	会場	水谷 哲也	競技運営委員会 審判部長	オンライン
香川	久保 圭一	競技部長	オンライン	山本 雅典	審判部長	オンライン
徳島	川井 賢一	競技運営委員長（トラック審判長）	会場	切原 宏和	審判部長（JRWJ）	オンライン
愛媛	中村 優哉	競技委員長	会場	中村 浩輔	審判副委員長	会場
高知	三谷 裕之	競技委員長	オンライン	松本 広一	審判委員長	会場
福岡	中本 恭子	福岡陸上競技協会競技部長	会場	柴田 康弘	福岡陸上競技協会審判部長	会場
佐賀	高橋 正秀	競技運営	会場	長谷部 達彦	審判	会場
長崎	植田 翔吾	競技部長	会場	近藤 敦	審判部長	オンライン
熊本	沢田 修	常務理事兼競技部長	オンライン	米田 光宏	常務理事兼審判部長	会場
大分	上杉 貴志	競技運営委員長	会場	森 幹夫	審判委員長	会場
宮崎	相馬 勇一	競技部長（JTO）	会場	安在 倫孝	審判部長	会場
鹿児島	中江 寿孝	常務理事 競技部長	会場	東村 光弘	常務理事 審判部長	オンライン
沖縄	又吉 秀明	競技部長	会場	大山 朝雄	審判部長	オンライン
中体連	中村 信悟	部長	会場			
高体連	神慶 次郎	競技委員長	オンライン	内堀 俊彦	競技副委員長	オンライン
マスターズ	山崎 健	競技運営委員長	会場	伊藤 誠一	競技運営副委員長	会場
学連	桑原 悠真	幹事長	オンライン	河本 賀帆	副幹事長	オンライン
実業団	阿相 久志	事務局長	会場			
パラ陸連	柴田 達也	競技運営委員長	オンライン	山下 和行	記録情報部長	オンライン
マット	庄田 修司	技術部 部長	オンライン	藤崎 勇次	営業技術課長	会場
SEIKO	内藤 頼隆	セイコータイムクリエーション株式会社	会場	市川 美南	セイコータイムクリエーション株式会社	会場
NISHI	木村 裕次	開発チーム マネージャー	オンライン	田中 陽介	支援チーム マネージャー	オンライン



## 2025年日本陸連 公認審判員数

2026年1月22日現在

	所属	S級 公認審判員数 (男)	S級 公認審判員数 (女)	A級 公認審判員数 (男)	A級 公認審判員数 (女)	B級 公認審判員数 (男)	B級 公認審判員数 (女)	C級 公認審判員数 (男)	C級 公認審判員数 (女)	合計
1	北海道	126	11	224	37	664	250	146	129	1587
2	青森	61	3	61	7	394	113	0	0	639
3	岩手	64	7	92	15	269	73	0	0	520
4	宮城	98	12	91	19	341	115	0	0	676
5	秋田	51	1	78	6	339	58	0	0	533
6	山形	67	1	128	16	393	102	0	0	707
7	福島	127	7	204	30	180	69	786	461	1864
8	茨城	69	5	98	16	345	87	0	0	620
9	栃木	32	1	49	8	217	69	0	0	376
10	群馬	25	0	55	8	230	38	0	0	356
11	埼玉	76	7	129	12	351	89	0	1	665
12	千葉	90	4	134	16	600	140	0	0	984
13	東京	443	66	368	127	643	356	11	10	2024
14	神奈川	177	6	162	28	709	177	29	20	1308
15	山梨	69	4	97	12	217	56	4	3	462
16	新潟	43	0	120	10	566	119	0	0	858
17	長野	74	1	107	11	442	128	0	0	763
18	富山	57	3	86	6	224	69	31	12	488
19	石川	55	2	71	6	278	70	47	16	545
20	福井	30	1	82	10	188	56	47	25	439
21	静岡	166	11	231	28	534	229	201	140	1540
22	愛知	116	7	152	12	683	257	78	51	1356
23	三重	48	6	50	3	224	62	0	0	393
24	岐阜	55	3	89	14	219	39	4	13	436
25	滋賀	46	4	115	14	196	69	262	99	805
26	京都	92	4	112	14	861	359	0	0	1442
27	大阪	171	16	285	67	562	175	0	0	1276
28	兵庫	89	5	141	8	531	125	0	0	899
29	奈良	13	0	115	18	210	69	0	0	425
30	和歌山	22	2	115	13	245	76	103	34	610
31	鳥取	42	2	136	22	107	40	0	0	349
32	島根	79	11	86	19	325	74	0	3	597
33	岡山	95	11	176	37	178	66	0	0	563
34	広島	144	7	170	20	442	126	112	96	1117
35	山口	70	3	83	22	225	39	1	0	443
36	香川	37	0	86	6	125	40	0	0	294
37	徳島	24	3	57	14	92	37	0	0	227
38	愛媛	73	2	116	16	243	84	3	6	543
39	高知	41	2	61	12	145	37	0	0	298
40	福岡	136	11	141	21	503	147	97	83	1139
41	佐賀	41	2	87	15	122	43	0	0	310
42	長崎	19	1	34	5	208	40	236	94	637
43	熊本	84	16	167	24	186	60	0	0	537
44	大分	92	9	103	36	191	71	0	0	502
45	宮崎	46	5	112	20	304	96	0	0	583
46	鹿児島	51	0	126	22	529	161	6	7	902
47	沖縄	38	5	63	20	112	55	96	65	454

2025(令和7)年度 日本陸上競技連盟 全国競技運営責任者会議 議事録

2026年2月11日(祝) 10:00~15:00

味の素ナショナルトレーニングセンターで対面およびオンラインによるハイブリッド会議

1. 事務連絡(片岡(典)幹事)

- ①オンラインの参加者は「氏名」「所属陸協」を表記。質問時はカメラとマイクはオンにする。チャットは、事務連絡のみとする。
- ②短冊(JT0研修会1/31含む)とS級昇格者の委嘱状および手帳は加盟団体宛、2月中に郵送する。

2. 2026年度 競技規則修改正提案(片岡(裕)委員)

片岡(裕)委員より、競技規則修改正提案の説明がなされた。

加えて、2026年1月から競技用靴に関する規程が改定されたことから、その説明と国内での適用方法について説明がなされた。

[主な改正点]

(1) 新規種目

- 男女300mH
  - ・国内では2018年から導入済みであるが、2026年度から国際規格が追加される。
- 4×100m男女混合リレー
  - ・4×400m混合リレーは既にあるが、4×100m男女混合リレーが新たに追加された。加えて、両種目ともに走順は「男子→女子→男子→女子」となる。

(2) 主な修改正(詳細は資料を参照)

- ・CR. 9  
補足：主催者からの派遣要請に基づき、日本陸連が派遣した JRWJ 若しくは WARWJ 資格者が当該競技会の任にあたる。主催団体に所属する JRWJ は陸連からの派遣なしで任務にあたることはできない。競技会に依じて、必ず派遣要請をお願いしたい。
- ・CR31. 14. 4：混成競技の1回目不正スタート後の2回目以降の記録の取扱いについて
- ・TR3. 3：性別カテゴリーは男性・女性の2つのみ。
  
- ・TR5. 2：競技用靴の靴底の厚さ
  - 2024年11月からトラック種目、フィールド種目は20mm
  - クロスカントリーについて、2026年4月1日以降制限なし
  - 競歩については40mm
  - 国内適用ではあるが、駅伝も道路競技と同じ40mmと制限を設けたい。  
(但し、適用・非適用は主催者判断)
- ・TR8. 7：上訴金引き上げの提案。現行は100USドル相当で、1万円としているが2万円に引き上げたい。
- ・TR9：競技の区分(TR3. 3に紐付き、4つの区分に分類)
- ・TR17. 3注釈：WAに確認したところ、一步の中で接地から離地の間少しでも白線に触れていれば違反とみなさないとしたことであった。世界陸上のWAレフェリーも同様の見解。判定にあたっては「流れ」を確認いただきたい。判定ビデオだけでなく、チーム提供ビデオ

も判定材料となる。また、監察員記録用紙についても「エビデンス」として競技者に提示するため、記載は簡潔に分かりやすくする必要がある。

- ・ TR17. 5. 2 [国内] グループスタートの代用縁石の位置の変更 (2023 年 3 月末までに)
- ・ TR20. 4. 4 300m競走のシードレーン (明確化)
- ・ TR22. 1、22. 3 国際規格の 300mH の追加
- ・ TR22. 6 ハードル競技の失格事由の明確化
- ・ TR24. 6 落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き
- ・ TR24. 10 [国際] リレーの交代要員数の変更
- ・ TR24. 11、24. 12 男女混合リレーの走順は「男子→女子→男子→女子」
- ・ TR25. 14 高さの競技で予選通過標準記録まで行わずに決勝進出者が決まった際の対応
- ・ TR28. 1 PV の連続試技の際の試技開始の合図のタイミング
- ・ TR29. 5 LJ、TJ の踏切位置判定ビデオ

### (3) 競技用靴に関する規程の修改正のポイント

WRk 競技会は靴規程を遵守しなければならない。WA は、事前のシューズチェックはしない(むしろするな)、疑義があれば競技後にチェックする方針。また、「シューズコントロールオフィサー(靴チェック専門)」を置くことも求めている。国内においても競技前の靴底の厚さ計測は不要とする。ただし、主催者判断で計測することを妨げるものではなく、適用範囲(どのレベルの大会で厳格運用するか)についても主催者判断とする。

国内の非 WRk 競技会も原則適用とするが、競技会レベルに応じて主催者が適用非適用を決める。

## 3. 広告展示物規則PT (田中委員)

田中委員より、広告規則の修正と追記について説明がなされた。

[主な修正点]

- ・ 医療用テープに関する規程の修正と追記

WA 規程(原文)和訳の誤りの修正と、[注釈]の追記。国内競技会での運用に変更はなし。

[事例]

- ・ 国スポの事例から広告規程の管理者を任命していただきたい。
- ・ [事前質問「SNS などへの多数の投稿により、不特定多数の閲覧があることから、全ての競技会で規程が適用されるべきではないか。規程は努力目標なのか。」に対する回答]  
規程適用の競技会(iii)は、主催者側が配信するもののみであり、個人の SNS などへの投稿などは主催者が管理するところではない。広告規程は競技会規則であり遵守されるべきものである。ご理解と共有をお願いしたい。

### <質疑応答>

Q. 広告展示物規程に違反した場合はどのような処分になるのか。また、国スポの措置を確認したい。

A①. 広告規程は競技規則のため、規則に基づきYC(イエローカード)の対象となる。国スポでは「注意」を行った。事前のマスクング対応は行うものの、マスクングの拒否や国スポのような事例など極端な場合や指導に従わない場合には、YCや失格もあり得る。(田中委員)

A②. まずは、注意を促す。そのうえで、注意に従わず悪質であればYCの提示、なお改善されない場合には失格とするなど、段階を経て対応するのが妥当ではないか。なお、YCを他の競技会に持ち越すことはできないが、競技者に対しては繰り返しである旨を指導の中で伝えていくこと

で改善を求めることはできる。(片岡(裕)委員)

Q. リレーでバトンを落とした場合の写真判定について確認したい。

A. 写真判定の際は、バトンを拾って戻り、正しい身体の向きで再度フィニッシュラインを通過した時点での判定となる。(片岡(裕)委員)

Q. 広告展示物規程に関し、国際大会の事例を確認したい。

A. 世界陸上においては、マーケティング担当が管理をしていた。WAの弁護士資格を持っている職員が広告コミッショナーとして担当しているため審判員が対応することはなかった。担当者から審判員にマスキングの対応依頼が飛ぶことはあった。(陸連事務局 浅田氏)

#### 4. 施設用器具委員会報告(高木委員長)

高木施設用器具委員長より、規則改正等について説明がなされた。

(1) 2026年施設用器具委員会関係の規則の改正

WA競技規則、施設マニュアルとの整合性と国内競技規則変更による整合を図る

[主な改正点]

- ① グループスタートのスタート位置の変更
  - ② ブレイクラインの考え方の変更
  - ③ 300mHのWA規格移行への対応
  - ④ やり投助走路踏切付近の舗装材の対応
  - ⑥ 室内陸上競技場のショートトラックへの移行による室内陸上競技場公認に関する細則の対応
  - ⑦ ショートトラックへの移行による屋外種目別陸上競技場施設公認に関する細則の対応
- ※⑥及び⑦に関しては2026年度中に改正予定

(2) 競技会の派遣について

(3) 競技会での注意事項

(4) 世界陸上での対応

#### <質疑応答>

Q. TR14.1 [注意] によると曲走路と直走路の境界点すべてのポイントのトラック内側の延長線上にコーンを設置することとされているが、義務と捉えるべきか確認したい。

A. 必須で願います。(片岡(裕)委員)

#### 5. 公認審判員制度の改正について(青柳委員、寺尾幹事)

(1) 改正を検討する背景

日本陸連とWAの審判員制度が並列・一部重複している状況にあり、WRk競技会においてもWAレフェリーの配置が求められているなど、国際基準への対応が高まっており審判員制度へと集約する必要が生じている。

(2) JTO/JRWJ制度について

(3) 今後のスケジュール

- ・2026年3月以降 陸連理事会に原案提出 意見聴取・検討
- ・2026年夏ごろ 具体的な作業(ルールブック・ハンドブック・諸規定の修正)
- ・2027年4月 新制度開始(予定)

#### (4) その他

- ・日本陸連の登録料は、級別差はない。
- ・C級審判員制度について、運用方法について今後の検討課題としたい。
- ・2027年からの制度改正に合わせて、審判手帳を更新する可能性がある。審判手帳の発注数や在庫管理について留意して欲しい。

### 6. 世界陸上のビデオ判定事例報告（片岡(裕)委員）

片岡(裕)委員より、世界陸上のビデオ判定事例について説明がなされた。

#### (1) ルールに基づく事例

- ・TR17. 1. 1 意図的な妨害ではない妨害。リレーのシーン。これを見て、意図的で無いと判断ができる。
- ・TR17. 1. 2 意図的な妨害。女子 1500m の場面。最初にキッカケを作った選手を失格の対象とした。
- ・TR17. 5. 2 女子 10000m のグループスタートで内側の選手が外側のレーンを走った場面。これは短い距離を走っていないので違反では無い。
- ・TR17. 2. 3 レーン侵害。400mH では高精度のカメラがあったから監察員がスタンドから見る事ができた。監察員をスタンドに配置するには、使用するビデオ機器等の性能を考慮する必要がある。
- ・TR24. 20 バトンパスで走り出す位置。テイクオーバーゾーンの中から走り出さねばならないが、線から出ていることが分かる。
- ・TR24. 21 4×400mR で第3・4走者は審判員の指示に従い、前走者が第2曲走路入口を通過した順に待機するが、世界陸上の場合にはトラック審判長が並べている。選手をきちんと誘導している。
- ・TR30. 1. 5 着地の動きの中で着地場所の外側に肩が触れている。踏切だけでなく、着地の判定も重要。
- ・TR32. 14 投てきの際の足がサークルやラインの縁に触れていないかとの場面。審判員がきちんと判定をしているのが分かる。

#### (2) 抗議を却下した事例

- ・男子 1500m 予選

1300m 付近で押合いや接触があり、2名の選手が転倒その後、立ち上がった後、二人で並んでジョグをしながらフィニッシュした。結果発表後、両チームから抗議あり。ビデオ審判長は誠実に力を尽くしていないという理由から抗議を却下。

#### (3) イエローカードの事例

- ・男子 100m 優勝者がフィニッシュ後にユニフォームを自ら切り割く（衣類規則違反）
- ・男子マラソン 給水所で他競技者の飲食取得（反スポーツマンシップ行為）
- ・女子マラソン 給水所で他競技者の飲食取得（反スポーツマンシップ行為）
- ・女子マラソン 給水所以外で飲食物受取（反スポーツマンシップ行為）  
(往路のコース上にあった給水ポイントで、復路通過時にコーチが給水してしまった)

### 7. 世界陸上のスタートについて（関委員）

関委員より、世界陸上のスタートの事例について説明がなされた。

#### (1) Case I

男子 100m 予選 6組でオートリコールが作動し、選手を呼び戻した。このとき、RT(リアクションタイム)は 0.099sec であったが、失格としなかった。RT が限界 (0.100sec) に近く、SIS

(=Start Information System) に加えスタートをスローで再生できる高性能なビデオを WA レフェリー2 名が繰り返し見られたこと、波形が 0.099sec まで一切立ち上がりをみせていなかったことから、グリーンカードとなった。

(2) Case II

男子 100m 準決勝 3 組で 3 レーンの競技者の局所的な動きがあり、それにつられた隣の 4 レーンの競技者が不正スタートをしてしまい、3 レーンにイエローカードが出された (TR16.5.3)。

(3) Case III

男子 800m 予選 5 組で 6 レーンの競技者が On your marks の合図の後、体を止めずに動いたままスタートしようとしていた。遅延行為があったとしてイエローカードが出された。

(4) Case IV

男子マラソンで一番内側にいた競技者が号砲の前にスタートしてしまった事例があった。現場のスタート審判長より、直ちに止めるよう指示があったため、選手を止めてスタートのやり直しをした。WA スターターより、マラソンや競歩種目では不正スタートがあってもピストルを撃ち戻す必要がないとの指導を受けた。

### <質疑応答>

- Q. 競技用靴に関する規程について、中高生の大会は主催者が WA 規則を適用するか決めるということであったが、適用しない場合にはどのようなシューズでも良いということになるのか。特に、シューズリストに載っていないものを履いている場合はどのように対応すればよいか確認したい。
- A. 規則を適用しない場合、競技会のレベルによりシューズリストに載っていないから NG とすることは非現実的。規則を適用しないにしても何らかの基準を設けるならば、例えば靴の厚みが 20mm 以下あるいは 40mm 以下ということが広く納得される判断材料となるので、これを基準とすることもできるのではないかと。(片岡(裕)委員)
- Q. 長さの競技で、踏切の判定に粘土板と VDM を同時に使用してもよいか確認したい。
- A. 粘土板と VDM は併用しない。(片岡(裕)委員)
- Q. 長さの競技で、踏切の判定に粘土板を使用している時には踏切線の先に足先が出ていても痕跡が付いていない場合は有効試技ということによいか確認したい。
- A. 現時点での WA の見解はその通りである。(片岡(裕)委員)
- Q. マラソンの不正スタートはリコールしなくても良いとのことであったが、不正スタートをした競技者に対して何らかのペナルティは与えられるのか確認したい。
- A. 世界陸上ではペナルティは与えられなかった。基本的にフィニッシュ後に審判長が判断すべきものである。注意や警告を与えることも考えられる。(関委員)
- Q. 公認審判員制度の変更に伴い、審判手帳や審判員証も変更となるのか。そうすると、金銭的な負担が発生すると考えられ、懸念がある。
- A. 現時点では詳細は未定である、負担が少なくなるよう検討をしていく。(鈴木委員長)

## 【分科会1】

〔競技会レンダー・記録PT〕

### ① 競技会公認申請

2026年度公認競技会申請について、鍋島委員より説明がなされた。

### ② 日本記録申請について（村上委員）

日本記録申請について、村上委員より説明がなされた。

〔ポイント〕

- ・WAの管理するナショナルレコード（日本記録）は、WRk大会でマークされた記録のみ。
- ・道路競技などでの通過記録が日本記録となる場合でも、あくまでそのコースが検定され、競技会として公認された場合のみに記録となる。

### ③ 公認記録申請について（岩脇委員）

公認記録申請について、岩脇委員より説明がなされた。

〔ポイント〕

- ・公認記録申請について課題
  - 昨年度末で陸マガ記録室との連携を終了し、陸連システムにデータ申請のみとなる。新フォーマットは現在準備中。
  - 予備日に関しては1次申請時に確定している場合は大会名の後に（予備日）と記載すれば申請上問題ない。
  - 陸マガのシステムについては非公認の記録も反映されているものがあるため、日本陸連のシステムに移行後は非公認と分かるように申請いただきたい。
- ・都道府県記録、中学記録、高校記録等について
  - 日本陸連での関与はしないため、各加盟団体で精査いただく。

### ④ 記録用紙改訂（資料参照）

監察員記録用紙を使用せず競技会を行っている競技会あると伺っているが、書面をもって報告しなければならないという規則に従い対応いただきたい。上訴申立書に関しては上訴の流れを記入する用紙と金額面でのやり取りの2枚構成に変更となった。金額面の用紙は経理処理上問題がある場合は変更していただいて構わない。

## <質疑応答>

- Q. 予備日を設定していない競技会で事情により日程が変更となった場合、事後申請は可能であるか確認したい。
- A. 天候不良や暑熱対策関連で開催日を移動した場合は事後申請が認められる。申請を失念してしまったなどは認められない例となる。（岩脇委員）
- Q. 公認記録申請について、今年度行っていたメールでの送付はできなくなるということか確認したい。
- A. 電子システムでの申請をお願いしたい。事情がある場合はPTまで連絡してほしい。（岩脇委員）
- Q. 2025年度は日本陸連のランキングで過去データが反映されることが無かったが、来年度は改善するのか。資格審査をするうえで支障があったため確認したい。

- A①. ランキングについては、陸連事務局が確認をしている状況。ランキングシステムの修正はもう少し時間がかかる見込みである。まだ確定ではないが3月にランキング一覧を公開予定である。(陸連事務局 石田氏)
- A②. 不具合を見つけた場合はシステムの問い合わせフォームから連絡いただくことで都度反映していきたい。過去の記録については旧体制との兼ね合いもあり反映が難しい可能性がある。(岩脇委員)

## 【分科会2】

### ① S 級審判昇格審査報告 (吉田委員)

吉田委員より、S級昇格審査結果について報告がなされた。

[ポイント]

- ・2026年4月1日昇格予定者審査結果
  - 申請159名中155名を昇格候補者とした。

### ② 審判ハンドブック PT (資料参照)

[ポイント]

- ・2027-2028ハンドブック作成方針
  - 審判員や読者に読みやすく誤解のない表現を心掛ける
  - 世界陸上を終えて国際化を取り入れていく

### ③ 審判員研修 PT (寺尾幹事)

寺尾幹事より、審判員研修プロジェクトの取組みについて説明がなされた。

[ポイント]

- ・「WA Bronze Referee」資格取得試験に向けた人材バンク登録
  - 登録期限：2026年2月28日(土)
- ・競技会運営の合理化に向けたアンケートの実施
  - 少子高齢化に対応した今後の競技会運営の在り方
  - 東京陸協の取組み
  - アンケート実施。2026年1月26日(月)締切。未回答の場合は回答をお願いしたい。
- ・WRk競技会のBronze Refereeの配置について
  - WA規則に準じて競技が行われていることを監督する競技運営監督者
  - 日本選手権、WAコンチネンタルツアー(GGP、静岡国際、木南記念、織田記念)、ラベルロードレース→審判長、主任はBronze Refereeを配置
  - ※各審判長にBronze Referee以上の者が配置できる場合には競技運営監督者の配置は不要
- ・NARの申請方法について

### ④ 2025 年度 JTO 活動報告 (杉本幹事)

杉本幹事より、JTO活動状況の主な事例について説明がなされた。

[ポイント]

- ・日本選手権400m決勝において1着フィニッシュの競技に黄旗の事例報告
  - 2名の審判長の連携
  - リザルトの差替えなど

- ・インターハイの円盤投げの予選における、電源ドラムのオーバーヒートの事例報告
  - ドラムケーブルはすべてコードを引き出し使用されたい。

## <質疑応答>

- Q. NARの取得の意義について確認したい。
- A. Bronze Refereeの受験資格要件としてNAR3年が示されているため、その準備として取得いただきたい。（青柳委員）
- Q. 日本選手権男子400mにおいて選手が結局救済されたが、その理由として「違反がなかった」のか、または「裁定の理由が適切でなかったから」なのか、どちらなのか確認したい。
- A. 問題となったのは「一步の部分」のみ。その一步を巡って「(ラインを)踏んだのではないか」という点が議論となった。ビデオの映像も不鮮明であり、かつ、他の場所も踏んでいるように見える箇所もあり、加えて監察記録用紙の書き直しがあるなど信憑性に欠けた点もあった。最終的に失格としないとなったのは「疑わしきは選手の利益に」という考えであった。確たるエビデンスがあって、始めて違反と判断できるものとする。（片岡(裕)委員）
- Q. Bronze Refereeの合格者及び現在の人数を伺いたい。また、ジェンダーバランスの関係に伴い、山形陸協は女性しか合格していないため、偏りなく推薦できるようお願いできないか確認したい。
- A. 合格者数は集計して後日伝える。また、ジェンダーバランスについては、日本陸連にてコントロールが難しいため理解いただきたい。（赤峰副委員長）
- Q. 写真判定、スターターのBronze試験の申請可能枠について確認したい。
- A. それぞれ、男女1名ずつ、合計4名となる。（羽田幹事）
- Q. CT(コンチネンタルツアー)は審判長も主任もBronze Refereeを配置しなければならないのか確認したい。
- A. CTは、移行期間が2025年までとなっており、すべての部署ではないが、判定を行う審判長と主任はBronze Refereeを配置していただきたい。よって、Bronze Refereeが不足している場合には、近隣から招致していただきたい。CT主管の加盟団体は限られた加盟団体となるため、個別に調整したい。（陸連事務局 浅田氏）

## 8. 分科会報告

- (1) 分科会1について、赤峰副委員長より報告がなされた。（詳細は上記分科会のとおり。）
- ・公認競技会の申請について方法・時期について
  - ・道路競技についての途中記録の記載
  - ・マスターズについて
  - ・2026年度よりデータ申請のみ
  - ・ランキングシステムについては調整中
  - ・記録用紙の確認について
- (2) 分科会2について、佐藤幹事より報告がなされた。（詳細は上記分科会のとおり。）
- ・S級審判の審査について報告
  - ・2027年度-2028年度のハンドブック作成について

- ・競技会の合理化にむけての対応
- ・2025年度JT0報告について

## 9. 競技会報告（報告書参照）

- ① 第 109 回 日本陸上競技選手権大会 東京
- ② 第 109 回 日本陸上競技選手権大会・混成競技  
第 41 回 U20 日本陸上競技選手権大会・混成競技 岐阜
- ③ 第 78 回 全国高等学校陸上競技対校選手権大会 広島
- ④ 第 52 回 全日本中学校陸上競技選手権大会 沖縄
- ⑤ 第 41 回 U20 日本陸上競技選手権大会 静岡
- ⑥ 第 79 回 国民スポーツ大会 滋賀
- ⑦ 第 19 回 U18／第 56 回 U16 陸上競技大会 三重

## 10. 2026 年 アジア競技大会について 伊藤テクニカルパレションマネージャー

伊藤テクニカルパレションマネージャーより、2026 年 アジア競技大会の準備状況について説明がなされた。

昨年の世界陸上の大成功を受けて、「盛り上がった陸上熱を2026年は愛知・名古屋に」との流れのなか着々と準備を進めている。会場は名古屋市の瑞穂公園陸上競技場（通称：パロマ瑞穂スタジアム）であり、3月までに工事を終えることとなっている。本競技場は、9レーンのトラックで外水壕の仕様となっており、スタンド席は2層構造で観客動員人数は約3万人である。検定に合格すると、日本陸連公認の第一種、WAのクラスⅡの競技場となる。

### (1) 大会スローガンおよびエンブレム、マスコットについて

スローガンは、「アジアでひとつに」との趣旨。大会を通して、アジアの国々・民族が一つになって取り組むことができるようにと込められている。

大会エンブレムとマスコットについて、ホノホン（アジア大会のマスコット）は選手の熱い心を示す炎としゃちほこ、ウズミン（アジアパラ大会）は物づくりを支える水としゃちほこが、それぞれモチーフとなっている。

### (2) 大会概要、競技スケジュールについて

第 20 回の開催で、国内では広島大会以来 36 年ぶりの開催となる。実施種目は 50 種目を予定しており、ロード種目については、道路使用の関係等があるためすでに決定した日程で行う。予定では、トラック競技について、ハーフマラソン競歩翌日の 9 月 24 日から始められたらと考えている。また、マラソン競技は男女のスタート時間を別々にしており、開始時刻も暑熱対策を考慮し計画している。

### (3) 会場の立地状況について

メイン競技場と練習会場について、美浜町→メイン会場（名古屋市）は約 1 時間、知多町→メイン会場は 20～30 分ほどかかる距離にある。

### (4) NT0 選考基準について

陸上競技では NAR として定義されているが、陸上競技以外にも統一し NT0 としている。審判員は愛知県内を中心に選考をしており、内々で 150 名確定しているが、現状は不足している。

### (5) アジア競技大会競技役員選考について

東海地区内で世界陸上を経験した審判員、JT0、Bronze Referee らとタッグを組んで進めていきたい。

### (6) テストイベントについて

トラックで実施していた愛知競歩競技会を、実際の競歩コースを利用して実施する予定。また、名古屋ウィメンズマラソンの一部でもテストイベントとして実施する。さらに、ジャパンパラ陸上競技大会および第 110 回日本選手権をメイン会場でのテストイベントとして参加する方向で進める。

## 11. 陸連事務局からの事務連絡

日本陸連 事務局肥田埜氏より陸上競技の安全・安心について説明がなされた。

- (1) 迷惑撮影対策に引き続きご協力をお願いしたい。各都道府県の大会では、迷惑撮影防止のポスター掲出、大型スクリーンやアナウンスでの周知をお願いしたい。
- (2) リレーや駅伝のユニフォームのルール解釈について、例えばリレーの走者ごとにユニフォームの形状やメーカーが異なっても、同じチームとして判別できれば良い。
- (3) 助力について、ロードレースでレースの続行が不可能なときに審判員が声をかけたり競技者の身体の一部に触れたりするのは助力ではないことについて、改めて認識いただきたい。
- (4) 日本陸連HPの「陸上安全ナビ」サイトの紹介。迷惑撮影対策のほかにドーピング、栄養、暑熱対策の情報が掲載されている。
- (5) 土日祝日の競技会でドーピング検査を想定していなかった競技会（大学の記録会等）で日本記録が樹立された場合、24時間以内にドーピング検査をおこなわなければならないので急遽対応が必要となるケースがある。2026年より土日祝日対応の電話番号を開設し対応していく。「陸上安全ナビ」サイトにも掲載した。なお、緊急時以外はメールで連絡されたい。
- (6) 世界陸上大会報告書を取りまとめて公開した。配布の資料から確認されたい。是非とも国内の大会に活かしていただけると願っている。

## 12. 事務連絡

- ①本会議の報告書は2月18日(水)に配信予定である。
- ②Zoomの録画データは本日中に事前配信フォルダに格納して共有予定である。

閉会

2026年度 日本陸上競技連盟競技規則 修改正案

2026.2.12

日本陸上競技連盟 競技運営委員会

(太字 : 修改正、追加、挿入 修改正前 : 削除 修改正前&修改正 : 移動)

【競技会規則 (CR)】

条文番号	修改正前	修改正
CR8.2 〔国際〕	<p>クロスカントリー競走・道路競走・マウンテンレース・トレイルランニングにおいて WA レフェリーが指名されたら、WA レフェリーは主催者に必要な支援を行う。</p> <p>…</p> <p>WA レフェリーに関する情報は WA のウェブサイトから入手可能な、the World Athletics Referee Guidelines から提供される。</p>	<p><b>道路競走、クロスカントリー、マウンテンレース・トレイルレース</b>において、WAレフェリーが指名されたら、WAレフェリーは主催者に必要な<b>サポート</b>を行う。</p> <p>…</p> <p>WA レフェリーに関する情報は、WA のウェブサイトから入手可能な the World Athletics <b>Gold Referee Guidelines</b> から提供される。</p>
CR9 見出し	WA 競歩審判員と JRWJ (日本陸連競歩審判員)	<b>WARWJ (WA 競歩審判員)</b> と JRWJ (日本陸連競歩審判員)
CR9 〔国内〕 3	CR34.4.6 および TR54.4.1〔国内〕i、ii 等 JRWJ を配置する必要がある時は、本連盟に事前に申告しなければならない。	CR34.4.6 および TR54.4.1〔国内〕i、ii 等 JRWJ を配置する必要がある時は、本連盟に事前に申告しなければならない。 <b>事前の申告に基づき、本連盟が有資格者の中から当該競技会に派遣した者が、当該競技会における JRWJ としての判定を行う。</b>
CR12	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)、(b)、(c) と 2. (a)、(b) に該当する競技会では、通常3人か5人、または7人からなるジュリーを任命する。	ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)、(b)、(c) と 2. (a)、(b) に該当する競技会では、通常3人か5人、または7人からなるジュリーを任命する <b>ことができる。</b>
CR18.1 <b>Green</b> (斜字)	<p>…より容易に解決される。</p> <p>スタート・インフォメーション・システム (SIS) を使用していない場合、さらには審判長がスタート手続き (100m、100/110m ハードル、200m) の後にフィニッシュを見る場所に移動する時間がなく、審判長が順位を決定しなくてはならない可能性がある場合、最良の解決策はスタート審判長としての任も兼ねるようスタートコーディネーター(スターターとして豊富な経験を持つ者であるべき)を任命することである。</p>	<p>…より容易に解決される。</p> <p>スタート・インフォメーション・システム (SIS) を使用していない場合、さらには審判長がスタート手続き (100m、100/110m ハードル、200m、<b>300mハードル</b>) の後にフィニッシュを見る場所に移動する時間がなく、審判長が順位を決定しなくてはならない可能性がある場合、最良の解決策はスタート審判長としての任も兼ねるようスタートコーディネーター(スターターとして豊富な経験を持つ者であるべき)を任命することである。</p> <p><b>熟慮すべき事案については、関係する審判長間で判定合意に達するよう努力する。但し、最終的な合意に至らない場合は、ビデオ審判長が利用可能なビデオ映像に基づいて最終決定を下す。尚、スタートに関する場合は、スタート審判長が最終決定を下す。</b></p>
CR22.4 〔注〕	200m、400m、400mハードル、4×100mリレー、4×200mリレー、メドレーリレー、4×400mリレー、4×400m男女混合リレーでは少なくとも2人のリコーラーをおくことが望ましい。	200m、 <b>300m</b> 、400m、400mハードル、4×100mリレー、 <b>4×100m男女混合リレー</b> 、4×200mリレー、メドレーリレー、4×400mリレー、4×400m男女混合リレーでは少なくとも2人のリコーラーをおくことが望ましい。
CR29 <b>Green</b> (斜字)	<p>競技者係は競技者が正しい組、レース、またはグループにいるか、また招集スケジュールに従って時間通りに競技エリアに向かっているかを確実にしなければならない。可能であれば、招集スケジュールは競技の各日の開始前に競技者とチームが確認できるようにする。</p>	<p>競技者係は競技者が正しい組、レース、またはグループにいるか、また招集スケジュールに従って時間通りに競技エリアに向かっているかを確実にしなければならない。可能であれば、招集スケジュールは競技の各日の開始前に競技者とチームが確認できるようにする。</p> <p><b>ギャザリングポイントが設けられている場合、すべての競技者はこの場所に集合しなければならない。ギャザリングポイントは招集所の一部とみなされ、すべての入室時刻は事前に選手およびチームに通知されるものとする。ギャザリングポイ</b></p>

		<p>ントでは、<b>競技者のビブス、荷物、その他関連する物の初期確認が行われることがある。競技者はギャザリングポイントから、担当する係員またはボランティアによってメインの招集場所へ案内され、そこで適用される規則および規程に従って最終確認が行われる。</b></p>
CR31.1	<p>…。TR9 の条件下で行われたフィールド種目と TR54、55 に従って競技場の外で行われた種目を除き、競技者の記録は男女混合の競技で樹立されたものは承認されない。</p>	<p>…。<b>TR9.4</b> の条件下で行われたフィールド種目と TR54、55 に従って競技場の外で行われた種目を除き、競技者の記録は<b>男女同時実施競技</b>で樹立されたものは承認されない。</p>
CR31.14.4	<p>以下の場合を除き、TR17.3 に違反したら、その記録は世界記録としては認められない。  (a) TR17.3.1 と 17.3.2 に該当する場合。  (b) TR17.3.3 と 17.3.4 が適用される場合で、当該種目での 1 回目の違反の場合。  あるいは、混成競技の個々の種目について TR39.8.3 で認められている不正スタート（1 回目の不正スタートの後の 2 回目以降のスタート）の場合。</p>	<p>以下の場合を除き、TR17.3 に違反したら、その記録は<b>世界記録としては認められない。</b>  (a) TR17.3.1 と 17.3.2 に該当する場合。  (b) TR17.3.3 と 17.3.4 が適用される場合で、当該種目での 1 回目の違反の場合。  あるいは、混成競技の個々の種目について TR39.8.3 で認められている不正スタート（1 回目の不正スタートの後の 2 回目以降のスタート）の場合。  <b>[注釈]</b>  <b>混成競技で 1 回目に不正スタートをした競技者が、2 回目のスタートで当該個別種目の世界記録を出しても、世界記録としては認められない。1 回目に不正スタートをしていない競技者が世界記録を出した場合は世界記録として認められる。尚、国内においては日本記録も同様の扱いとなるが、1 回目に不正スタートをした者でも、2 回目以降のスタートで出した記録は公認記録としては認められる。</b></p>
CR32 [注意]	<p>i 競歩競技と道路競技の 1 マイル（1 マイル（R））を除く女子の道路競走については、WA は男女混合レース（男女混合）で達成された世界記録と女子レース（女子単独）で達成された世界記録の二つの世界記録を公認する。</p> <p>女子の競歩競技については、男女混合レース（男女混合）または女子レース（女子単）のどちらかで達成された一つの世界記録を公認する。  <del>道路競走の 1 マイルについては、単一の性別者のみが出場したレースの記録を世界記録として公認する。</del></p> <p>ハーフマラソン競歩：  記録の初回認定は 2026 年 1 月 1 日とし、最初の世界記録認定にあたり、必要となる最低限の記録は 2025 年に公表される。</p> <p><del>35 km 競歩：  記録の初回認定は 2023 年 1 月 1 日とし、男子は 2 時間 22 分 00 秒以内の記録を対象とする。</del></p> <p>マラソン競歩：  記録の初回認定は 2026 年 1 月 1 日とし、最初の世界記録認定にあたり、必要となる最低限の記録は 2025 年に公表される。</p> <p>50,000m 競歩：記録の初回認定は 2019 年 1 月 1 日以降とし、4 時間 20 分 00 秒以内の記録を対象とする。</p>	<p>i 競歩競技と道路競技の 1 マイル（1 マイル（R））を除く女子の道路競走については、WA は男女混合レース（<b>Mx</b>）で達成された世界記録と女子レース（<b>Women only または Wo</b>）で達成された世界記録の二つの世界記録を公認する。  道路競走の 1 マイルについては、<b>男女混合レースまたは女子のみが出場した女子</b>レースの記録を、世界記録として公認する。  <b>この規則において、男女混合レースには TR9.1 による混合競技および TR9.3 による男女同時実施競技が含まれる。</b></p> <p>ハーフマラソン競歩：  記録の初回認定は 2026 年 1 月 1 日とし、<b>男子は 1:21:30 以内、女子は 1:30:30 以内の記録とする。</b></p> <p>（削除）</p> <p>マラソン競歩：  記録の初回認定は 2026 年 1 月 1 日とし、<b>男子は 2:56:30 以内、女子は 3:17:00 以内の記録とする。</b></p> <p>50,000m 競歩：記録の初回認定は 2019 年 1 月 1 日以降とし、4 時間 20 分 00 秒以内の記録を対象とする。</p>

	(新規追加)	<b>4×100m 男女混合リレー</b> : 記録の初回認定は、 <b>2026年1月1日以降とし、2025年末時点で認められている世界最高記録を上回っている記録とする。</b>
	4×400m <del>sh</del> 男女混合リレー : 記録の初回認定は、 <b>2025年3月1日以降とし、3分12秒44以内の記録を対象とする。</b>	4×400m <b>男女混合リレー</b> : 記録の初回認定は、 <b>2025年3月1日以降とし、3分12秒44以内の記録を対象とする。</b>
CR32	*男女混合種目(ユニバーサル種目)	*男女混合種目
CR34.4.6	競歩競技の日本記録については、少なくとも3人のJRWJ(日本陸連競歩審判員)以上の資格を持った競歩審判員が競技中歩型の判定を行い、日本記録申請書に署名しなければならない。	競歩競技の日本記録については、少なくとも3人のJRWJ(日本陸連競歩審判員) <b>またはWARWJ(WA競歩審判員)</b> として派遣された競歩審判員が <b>歩型判定</b> を行い、日本記録申請書に署名しなければならない。
CR34.10	(新規追加)	<b>300mハードル(国際基準)および4×100m男女混合リレーの日本記録の初回認定は2026年12月31日とする。</b>

### CR32 世界記録対象種目

種目		男子	女子	U20 男子	U20 女子	計時方法
リレー 競走	4×100m	○	○	○	○	写
	<b>4×100m 男女混合*</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>写</b>
	4×200m	○	○	—	—	写
	4×200m sh	○	○	—	—	写
	4×400m	○	○	○	○	写
	4×400m sh	○	○	—	—	写
	4×400m男女混合*	○	○	—	—	写
	4×400m sh 男女混合*	○	○	—	—	写
	4×800m	○	○	—	—	写・手
	4×800m sh	○	○	—	—	写・手
	4×1,500m	○	○	—	—	写・手
	ディスタンスメドレー	○	○	—	—	写・手

\*男女混合種目(ユニバーサル種目)

### CR34.10 日本記録・公認記録対象種目

種目		男子	女子	U20 男子	U20 女子	U18 男子	U18 女子	日本記録 計時方法	公認 男子	公認 女子	公認記録 計時方法
ハードル 競走	50mハードル	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	55mハードル	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	60mハードル	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手
	100mハードル	—	○	—	○	—	○	写	○	○	写・手
	110mハードル	○	—	○	—	○	—	写	○	○	写・手
	<b>300m ハードル(国際)*</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>写</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>写・手</b>
	300m ハードル(国内)**	—	—	○	○	○	○	写	○	○	写・手
	400mハードル	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手

\*ハードル7台、\*\*ハードル8台

種目		男子	女子	U20 男子	U20 女子	U18 男子	U18 女子	日本記録 計時方法	公認 男子	公認 女子	公認記録 計時方法
混成 競走	<b>中学四種競技</b>	—	—	—	—	—	—	—	○	○	<b>写・手</b>
	五種競技 sh	—	○	—	○	—	○	写	○	○	写・手
	七種競技	—	○	—	○	—	○	写	○	○	写・手
	七種競技 sh	○	—	○	—	○	—	写	○	○	写・手
	八種競技	—	—	—	—	○	—	写	○	○	写・手
十種競技	○	○	○	○	—	—	写	○	○	写・手	

種目		男子	女子	U20 男子	U20 女子	U18 男子	U18 女子	日本記録 計時方法	公認 男子	公認 女子	公認記録 計時方法
リ レ ー 競 走	4×100m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写・手
	4×100m男女混合	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	4×200m	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	4×200m sh	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	100+200+300+400m	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手
	4×400m	○	○	○	○	—	—	写	○	○	写・手
	4×400m sh	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	4×400m男女混合*	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	4×400m sh 男女混合*	○	○	—	—	—	—	写	○	○	写・手
	4×800m	○	○	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	4×800m sh	○	○	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	4×1,500m	○	○	—	—	—	—	写・手	○	○	写・手
	ディスタンスメドレー	—	—	—	—	—	—	—	○	○	写・手

\*男女混合種目(ユニバーサル種目) ※42.195 km

### 【競技規則 (TR)】

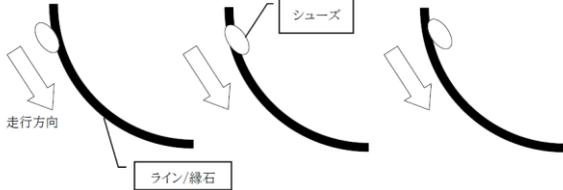
条文番号	修正前	修正
TR3 見出し	年齢と性別	年齢と性別カテゴリー
TR3.3	性別 この競技規則によって行われる競技会は、男子・女子・ユニバーサル(男女混合)に分類される。男女混合競技が競技場外で行われた場合、あるいはTR9に定めるものを例外として競技場内で行われた場合、競技結果を発表またはその他の方法で男女別に示す必要がある。ユニバーサル種目や競技会の結果は、一つの種目の分類として取り扱う。	性別カテゴリー この競技規則によって行われる競技は、男性・女性のカテゴリーに分類される。特定の競技区分に関する要件はTR9において規定される。
TR3.4	出生後から生涯を通じて常に男性として認められているか、TR3.6.1に該当しWA規則及び諸規程の資格を有している者は、男性(またはユニバーサル)の競技に出場する資格がある。	男性カテゴリーと女性カテゴリーにおける競技参加資格は、資格規定(the Eligibility Rules)により定められる。
TR3.5	出生後から生涯を通じて常に女性として認められているか、TR3.6.2に該当しWA規則及び諸規程の資格を有している者は、女性(またはユニバーサル)の競技に出場する資格がある。	(削除)
TR3.6	以下の資格を定める諸規程はカウンスルが承認する。 3.6.1 女性から男性に転換を行ったトランスジェンダーの男子競技への参加資格 3.6.2 男性から女性に転換を行ったトランスジェンダーの女子競技への参加資格 3.6.3 性分化疾患を持つ女性の女子競技への参加資格諸規程に合致しない、あるいは拒否した競技者は、競技に参加する資格を有しない。 〔注意〕 TR3.6の規定に違反した場合の制裁措置については、必要に応じてトランスジェンダー・アスリートの資格に関する規定または女性の分類に関する資格規定(Regulations for Transgender Athletes or Eligibility Regulations for the Female Classification)を参照すること。	(削除)

TR3.6 Green (斜字)	<del>ユニバーサル競技会とは、男性と女性が同じチームに含まれているリレーやチームの競技だけでなく、リザルトを男女別に分けることなしに男女が一緒に参加する競技も含まれる。</del>	(削除)
TR4.3	<b>同時申し込み</b> 競技者が同時に、トラック競技とフィールド競技あるいは2種目以上のフィールド競技に出場している場合には、審判長は…	<b>同時開催競技への申し込み</b> 競技者がトラック競技とフィールド競技の両方にエントリーしている場合、あるいはエントリーしている複数のフィールド競技が <b>同時に行われる</b> 場合、担当審判員は…
TR4.4 〔国際〕	ワールドランキングコンペティション定義1. (a)、(b)、(c) と 2. (a)、(b) に該当する全ての競技会においては、次の競技者はリレーも含む当該競技会で実施される全種目（当該競技者が同時にエントリーし参加している他の種目も含む）に以後、参加することは認められない。	ワールドランキングコンペティション定義1. (a)、(b)、(c) と 2. (a)、(b) に該当する全ての競技会においては、 <b>以下の場合には</b> 、競技者はリレー <b>競技</b> も含む当該競技会で実施される全種目（当該競技者が同時にエントリーし参加している他の種目も含む）に以後、参加することは認められない。
TR4.4 Green (斜字)	関連する審判長がそのような状況に気づき、レースを放棄した競技者が誠意を尽くして競技していないと確信を持った場合には、この競技者について該当するリザルト上に“DNF TR4.4.3”とする必要がある。	関連する審判長がそのような状況を <b>認識し</b> 、レースを放棄した競技者が誠意を尽くして競技 <b>していなかった</b> と確信した場合には、この競技者について関連するリザルト上に“DNF TR4.4.3”と <b>記載</b> する必要がある
TR5.1 Green (斜字)	(新規追加)	<b>競歩競技では、競技者は膝の部分が完全にはつきりと見える服装を着用しなければならない。但し、脚にぴったりとフィットするロングタイツの着用は認められる。</b>
TR5.2 Green (斜字)	(新規追加)	<b>靴検査に関しては、WAのウェブサイトからダウンロードできるthe Shoe Control Guidelines（靴検査ガイドライン）に具体的な情報が記載されている。特に、靴検査中に靴底の厚さを計測することは想定していない。</b>
TR5.2 〔国内〕	(新規追加)	<b>駅伝競走は道路競走種目と同じ（靴底の最大の厚さ：40mm）とする。但し、競技会レベルに応じて主催者が適用・非適用を判断することは妨げない。</b>
TR7.1	競技者およびリレー・チームは、誠実に力を尽くして陸上競技会に参加しなければならない。反スポーツマンシップ行為や不適切な行為を行ってはならない。当該規則に従わない競技者およびリレー・チームは、警告を受けるか失格となる場合がある。 …	競技者およびリレー・チームは、誠実に力を尽くして陸上競技会に参加しなければならない。反スポーツマンシップ行為や不適切な行為を行ってはならない。 <b>本規則に従わない競技者またはリレー・チームには、警告または失格が科せられる</b> 場合がある。 …
TR7.1 Green b (斜字)	レッドカードの前に、イエローカードが出されているのが一般的であり通常想定されることであるが、特に悪質な反スポーツ的または不適切な行為、または誠実な態度で競技に参加しなかった場合には、即時に（イエローなしで）レッドカードを出すことができる。	レッドカードの前に、イエローカードが <b>与えられる</b> のが一般的であり、通常想定されることであるが、特に悪質な反スポーツ的または不適切な行為、 <b>あるいは誠実な努力をせずに競技に参加した場合には、直ちに</b> （イエローなしで）レッドカードを出すことができる。
TR7.3	…。 この失格により、その競技会における以後の全ての種目やラウンド（混成競技の個々の種目や、同時に参加している他の種目やリレーも含まれる）から除外される。	…。 この失格により、 <b>当該競技者</b> はその競技会における <b>それ以降</b> の全ての <b>競技</b> やラウンド（混成競技の個々の種目や、同時に参加している他の <b>競技</b> やリレーも含まれる）から除外される。
TR7.5 Green (斜字)	TR7.3はリレー競技中に2回目の警告を受けた競技者、または、リレー競技で当該チームの失格につながる除外を直接受けた競技者にも適用される。	TR7.3はリレー競技中に2回目の警告を受けた <b>競技者</b> 、または、リレー競技で当該チームの失格につながる除外を直接受けた <b>競技者</b> にも適用される。 <b>以下の例は、リレー競技でイエローカードを受けた場合の潜在的な影響をさらに明確に示したものである。</b>

		<p>例1:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技者Aが個人種目でイエローカードを受けた</li> <li>・競技者Aがリレー競技でさらにイエローカードを受けた</li> <li>→ 選手Aはレッドカード（イエローカード2枚）、リレー・チームは失格</li> </ul> <p>例2:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手Aが個人種目でイエローカードを受けた</li> <li>・選手Bがリレー競技でイエローカードを受けた</li> <li>→ それ以上の措置は取られない</li> </ul> <p>例3:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手Aが個人種目でイエローカードを受けた</li> <li>・選手Bがリレー競技でイエローカードを受けた</li> <li>・選手Cが同じリレー競技でイエローカードを受けた</li> <li>→ リレー・チームはレッドカード（イエローカード2枚）を受け、失格となるが、個人選手は他の種目に出場できる</li> </ul>
TR8.7	<p>...</p> <p>上訴は競技者、競技者の代理人、またはチームの代表者によって署名された文書により、預託金10,000円（国際競技会においては100米ドルまたは相当額）を添えて行われなければならない。</p>	<p>...</p> <p>上訴は競技者、競技者の代理人、またはチームの代表者によって署名された文書により、預託金 <b>20,000</b> 円（国際競技会においては 100 米ドルまたは相当額）を添えて行われなければならない。</p>
TR9 見出し	男女混合の競技	競技の区分
TR9.1	<p>加盟団体の規則が適用されていれば、男女が一緒に競うリレーや男女混合チームで行う競技、男女が一つのカテゴリで行う種目などの男女混合競技を行うことができる。</p>	<p>この規則の下では以下の競技区分を適用することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男子競技</li> <li>・女子競技</li> <li>・男女混合競技</li> </ul> <p>男女混合競技とは、男子および女子と一緒に参加し、成績が男女別に分類されない競技、または男子および女子が同一チームを構成するリレー競技や団体競技のことをいう。</p> <p>[注] 男女混合競技は、加盟団体が定める規則に従って認められる。</p>
TR9.1 Green (斜字)	(新規)	<p><b>TR3</b> において定義される男子および女子のカテゴリは、競技者の競技参加資格を示すものである。一方、<b>TR9.1</b> において定義される競技の分類は、競技結果の分類を示すものである。競技分類には、男子のみ、女子のみ、または男女混合の分類が設けられる場合がある。</p>
TR9.2	(新規)	<p><b>TR3.3</b> および <b>3.4</b> に基づき男子カテゴリにおいて競技する資格を有する競技者は、男子競技または男女混合競技に分類されるものとする。同条に基づき女子カテゴリにおいて競技する資格を有する競技者は、女子競技または男女混合競技に分類されるものとする。</p>
TR9.2 Green (斜字)	(新規)	<p>男女混合競技においては、男子競技者および女子競技者が一緒に、単一の競技区分として競技を行う。</p>
TR9.3	(新規)	<p>男女同時実施競技 男女同時実施競技とは、男女が共に参加し、男子および女子のそれぞれの成績が個別に分類される競技を対象とする。</p>
TR9.2 ↓ TR9.4	<p><b>TR9.1</b>以外のその他の競技会で競技場内のみで行う競技では、男女混合の種目は通常では認めない。</p>	<p>競技場内のみで行われる男女同時実施競技は、原則として認められない。</p>

	<p>但し、以下の場合には認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドランキング競技会定義1. (a)、(b)、(c) と 2. (a)、(b)、(c)の競技会において、当該種目に当該規則を適用することが規定されているフィールド競技。</li> <li>・ワールドランキング競技会定義1. (d)、(e) と 2. (d)、(e) の競技会におけるフィールド競技と、TR 9.2.1 に基づいて行うことを所管するエリア陸連が特に許可している5000m以上のレース。</li> <li>・ワールドランキング競技会定義3.の競技会におけるフィールド競技と、TR 9.2.1 に基づいて行うことを所管する各国陸連が特に許可している5000m以上のレース。</li> </ul>	<p>但し、以下の場合には認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドランキング競技会定義1. (a)、(b)、(c) と 2. (a)、(b)、(c)の競技会において、当該種目に当該規則を適用することが規定されているフィールド競技。</li> <li>・ワールドランキング競技会定義1. (d)、(e) と 2. (d)、(e) の競技会におけるフィールド競技と、TR9.4.1 に基づいて行うことを所管するエリア陸連が特に許可している5000m以上のレース。</li> <li>・ワールドランキング競技会定義 3.の競技会におけるフィールド競技と、TR9.4.1 に基づいて行うことを所管する各国陸連が特に許可している 5000m 以上のレース。</li> </ul>
<p>TR9.2.1 ↓ TR9.4.1</p>	<p>競技場内で行う5000 m以上の競技で、男女のいずれかまたは男女ともに男女別に競技を実施するのに十分な人数がそろわず、男女別々での実施が非効率的である場合。 競技結果には男女の別を表示しなければならない。こうした競技では、いかなる場合でも、他の性別の競技者がペースメイクをしたり、助力をしたりするような行為は許されない。</p>	<p><b>5000 m以上の競技で、競技場内で男女同時実施競技を実施することは、原則として認められない。但し、男女のいずれかまたは男女ともに男女別に競技を実施するのに参加人数が少なく、男女別々での実施が非効率的である場合に限り、男女同時実施競技を実施することが認められる。</b> 競技結果は男女別に分類され、各競技者の性別を表示しなければならない。なお、いかなる場合でも他の性別の競技者がペースメイクをしたり、助力をしたりするような行為は許されない。</p>
<p>TR9.2.2 ↓ TR9.4.2</p>	<p>フィールド競技では、男女が同時に同じ場所で同じ種目を行うことができる。その際には…、TR26～28は厳格に適用されなければならない。</p>	<p>フィールド競技における男女同時実施競技では、男女が同時に同じ場所で同じ種目を行うことができる。その際には、…TR26～28は厳格に適用されなければならない。</p>
<p>TR9.2 Green (斜字) ↓ TR9.4 Green (斜字)</p>	<p>TR9.2.1の目的は男女のいずれかまたは…作り出すことではない。 男女混合競技とは以下の競技である。</p> <p>a. すべての国内競技会においては、フィールド競技およびTR9.2.1に従って行われる5000m以上のレースで所管する各国陸連によって特別に許可されている競技。(エリア陸連からの追加の許可は必要ない)</p> <p>b. ワールドランキングコンペティション定義 1. (d)、(e) と 2.(d)、(e) に該当する競技会においては、フィールド競技および所管するエリア陸連によって特別に許可されているTR9.2.1に従って行われる5000m以上のレース。</p> <p>c. ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)、(b)、(c) と…規定されていなければ認められない。 男女混合競技での世界記録の公認には制限がある。…についての指針を提供する。 (CR25.2、25.3も参照)</p>	<p>TR 9.4.1の目的は、男女のいずれかまたは…作り出すことではない。 <b>男女同時実施競技</b>とは以下の競技である。</p> <p>a. すべての国内競技会においては、フィールド競技およびTR9.4.1に従って行われる5000m以上のレースで所管する各国陸連によって特別に許可されている競技。(エリア陸連からの追加の許可は必要ない)</p> <p>b. ワールドランキングコンペティション定義 1. (d)、(e) と 2.(d)、(e) に該当する競技会においては、フィールド競技および所管するエリア陸連によって特別に許可されているTR9.4.1に従って行われる5000m以上のレース。</p> <p>c. ワールドランキングコンペティション定義 1. (a)、(b)、(c) と…規定されていなければ認められない。 <b>男女同時実施競技</b>での世界記録の公認には制限がある。…についての指針を提供する。 (CR25.2、25.3も参照)</p>
<p>TR14.1 〔国内〕 1</p>	<p>メイントラックを離れる障害物競走とグループ・スタートでは、代用縁石を置くものとする。</p>	<p>メイントラックを離れる障害物競走とグループ・スタートで <b>300mm 外側を計算された競技場</b>では、代用縁石を置くものとする。</p>
<p>TR14.2 〔国内〕 2</p>	<p>国内の競技場では代用縁石を置くことから、これを縁石とみなし、300mm外方を測る。</p>	<p>国内の競技場では代用縁石を置く<b>ところは縁石とみなし、300mm外方を測る。</b></p>
<p>TR15.1 Green (斜字)</p>	<p>(新規追加)</p>	<p><b>厳密に言えば、スターティングブロックのいかなる部分もスタートラインと重なってはならないという要件には、フレームも含まれる。</b></p>

<p>TR16.5</p>	<p>…</p> <p>スターターは下記の行為を競技者が行ったら、スタートを中止しなければならない。</p> <p>16.5.1 「On your marks (位置について)」または「Set (用意)」の合図の後で、信号器発射の前に正当な理由もなく手を挙げたり、クラウチングの姿勢から立ち上がった時(理由の正当性は審判長によって判断される)。</p> <p>16.5.2 「On your marks (位置について)」または「Set (用意)」の合図に従わない、あるいは遅れることなく速やかに最終の用意の位置につかなかったとスターターが判断した時。</p> <p>16.5.3 「On your marks (位置について)」または「Set (用意)」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者の妨害をし、その結果、その競技者が他の競技者の不正スタートを生じさせた時。</p> <p>この場合、審判長はTR7.1ならびに7.3に従い、不適切行為があったとして当該競技者に対して警告を与えることができる(同じ競技会の中で2度の規則違反があった場合は失格となる)。この際、グリーンカードを示してはならない。スタート中断の原因が競技者の責任でないと考えられる場合、あるいは審判長がスターターの判断に同意できない場合は、競技者全員にグリーンカード(旗)を提示して不正スタートを犯した者がいないことを示す。</p>	<p>…</p> <p>スターターは下記の行為を競技者が行ったら、スタートを中止しなければならない。</p> <p>16.5.1 「On your marks (位置について)」または「Set (用意)」の合図の後で、信号器発射の前に正当な理由もなく手を挙げたり、クラウチングの姿勢から立ち上がった時(理由の正当性は審判長によって判断される)。</p> <p>16.5.2 「On your marks (位置について)」または「Set (用意)」の合図に従わない、あるいは遅れることなく速やかに最終の用意の位置につかなかったとスターターが判断した時。</p> <p>16.5.3 「On your marks (位置について)」または「Set (用意)」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者の妨害した時(その行為が実際に不正スタートにつながらなかった場合も含む)。</p> <p><b>TR16.5.1または16.5.2に該当する場合、</b>審判長はTR7.1ならびに7.3に従い、当該競技者に対して<b>不適切な行為を行って</b>警告を与えることができる(同じ競技会の中で2度の違反があった場合は失格となる)。この際、グリーンカードを示してはならない。</p> <p><b>TR16.5.3の場合、ある競技者の動作または行動が他の競技者に不正スタートとなるような動作を誘発させた場合、</b>審判長はTR7.1ならびに7.3に従い、当該競技者に対して警告を与えることができる(2回目の違反の場合は失格)。そうでない場合は、グリーンカードを提示する。但し、複数回のスタート中止において同一競技者が繰り返し動作を行った場合、他の競技者に不正スタートとなるような動作を誘発しなかったとしても、審判長はTR 7.1ならびに 7.3に従い、違反行為を行った競技者に警告を与えることができる(2回目の違反の場合は失格)。スタート中断の原因が競技者の責任でないと考えられる場合、あるいは審判長がスターターの<b>決定</b>に同意できない場合は、競技者全員にグリーンカードを提示して不正スタートを犯した者がいないことを示さなければならない。グリーンカードに代わり、ワイドスクリーンや専用モニターの使用、スピーカーによる伝達、ライトタワーや類似の装置の使用など、視覚的または聴覚的な代替表示の使用を認めることができる。こうした代替表示を使用する際の手順は、総務、スタート審判長等の関係する審判員(〔国際〕技術代表、スタート審判、イベントプレゼンテーションマネージャー)の間で調整した後、中継を行う放送局に通知する必要がある。</p>
<p>TR16.8 [注]</p>	<p>…</p> <p>スタートのリコールや中止した理由がどの競技者の責にも帰すべきものでなければ、警告は与えないでグリーンカード(旗)を競技者全員に見せる。</p>	<p>…</p> <p>スタートのリコールや中止した理由がどの競技者の責にも帰すべきものでなければ、警告は与えないでグリーンカードを競技者全員に見せる。</p> <p>カードに代わり、ワイドスクリーンや専用モニターの使用、スピーカーによる伝達、ライトタワーや類似の装置の使用など、視覚的または聴覚的な代替表示の使用を認めることができる。こ</p>

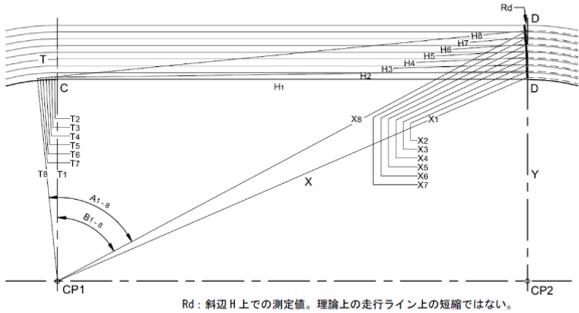
		うした代替表示を使用する際の手順は、総務、スタート審判長等の関係する審判員（〔国際〕技術代表、スタート審判、イベントプレゼンテーションマネージャー）の間で調整した後、中継を行う放送局に通知する必要がある。
TR16.9	… レーンナンバー標識が使用される場合には、不正スタートの責任を有する競技者にカードが示されたら、レーンナンバー標識にも同様の表示を行う。	… レーンナンバー標識が使用される場合には、不正スタートの責任を有する競技者にカードが示されたら、レーンナンバー標識にも同様の表示を行う。 カードに代わり、ワイドスクリーンや専用モニターの使用、スピーカーによる伝達、ライトタワーや類似の装置の使用など、視覚的または聴覚的な代替表示の使用を認めることができる。こうした代替表示を使用する際の手順は、総務、スタート審判長等の関係する審判員（〔国際〕技術代表、スタート審判、イベントプレゼンテーションマネージャー）の間で調整した後、中継を行う放送局に通知する必要がある。
TR17.3 〔注釈〕	1回の違反であっても、有利な位置取りをするために行った場合や他の競技者を妨害した場合は、直ちに失格となる。	i 曲走路の内側を踏んだかどうかの判定は、一歩の中で接地から離地までの間に一瞬でも内側のラインに触れていれば違反とは見なさない。一歩の動き（接地から離地まで）をよく監察する必要がある。  <違反とならないケース>   ii 1回の違反であっても、有利な位置取りをするために行った場合や他の競技者を妨害した場合は、直ちに失格となる。
TR17.5.1 〔国内〕 ii	800m競走でブレイクラインまでレーンを走る場合のスタート位置は二つの要素に注意しなければならない。 第1に、適用する通常の階段式差は200m競走の場合と同じである。 第2に、外側のレーンの走者のためにバック・ストレートの終端でほぼ同じ距離となるように、内側のレーンの走者よりも各レーンのスタートの位置を順次前に出して調節することである。各レーンのスタート位置については、次の方法が望ましい。	800m競走でブレイクラインまでレーンを走る場合のスタート位置は二つの要素に注意しなければならない。 第1に、適用する通常の階段式差は200m競走の場合と同じである。 第2に、外側のレーンの走者のためにバック・ストレートの終端でほぼ同じ距離となるように、内側のレーンの走者よりも各レーンのスタートの位置を順次前に出して調節することである。各レーンのスタート位置については、次の方法とする。 【グループスタートの第2グループを200mm外方スタートラインとした時の全天候舗装競技場の場合】 (1) レーンのブレイクライン (X1) は、内側の縁石の外端から 300 mmの地点。 (2) 第2レーンから一番外側のレーンまでは、1レーンのC点先の曲走路の周りの300 mmの測定線に沿ってカーブを十分に回り込むように、ブレイクラインの外側の端から曲走路の接線点から決まる。

	<p>(1) B1点は、内側のレーンのバック・ストレートの入口で、内側の縁石の外端から300mmの地点。</p> <p>(2) 定点Yは、AB1の延長線で一番外側のレーンの、そのレーンの内側のラインから200mmの地点。</p> <p>(3) 定点Cは、バック・ストレートの終点、即ち、次の曲走路の始まる所で内側の縁石の外端から300mm。</p> <p>(4) CB1を半径としてトラックに弧B1Xを引く。このラインは、トラックに幅50mmで示す。</p> <p>(5) 第2レーンから一番外側のレーンまでは、B1Xと各レーンの内側から 200mmの点の交点により決める。</p> <p>スタートの位置の正確な調節は次の方法で決定する。</p> <p>800m競走における各レーンのスタートの位置は、B1Yから各レーンの終わり(B2~B8)までの距離を前に出さなければならない。</p> <p>各レーンの正当なスタートの位置を前に出す距離は、レーンの幅が1 m220、直線の長さ80mとすると、次の数値になる。</p> <table border="1" data-bbox="319 1769 893 1926"> <tr> <td>第1レーン</td> <td>0</td> <td>第2レーン</td> <td>8mm</td> </tr> <tr> <td>第3レーン</td> <td>34mm</td> <td>第4レーン</td> <td>79mm</td> </tr> <tr> <td>第5レーン</td> <td>143mm</td> <td>第6レーン</td> <td>225mm</td> </tr> <tr> <td>第7レーン</td> <td>326mm</td> <td>第8レーン</td> <td>446mm</td> </tr> <tr> <td>第9レーン</td> <td>585mm</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	第1レーン	0	第2レーン	8mm	第3レーン	34mm	第4レーン	79mm	第5レーン	143mm	第6レーン	225mm	第7レーン	326mm	第8レーン	446mm	第9レーン	585mm		
第1レーン	0	第2レーン	8mm																		
第3レーン	34mm	第4レーン	79mm																		
第5レーン	143mm	第6レーン	225mm																		
第7レーン	326mm	第8レーン	446mm																		
第9レーン	585mm																				
TR17.5.2 〔国内〕	<p>第1グループと第2グループの走路の間には代用縁石を置き、二つに分ける。合流地点には他とは異なる彩色の代用縁石を置く。</p>																				

スタートの位置の正確な調節は次の方法で決定する。

800m競走における各レーンのスタートの位置をB-B線上より前に出さなければならない。各レーンのスタートの位置を前に出す距離は、レーンの幅が1 m220、直線の長さ 80mとすると、次の数値になる。

第1レーン	0	第2レーン	8 mm
第3レーン	34 mm	第4レーン	79 mm
第5レーン	141 mm	第6レーン	222 mm
第7レーン	321 mm	第8レーン	437 mm
第9レーン	571 mm		



全天候舗装競技場の場合のブレイクラインは、当該箇所またはトラックの改修および公認満了2032年年3月31日までの検定までに適用する。それまでは土質競技場の場合を適用する。

**【土質競技場の場合】**

- (1) 1レーンのブレイクライン (B1) 点は、内側の縁石の外端から300mmの地点。
- (2) C点は、バック・ストレートの終点、即ち、次の曲走路の始まる所で内側の縁石の外端から300mm。
- (3) 第2レーンから一番外側のレーンまでは、C点よりCB1を半径として、B1Xと各レーンの内側から 200mmの点の交点により決める。

スタートの位置の正確な調節は次の方法で決定する。

800m競走における各レーンのスタートの位置をB1Yから各レーンの終わり(B2~B8)までの距離を前に出さなければならない。各レーンの正当なスタートの位置を前に出す距離は、レーンの幅が1 m220、直線の長さ80mとすると、次の数値になる。

第1レーン	0	第2レーン	8mm
第3レーン	34mm	第4レーン	79mm
第5レーン	143mm	第6レーン	225mm
第7レーン	326mm	第8レーン	446mm
第9レーン	585mm		

i 第1グループと第2グループの走路の間には代用縁石を置き、二つに分ける。合流地点には他とは異なる彩色の代用縁石を置く。

		<p><b>ii 第2グループのスタートは、第1グループと第2グループの走路の間のラインの外端から200mm外方を測り、ライン上に150mm～500mmの高さのコーンを置く。(200mm外方スタートライン) 当該箇所またはトラックの改修および公認満了2032年3月31日までの検定までに適用する。</b></p>
TR19.13.1	<p>当該システムは、フィニッシュラインの延長線上に設置されたカメラを通してフィニッシュを記録し、合成画像を生成できるものでなければならない。</p> <p>a. ワールドランキングコンペティション定義1.および2. に該当する競技会の場合、合成画像は1秒あたり少なくとも1,000枚の画像から合成されなければならない。</p> <p>b. その他の競技会の場合、合成画像は1秒あたり少なくとも100枚の画像から合成されなければならない。</p> <p>いずれの場合においても、画像は0.01秒毎に均等に目盛りされた時間尺度と同期していなければならない。</p>	<p>当該システムは、フィニッシュラインの延長線上に設置されたカメラを通してフィニッシュを<b>撮影</b>し、合成画像を生成できるものでなければならない。</p> <p>a. ワールドランキングコンペティション定義1.および2. に該当する競技会の場合、<b>この</b>合成画像は1秒あたり少なくとも1,000<b>フレームで撮影</b>されなければならない。</p> <p>b. その他の競技会の場合、<b>この</b>合成画像は1秒あたり少なくとも100<b>フレームで撮影</b>されなければならない。</p> <p>いずれの場合においても、画像は0.01秒毎に均等に目盛りされた時間尺度(<b>タイムスケール</b>)と同期していなければならない。</p>
TR20.2.1	<p>〔国際－注意〕</p> <p>i あらかじめ競技注意事項等で規定されていない場合や主催者が決めていない場合には、WAのウェブサイトに掲載されている組分け方法(テーブル)を使用してもよい。</p> <p>ii 準決勝および決勝において棄権により空いたレーンについて、前ラウンドで当該ラウンドに進出する資格を獲得した競技者の次にランク付けされた者で補充することを、適用する規則で定めることができる。</p>	<p>〔国際－注意〕</p> <p>i あらかじめ競技注意事項等で規定されていない場合や主催者が決めていない場合には、WAのウェブサイトに掲載されている組分け方法(テーブル)を使用してもよい。</p> <p><b>ii 技術代表または主催者は、競技内容の充実を図るために、あるいは、競技者にとってより良い競技条件を提供することが適切であると判断した場合、これらの組分け表(テーブル)を使用しなくてもよい。</b></p> <p>iii 準決勝および決勝において棄権により空いたレーンについて、前ラウンドで当該ラウンドに進出する資格を獲得した競技者の次にランク付けされた者で補充することを、適用する規則で定めることができる。</p>
TR20.2.2	<p>各国または各チームの競技者および最も良い記録を持つ競技者は、競技会の予選ラウンドにおいて可能な限り異なった組に入れる。最初のラウンド後、この規則を適用するにあたっては、各組間で競技者の交換が必要な場合は可能な範囲で、TR20.4.3～20.4.5に従い同じ「ランクの競技者(レーン・グループ)」間で行なう。</p>	<p>各国または各チームの競技者および最も良い記録を持つ競技者は、競技会の予選ラウンドにおいて可能な限り異なった組に入れる。最初のラウンド後、この規則を適用するにあたっては、各組間で競技者の交換が必要な場合は可能な範囲で、TR20.4.3～<b>20.4.8</b>に従い同じ「ランクの競技者(レーン・グループ)」間で行なう。</p>
TR20.2.3 b	<p>以降のラウンドでは、TR20.4.3～20.4.5に従って同じ「レーングループ」に編成された…</p>	<p>以降のラウンドでは、TR20.4.3～<b>20.4.8</b>に従って同じ「レーングループ」に編成された…</p>
TR20.4.3	<p>直線種目(100m・100mH・110mH等)</p> <p>上位グループ 3・4・5・6レーン</p> <p>中位グループ 2・7レーン</p> <p>下位グループ 1・8レーン</p>	<p>直線種目(100m・100mH・110mH等) <b>〔8レーン使用時〕</b></p> <p><b>1～4位</b>グループ 3・4・5・6レーン</p> <p><b>5・6位</b>グループ 2・7レーン</p> <p><b>7・8位</b>グループ 1・8レーン</p>
TR20.4.4	<p>200m競走</p> <p>上位グループ 5・6・7レーン</p> <p>中位グループ 3・4・8レーン</p> <p>下位グループ 1・2レーン</p>	<p>200m競走・<b>300m競走</b> <b>〔8レーン使用時〕</b></p> <p><b>1～3位</b>グループ 5・6・7レーン</p> <p><b>4～6位</b>グループ 3・4・8レーン</p> <p><b>7・8位</b>グループ 1・2レーン</p>
TR20.4.5	<p>400m競走・スタート時にレーンを使用する</p> <p>800m競走・4×400mまでのリレー競走</p> <p>上位グループ 4・5・6・7レーン</p> <p>中位グループ 3・8レーン</p> <p>下位グループ 1・2レーン</p>	<p>400m競走・スタート時にレーンを使用する</p> <p>800m競走・4×400mまでのリレー競走 <b>〔8レーン使用時〕</b></p> <p><b>1～4位</b>グループ 4・5・6・7レーン</p> <p><b>5・6位</b>グループ 3・8レーン</p> <p><b>7・8位</b>グループ 1・2レーン</p>

TR20.4.6	(新規追加)	<p>[国際] 直線種目(100m・100mH・110mH等) [9レーン使用時]</p> <p>1～3位グループ 4・5・6レーン 4・5位グループ 3・7レーン 6・7位グループ 2・8レーン 8・9位グループ 1・9レーン</p>														
TR20.4.7	(新規追加)	<p>[国際] 200m競走・300m競走 [9レーン使用時]</p> <p>1～4位グループ 5・6・7・8レーン 5～7位グループ 3・4・9レーン 8～9位グループ 1・2レーン</p>														
TR20.4.8	(新規追加)	<p>[国際] 400m競走・スタート時にレーンを使用する 800m競走・4×400mまでのリレー競走 [9レーン使用時]</p> <p>1～3位グループ 5・6・7レーン 4・5位グループ 4・8レーン 6・7位グループ 3・9レーン 8・9位グループ 1・2レーン</p>														
TR20.4 〔国内〕		<p>i TR20.4.3～20.4.5 の考え方に加え、以下の考え方を適用しても良い。[8レーン使用時]</p> <table border="1" data-bbox="970 864 1497 965"> <tr> <td>1～4位グループ</td> <td>3・4・5・6レーン</td> </tr> <tr> <td>5・6位グループ</td> <td>7・8レーン</td> </tr> <tr> <td>7・8位グループ</td> <td>1・2レーン</td> </tr> </table> <p>ii TR20.4.6～20.4.8 の考え方に加え、以下の考え方を適用しても良い。[9レーン使用時]</p> <table border="1" data-bbox="970 1037 1497 1171"> <tr> <td>1～4位グループ</td> <td>4・5・6・7レーン</td> </tr> <tr> <td>5・6位グループ</td> <td>8・9レーン</td> </tr> <tr> <td>7・8位グループ</td> <td>2・3レーン</td> </tr> <tr> <td>9位または救済</td> <td>1レーン</td> </tr> </table>	1～4位グループ	3・4・5・6レーン	5・6位グループ	7・8レーン	7・8位グループ	1・2レーン	1～4位グループ	4・5・6・7レーン	5・6位グループ	8・9レーン	7・8位グループ	2・3レーン	9位または救済	1レーン
1～4位グループ	3・4・5・6レーン															
5・6位グループ	7・8レーン															
7・8位グループ	1・2レーン															
1～4位グループ	4・5・6・7レーン															
5・6位グループ	8・9レーン															
7・8位グループ	2・3レーン															
9位または救済	1レーン															
TR20.4 Green (斜字)	<p>[注意] iiiに関しては、競技場に8レーンよりもレーンが多い場合は、技術代表が(いない場合は主催者が)この目的のためにどのレーンを使用するのかを事前に決定する必要がある。例えば9レーンの周回トラックの場合、9名未満の競技者が競技に参加する時、第1レーンは使用しない。従って、TR20.4の目的のために第2レーンは第1レーンとみなされ、以下同様である。</p>	<p>[注意] iiiに関しては、<b>競技に出場する競技者数よりもレーンの数が多い場合(競技者のエントリー数または当該競技会の規則に定められている場合)</b>、技術代表が(いない場合は主催者)、この目的のためにどのレーンを使用するかを事前に決定する必要があり、上記の考え方の原則に必要な修正を加えて適用する。 例えば、9レーンの周回トラックの場合、9名未満の競技者が競技に参加する場合、第1レーンは使用しない。従って、<b>TR20.4.3から20.4.5を適用し</b>、第2レーンは第1レーンとみなされ、以下同様である。</p>														
TR22.1	<p>ハードル競走の標準の距離は、次の通りとする。 男子(一般、U20、U18)：110m、400m 女子(一般、U20、U18)：100m、400m 各レーンには、次のように10台のハードルを配置する。</p>	<p>ハードル競走の標準の距離は、次の通りとする。 男子(一般、U20、U18)：110m、<b>300m</b>、400m 女子(一般、U20、U18)：100m、<b>300m</b>、400m</p> <p>100m、110m、400mでは、各レーンに10台のハードルを設置する。<b>300mでは各レーンに国際基準では7台、国内基準では8台のハードルを設置する。</b></p>														

	<p><b>男子</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>距離</th> <th>スタートラインから 第1ハードルまでの距離</th> <th>ハードル間の距離</th> <th>最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>110m</td> <td>13m720</td> <td>9m140</td> <td>14m020</td> </tr> <tr> <td>400m</td> <td>45m</td> <td>35m</td> <td>40m</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>女子</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>距離</th> <th>スタートラインから 第1ハードルまでの距離</th> <th>ハードル間の距離</th> <th>最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100m</td> <td>13m</td> <td>8m500</td> <td>10m500</td> </tr> <tr> <td>400m</td> <td>45m</td> <td>35m</td> <td>40m</td> </tr> </tbody> </table>	距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離	110m	13m720	9m140	14m020	400m	45m	35m	40m	距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離	100m	13m	8m500	10m500	400m	45m	35m	40m	<p><b>男子</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>距離</th> <th>スタートラインから 第1ハードルまでの距離</th> <th>ハードル間の距離</th> <th>最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>110m</td> <td>13m720</td> <td>9m140</td> <td>14m020</td> </tr> <tr> <td>*300m</td> <td>50m</td> <td>35m</td> <td>40m</td> </tr> <tr> <td>**300m</td> <td>45m</td> <td>35m</td> <td>10m</td> </tr> <tr> <td>400m</td> <td>45m</td> <td>35m</td> <td>40m</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>女子</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>距離</th> <th>スタートラインから 第1ハードルまでの距離</th> <th>ハードル間の距離</th> <th>最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100m</td> <td>13m</td> <td>8m500</td> <td>10m500</td> </tr> <tr> <td>*300m</td> <td>50m</td> <td>35m</td> <td>40m</td> </tr> <tr> <td>**300m</td> <td>45m</td> <td>35m</td> <td>10m</td> </tr> <tr> <td>400m</td> <td>45m</td> <td>35m</td> <td>40m</td> </tr> </tbody> </table> <p>*国際基準 **国内基準</p>	距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離	110m	13m720	9m140	14m020	*300m	50m	35m	40m	**300m	45m	35m	10m	400m	45m	35m	40m	距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離	100m	13m	8m500	10m500	*300m	50m	35m	40m	**300m	45m	35m	10m	400m	45m	35m	40m																										
距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離																																																																																									
110m	13m720	9m140	14m020																																																																																									
400m	45m	35m	40m																																																																																									
距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離																																																																																									
100m	13m	8m500	10m500																																																																																									
400m	45m	35m	40m																																																																																									
距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離																																																																																									
110m	13m720	9m140	14m020																																																																																									
*300m	50m	35m	40m																																																																																									
**300m	45m	35m	10m																																																																																									
400m	45m	35m	40m																																																																																									
距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離																																																																																									
100m	13m	8m500	10m500																																																																																									
*300m	50m	35m	40m																																																																																									
**300m	45m	35m	10m																																																																																									
400m	45m	35m	40m																																																																																									
<p>TR22.1 〔国内〕 2</p>	<p>300mハードルは、次の規定によって実施する。  <u>スタート位置</u> : 300mのスタートラインに同じ  <u>スタート～第1ハードルの距離</u> : 45m  <u>ハードル間の距離</u> : 35m  <u>第8ハードル～フィニッシュラインの距離</u> : 10m</p>	<p>(上記表に移動)</p>																																																																																										
<p>TR22.3</p>	<p>ハードルの標準の高さは、次の通りとする。</p> <p><b>男子</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>距離</th> <th>一般</th> <th>U20</th> <th>U18</th> <th>中学校*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>110m</td> <td>1m067</td> <td>991mm</td> <td>914mm</td> <td>914mm</td> </tr> <tr> <td>400m</td> <td>914mm</td> <td>914mm</td> <td>838mm</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>300m*</td> <td>-</td> <td>914mm</td> <td>838mm</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>女子</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>距離</th> <th>一般</th> <th>U20</th> <th>U18</th> <th>中学校*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100m</td> <td>838mm</td> <td>838mm</td> <td>762mm</td> <td>762mm</td> </tr> <tr> <td>400m</td> <td>762mm</td> <td>762mm</td> <td>762mm</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>300m*</td> <td>-</td> <td>762mm</td> <td>762mm</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>*国内</p>	距離	一般	U20	U18	中学校*	110m	1m067	991mm	914mm	914mm	400m	914mm	914mm	838mm	-	300m*	-	914mm	838mm	-	距離	一般	U20	U18	中学校*	100m	838mm	838mm	762mm	762mm	400m	762mm	762mm	762mm	-	300m*	-	762mm	762mm	-	<p>ハードルの標準の高さは、次の通りとする。</p> <p><b>男子</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>距離</th> <th>一般</th> <th>U20</th> <th>U18</th> <th>中学校*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>110m</td> <td>1m067</td> <td>991mm</td> <td>914mm</td> <td>914mm</td> </tr> <tr> <td>*300m</td> <td>914mm</td> <td>914mm</td> <td>838mm</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>**300m</td> <td>-</td> <td>914mm</td> <td>838mm</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>400m</td> <td>914mm</td> <td>914mm</td> <td>838mm</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>女子</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>距離</th> <th>一般</th> <th>U20</th> <th>U18</th> <th>中学校*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100m</td> <td>838mm</td> <td>838mm</td> <td>762mm</td> <td>762mm</td> </tr> <tr> <td>*300m</td> <td>762mm</td> <td>762mm</td> <td>762mm</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>**300m</td> <td>-</td> <td>762mm</td> <td>762mm</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>400m</td> <td>762mm</td> <td>762mm</td> <td>762mm</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>*国際基準 **国内基準</p>	距離	一般	U20	U18	中学校*	110m	1m067	991mm	914mm	914mm	*300m	914mm	914mm	838mm	-	**300m	-	914mm	838mm	-	400m	914mm	914mm	838mm	-	距離	一般	U20	U18	中学校*	100m	838mm	838mm	762mm	762mm	*300m	762mm	762mm	762mm	-	**300m	-	762mm	762mm	-	400m	762mm	762mm	762mm	-
距離	一般	U20	U18	中学校*																																																																																								
110m	1m067	991mm	914mm	914mm																																																																																								
400m	914mm	914mm	838mm	-																																																																																								
300m*	-	914mm	838mm	-																																																																																								
距離	一般	U20	U18	中学校*																																																																																								
100m	838mm	838mm	762mm	762mm																																																																																								
400m	762mm	762mm	762mm	-																																																																																								
300m*	-	762mm	762mm	-																																																																																								
距離	一般	U20	U18	中学校*																																																																																								
110m	1m067	991mm	914mm	914mm																																																																																								
*300m	914mm	914mm	838mm	-																																																																																								
**300m	-	914mm	838mm	-																																																																																								
400m	914mm	914mm	838mm	-																																																																																								
距離	一般	U20	U18	中学校*																																																																																								
100m	838mm	838mm	762mm	762mm																																																																																								
*300m	762mm	762mm	762mm	-																																																																																								
**300m	-	762mm	762mm	-																																																																																								
400m	762mm	762mm	762mm	-																																																																																								
<p>TR22.6</p>	<p>加えて競技者は次のことをすると失格となる。  22.6.3 直接間接を問わず、レース中に自分のレーンまたは他のレーンのハードルを倒したり移動させたりして、他の競技者に影響を与えたり妨害したり、他の規則に違反する行為をした時。</p>	<p>加えて競技者は次のことをすると失格となる。  22.6.3 直接間接を問わず、レース中に自分のレーンまたは他のレーンのハードルを倒し、<b>レース中の他の競技者に影響または妨害を与え</b>、他の規則にも違反する行為をした時。  22.6.4 直接間接を問わず、レース中に自分のレーンまたは他のレーンのハードルを移動させ、<b>レース中の他の競技者に重大な影響または妨害を与え</b>、他の規則にも違反する行為をした時。</p>																																																																																										
<p>TR22.6 Green (斜字)</p>	<p>…。  競技者が別のレーンのハードルを蹴り倒したりハードルを移動させたりする状況は、論理的方法で解釈されるべきである。例えば、すでにハードルを飛び越えている競技者のレーン内のハードルを倒すか移動させた競技者は、他の規則違反(例えば、曲走路の内側レーンに入ったとか、ハードルを越える瞬間に、足または脚がハードルをはみ出て(どちら側でも)バーの高さより低い位置を通った)がない限りは、必ずしも失格にすべきではない。…</p>	<p>…。  競技者が別のレーンのハードルを蹴り倒したりハードルを移動させたりする状況は、論理的に解釈されるべきである。例えば、<b>既に</b>ハードルを飛び越えている競技者のレーン内のハードルを倒すか移動させた場合、<b>あるいはハードルの移動が他の競技者の走りに重大な影響を与えない場合(即ち、リズムの変化、ストライドが短くなるまたは長くなる、走る方向の変化、ハードルが移動しなければ起こらなかったハードルへの衝突など、重大な影響を及ぼさない場合)</b>、当該競技者は、他の規則違反(例えば、曲走路の内側レーンに入ったとか、ハードルを越える瞬間に、足または脚がハードルをはみ出て(どちら側でも)バーの高さより低い位置を通った)がない限りは、必ずしも失格にすべきではない。…</p>																																																																																										

TR24.1	4×100m, 4×200m, 100m-200m-300m-400m (メドレーリレー), 4×400m, 4×400m男女混合, 4×800m, 1200m-400m-800m-1600m (ディスタンスメドレーリレー)、4×1500mが標準の距離である。 〔国際-注意〕 メドレーリレーは走る距離の順番を入れ替えることができる。その場合、TR24.3、24.15、24.21の適用においては、適切な調整を行うこと。	4×100m, <b>4×100m男女混合</b> 、4×200m, 100m-200m-300m-400m (メドレーリレー), 4×400m, 4×400m男女混合, 4×800m, 1200m-400m-800m-1600m (ディスタンスメドレーリレー)、4×1500mが標準の距離である。 〔国際-注意〕 メドレーリレーは走る距離の順番を入れ替えることができる。その場合、TR24.3、 <b>24.16、24.22</b> の適用においては、適切な調整を行うこと。
TR24.3	4×100mと4×200mの全走者間、およびメドレーリレーの第1走者と第2走者間、第2走者と第3走者間のテイク・オーバー・ゾーンは30mとし、ゾーンの入口から20mが基準線となる。	4×100m、 <b>4×100m男女混合</b> 、4×200mの全走者間、およびメドレーリレーの第1走者と第2走者間、第2走者と第3走者間のテイク・オーバー・ゾーンは30mとし、ゾーンの入口から20mが基準線となる。
TR24.4 Green (斜字)	(新規追加)	<b>この規則に適合している限り、粘着テープをよりはっきりと目立つように1枚以上に切り裂いて、異なる形状の一体構造のマーカーを作ることができる。</b>
TR24.6	もしバトンを落した場合、落とした競技者がバトンを持って継続しなければならない。この場合、競技者は距離が短くならないことを条件にバトンを持つために自分のレーンから離れてもよい。加えて、バトンを落とした時、バトンが横や進行方向(フィニッシュラインの先も含む)に転がり、レーンから離れて拾い上げた後は、競技者はバトンを落とした地点に戻ってレースを再開しなければならない。これらの手続きが適正になされ、他の競技者を妨害しない限りはバトンを落としても失格とはならない。 競技者がこれらの規則に従わなければ、そのチームは失格となる。	もし、バトンを落した場合、落とした競技者がバトンを持たなければならない。 <b>競技者はバトンを持つために自分のレーンから離れることができるが、その場合、走行距離が短くなること、および他の競技者を妨害することがあってはならない。</b> フィニッシュラインを通過する際は、 <b>当該チームの最終走者がバトンを持っていないなければならない。</b> 競技者がこれらの規則に従わなかった場合、そのチームは失格となる。
TR24.10	…。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、〔国際〕最大4名まで他の競技者と交代することができる。…	…。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、〔国際〕最大 <b>2</b> 名まで他の競技者と交代することができる。…
TR24.11	<u>4×400m男女混合のチームは男女2名ずつで編成される。走る順番は男子-女子-男子-女子とする</u>	(TR24.12へ移動) <b>4×100m男女混合のチームは男女2名ずつで編成される。走る順番は男子-女子-男子-女子とする</b>
TR24.12	(TR24.11から移動)	<b>4×400m男女混合のチームは男女2名ずつで編成される。走る順番は男子-女子-男子-女子とする。</b>
TR24.12 ↓ TR24.13	(条文番号変更)	〔国内〕リレー競技のチームの編成は、各ラウンドの第1組の招集完了時刻の1時間前までに… 〔国際〕リレー競技のチームの編成は、当該競技会の各ラウンドの各組の公表された first call time…
TR24.13 ↓ TR24.14	4×100mは完全にレーンを走らなければならない。	4×100mと <b>4×100m男女混合は</b> 、完全にレーンを走らなければならない。
TR24.14 ↓ TR24.15	4×200mは以下のいずれの方法で走ってもよい。 24.14.1 可能ならば完全にレーンを走る(レーンで四つの曲走路を走る)。 24.14.2 第1走者と第2走者はレーンで走り、第3走者は同様にTR17.5で述べたブレイクラインの手前までレーンで走り、その後レーンを離れることができる(レーンで三つの曲走路を走る)。 24.14.3 TR17.5で述べたブレイクラインの手前まで第1走者が走り、その後レーンを離れ	4×200mは以下のいずれの方法で走ってもよい。 24.15.1 可能ならば完全にレーンを走る(レーンで四つの曲走路を走る)。 24.15.2 第1走者と第2走者はレーンで走り、第3走者は同様にTR17.5で述べたブレイクラインの手前までレーンで走り、その後レーンを離れることができる(レーンで三つの曲走路を走る)。 24.15.3 TR17.5で述べたブレイクラインの手前まで第1走者が走り、その後レーンを離れ

	る（レーンで一つの曲走路を走る）。 〔注意〕 4チーム以内で競走する場合でTR24.14.1が不可能な場合、24.14.3の方法で行う。	る（レーンで一つの曲走路を走る）。 〔注意〕 4チーム以内で競走する場合で TR24.15.1 が不可能な場合、24.15.3の方法で行う。
TR24.15 ↓ TR24.16	(条文番号変更)	メドレーリレーは第2走者までレーンで走る。 …
TR24.16 ↓ TR24.17	4×400mと4×400m男女混合は以下のいずれかの方法で走ることができる。 24.16.1 第1走者はレーンで走り、第2走者は同様にTR17.5で述べたブレイクラインの手前までレーンで走り、その後レーンを離れることができる（レーンで三つの曲走路を走る）。 24.16.2 第1走者はTR17.5で述べたブレイクラインの手前までレーンで走り、その後レーンを離れることができる（レーンで一つの曲走路を走る）。 〔注意〕 4チーム以内で競走する場合には、TR24.15.2の方法で行う。	4×400mと4×400m男女混合は以下のいずれかの方法で走ることができる。 24.17.1 第1走者はレーンで走り、第2走者は同様にTR17.5で述べたブレイクラインの手前までレーンで走り、その後レーンを離れることができる（レーンで三つの曲走路を走る）。 24.17.2 第1走者はTR17.5で述べたブレイクラインの手前までレーンで走り、その後レーンを離れることができる（レーンで一つの曲走路を走る）。 〔注意〕 4チーム以内で競走する場合には、TR24.17.2の方法で行う。
TR24.17 ↓ TR24.18	4×800mリレーは以下のいずれかの方法で走ることができる。 24.17.1 第1走者はTR17.5で述べたブレイクラインの手前までレーンで走り、その後レーンを離れることができる（レーンで一つの曲走路を走る）。 24.17.2 レーンを用いない。	4×800mリレーは以下のいずれかの方法で走ることができる。 24.18.1 第1走者はTR17.5で述べたブレイクラインの手前までレーンで走り、その後レーンを離れることができる（レーンで一つの曲走路を走る）。 24.18.2 レーンを用いない。
TR24.18 ↓ TR24.19	競技者がTR24.14～24.16および24.17.1に従わない場合、そのチームは失格となる	競技者がTR24.15～24.17および24.18.1に従わない場合、そのチームは失格となる
TR24.19 ↓ TR24.20	(条文番号変更)	ディスタンスメドレーリレーと4×1500mリレーはレーンを用いないで行う。
TR24.20 ↓ TR24.21	(条文番号変更)	全てのバトンパスにおいては…
TR24.21 ↓ TR24.22	メドレーリレーの最終走者、4×400mと4×400m男女混合の第3、第4走者（TR24.16.2を適用する場合は第2走者も）は審判員の指示に…。	メドレーリレーの最終走者、4×400mと4×400m男女混合の第3、第4走者（TR24.17.2を適用する場合は第2走者も）は審判員の指示に…。
TR24.22 Green (斜字)	(新規追加)	<b>メドレーリレーおよび全ての4x400mリレーにおいて、待機中の競技者の位置が本規則に従って確実に行われるよう、電子システム（例：トランスポンダー、顔認証またはユニフォーム認証アプリケーション、計時セルなど）を使用することができる。最終周回に入る際のチーム順位を示すデータは、専用モニターまたは競技場のメインスクリーンのいずれかで、トラック審判長および競歩競技審判長ならびに競歩審判員主任に即時提供される。</b>
TR24.22 ↓ TR24.23	… 4×200mリレー、メドレーリレー、4×400mと4×400m男女混合場合には、次走者はTR24.21で規定された順番を維持する。競技者がこの規則に従わなければ、そのチームは失格となる。	… 4×200mリレー、メドレーリレー、4×400mと4×400m男女混合場合には、次走者はTR24.22で規定された順番を維持する。競技者がこの規則に従わなければ、そのチームは失格となる。
TR24.23 ↓ TR24.24	(条文番号変更)	この規則によらないでリレー競走を行う場合には、…。
TR25.14	走高跳と棒高跳の予選では、3回続けて失敗していない競技者は、もし決勝進出者数がTR25.12	走高跳と棒高跳の予選では、3回続けて <b>失敗した競技者を除き、TR26.2（試技のパスを含む）に従</b>

	で規定された人数に達していなければ、TR26.2 (試技のパスを含む) に従い、決められた予選通過標準記録の高さの最終試技が終わるまで試技を続ける。決勝進出が決定した競技者は、予選の試技を続けることはできない。	って、設定された予選通過標準記録の高さにおける最後の試技が終了するまで競技を続ける。但し、TR25.12に定める決勝進出者数に達した場合は除く。決勝進出が決定した競技者は、予選の試技を続けることはできない。
TR26.9 Green (斜字)	… 2名以上の競技者がジャンプオフに残っている場合、残った競技者によってジャンプオフは続くが、撤退した競技者はジャンプオフ開始前の順位で確定となり、1位をはじめ、より上位の順位を得る権利を失う。	… 2名以上の競技者がジャンプオフに残っている場合、残った競技者によってジャンプオフは続くが、自らジャンプオフを放棄した競技者の順位は、放棄した時点で確定となり、1位をはじめ、より上位の順位を得る権利を失う。
TR28.1 Green (斜字)	(新規追加)	連続試技の場合、審判員は次の試技が始まる前に、バーの位置を変更する意思があるかどうかを競技者に確認する必要がある。
TR28.2.2	バーを越える前に、身体のいかなる部分またはポールがストップボードの上部内側の垂直面を越えた地面、あるいは着地場所に触れた時。	競技者がバーを越える前に、身体の一部またはポールがストップボードの上部内側の垂直面を越えて着地場所を含む地面に触れた時。
TR28.2 〔注意〕 ii	ポールが正確にボックスに突っ込まれた後、跳躍の最中ポールがマットに触れた場合は無効試技とはならない。	ポールが正確にボックスに突っ込まれた後、跳躍の最中にポールが着地場所に触れた場合は無効試技とはならない。
TR28.2 Green c (斜字)	…。もし競技者の制限時間がまだ残っており、ゼロラインより先の地面を踏んでいないのであれば、試技を続けることができる。	…。もし競技者の制限時間がまだ残っており、ゼロラインより先の…、試技を続けることができる。これは、試技時間中に競技者が何らかの理由でポールをボックスに突っ込んだ場合や、ポールがゼロラインの垂直面を通過したものの、そのポールがゼロラインの先の地面に触れていない場合にも適用される。
TR29.5	あらゆる競技会において、審判長がTR30.1を適用した判定を行うことを支援するために、ビデオカメラや他の技術を用いた機器を使用することを強く推奨する。但し、こういった機器が使用できない場合は、踏切線のすぐ先に設置した粘土板を使用することができる。	TR30.1.1を適用した判定をするにあたり、審判員を支援するため、ワールドランニングコンペティション定義1.(a)(b)に該当する競技会においては、1秒あたり120フレーム、最低でも4K解像度で撮影できるビデオ技術を使用するものとする。その他の競技会では、このような技術の使用が強く推奨されるが、難しい場合は代替システムを使用してもよい。但し、このような技術が利用できない場合は、踏切線のすぐ先に設置した粘土板を使用することができる。
TR30.2	着地場所を離れる際、競技者の足が砂場との境界線上または砂場外の地面へ最初に触れる位置は、踏切線に最も近い痕跡よりも踏切線から遠くなくてはならない。	着地場所を離れる際、競技者の足が砂場との境界線上または砂場外の地面へ最初に触れる位置は(着地場所で完全にバランスを崩して触れた位置や、最初の着地場所よりも踏切線に近い方向に歩いて出ようとする際の位置を含む)、踏切線に最も近い痕跡よりも踏切線から遠くなくてはならない。
TR32.3	競技会中はどの用具に対しても、変形させたり調整したりしてはならない。唾液や汗を用具に吹き付けたり、その他の方法で塗りつけたりすることは許されない。	(TR32.4.5へ移動)
TR32.4.4 〔注〕	(新規追加)	投てき用シューズの外側にテープを貼ることは認められる。詳細はthe Athletic Shoe Regulations (競技用靴に関する規程)も参照のこと。このようなテープを貼る場合は、競技者が最初の(または次回)の試技の前に審判長に示す必要がある。
TR32.4.5	(新規追加) (TR32.3から移動)	唾液や汗を用具に吹き付けたり、その他の方法で塗りつけたりすること

TR32.4.6	(新規追加)	やり投の競技者が、やりにチョークまたは類似の物質をつけること
TR32.5.2	以下に掲げるものは助力と見なさず、許可する。 32.5.1 握りをよくするために…認められる。 32.5.2 砲丸投と円盤投で、…つけること。 但し、手のひらや手袋、用具についての物質は濡れた布で簡単に拭き取れ、後に残らないものでなければならない。これに合致しないものを使用した場合は、TR32.4を適用することができる。	以下に掲げるものは助力と見なさず、許可する。 32.5.1 握りをよくするために…認められる。 32.5.2 砲丸投と円盤投で、…つけること。 但し、手のひらや手袋、用具についての物質は濡れた布で簡単に拭き取れ、後に残らないものを使用した場合、TR32.4【注意】を適用することができる。
TR32.11	着地場所の最大許容下方傾斜度は、投げる方向で1,000分の1 (0.1%)を超えてはならない。	着地場所の最大許容下方傾斜度は、 <b>サークルの中心の高さ、またはスターティング・ラインの中心の高さから</b> 、投げる方向で1,000分の1 (0.1%)を超えてはならない。
TR32.14 〔注意〕 i	靴の緩んだ部分 (靴紐など) や衣服、身体につけていたその他のアイテム (帽子など) が、投てき開始時、投てき中または投てき後に、足留材上部に触れたとしても、無効とは見なさない。	靴の緩んだ部分 (靴紐など) や衣服、身体につけていたその他のアイテム (帽子など) が、投てき開始時、投てき中または投てき後に、 <b>砲丸投では足留材上部に、やり投げではスターティング・ラインや助走路の線</b> に触れたとしても、無効とは見なさない。
TR32.14 〔注意〕 ii	競技者の投げた円盤またはハンマーの頭部が競技者に遠い側の囲い (着地場所に対して、右効きの競技者は左側、左効きの競技者は右側) に当たった場合は、無効試技と見なす。	競技者の投げた円盤またはハンマーの頭部が競技者に遠い側の囲い (着地場所に対して、 <b>反時計回りの競技者は左側、時計回りの競技者は右側</b> ) に当たった場合は、無効試技と見なす。
TR32.14 〔注意〕 iii	競技者の投げた円盤またはハンマーの一部が、競技者に近い側の囲い (着地場所に対して右利きの競技者であれば右側、左利きの競技者であれば左側) に当たり、投てき物が囲いの境界より前方にある着地場所内に着地した場合は、TR32.10を含む他の規則に違反していなければ無効試技とは見なさない。	競技者の投げた円盤またはハンマーの一部が、競技者に近い側の囲い (着地場所に対して <b>反時計回りの競技者は右側、時計回りの競技者は左側</b> ) に当たり、投てき物が囲いの境界より前方にある着地場所内に着地した場合は、TR32.10を含む他の規則に違反していなければ無効試技とは見なさない。
TR32.16	砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が最初に着地して残した痕跡が、角度線や角度線の外側地面触れた場合は無効試技とする。このほか、投てき後、地面に接する前に砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が角度線の外側にある物体 (TR32.14〔注意〕iiによる囲いを除く) に触れた場合は、無効試技とする。	砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部が最初に着地して残した痕跡が、角度線や角度線の外側地面触れた場合は無効試技とする。このほか、投てき後、地面に接する前に砲丸、円盤、ハンマーの頭部、やりの頭部の <b>いずれかの部分</b> が角度線の外側にある物体 (TR32.14〔注意〕iiiによる囲いを除く) に触れた場合は、無効試技とする。
TR36.6 Green (斜字)	(新規追加)	<b>チューブの目的は、ハンマーがケージの網に引っかからないようにし、競技が遅れる可能性を減らすことにある。ワイヤーをチェックできるように、透明なプラスチックチューブであることが必要である。</b>
TR38.4	…数えない。この時、競技者が身体の平衡を失って本規則に反する動作をしたとしても無効試技とはせず、新試技が許される。	…数えない。また、競技者が <b>バランスを崩してこの規則のいずれかの条項に違反した場合も無効試技には数えない。どちらのケースでも、競技者は新試技が認められる。</b>
TR38.10	(P.233 規格表) → 2023年8月、規格修正	(P.233 規格表) (削除)
TR39.7 〔国際〕	<u>最終種目を例外として、各種目の組合せ (組またはグループ) は技術代表または混成競技審判長が決める。</u>	(削除)
TR39.8.5	… 200m競走と400m競走では、TR20.3.1に従い競技者を順位付けした後に、それぞれTR20.4.4および20.4.5に従ってレーン順を決めなければならない。	… 200m競走と400m競走では、TR20.3.1に従い競技者を順位付けした後に、それぞれTR20.4.4および <b>20.4.5に従って、あるいはTR20.4.7および20.4.8に従って</b> レーン順を決めなければならない。 〔国内〕 <b>TR20.4〔国内〕の考え方を適用してもよい。</b>

TR39.12	ガンダーセン方式(または類似の方式)を用いて混成競技の最終種目のスタートを行う場合には、それに合わせて適用する競技規則を特別に設けなければならない。 〔注釈〕 ガンダーセン方式:得点差に応じて時差スタートさせる方式。	(削除)
TR39.13 ↓ TR39.12	競技会でどの順位についても二人以上の競技者が同じ得点を取った場合は、同成績とする。	競技会でどの順位についても二人以上の競技者が同じ得点を取った場合は、同成績とする。
TR41.3	全てのトラック走路、助走路または踏切場所の表面は、長さ6 mmのスパイク・シューズに対応できる合成物質で覆われている必要がある。但し、トラック舗装材業者または競技場施設管理者は、最大 9mm のスパイクの使用を認めることができる。(参照:競技用靴に関する規程 第11条)	全てのトラック走路、助走路または踏切場所の表面は、長さ6 mmのスパイク・シューズに対応できる合成物質で覆われている必要がある。但し、トラック舗装材業者または競技場施設管理者は、最大 9mm のスパイクの使用を認めることができる。(参照:競技用靴に関する規程 第9条)
TR43.1 Green (斜字)	(新規追加)	<b>1周が標準の 200m 以外の長さのトラックで達成された記録であっても、そのトラックの標準長さが 201.20m (220 ヤード) を超えない場合には、ショート・トラックの記録として認められる。</b>
TR43.2	トラックは4レーン～6レーンとする。レーンの幅は右側のラインを含めて900mm～1m100とする。どのレーンも同じ幅で…	トラックは 4 レーン～6 レーンとする。レーンの幅は右側のラインを含めて900mm～1m <b>200</b> とする。どのレーンも同じ幅で…
TR43.2 Green (斜字)	(TR43.4 Greenから移動)	<b>トップレベルの競技会を開催するには、6レーンのトラックがあることが望ましい。周回トラックの理想的な幅は1mである。</b>
TR43.4	トラックの内側を白線で区分する時は、曲走路には必ず、直走路には必要があればコーンまたは旗を置く。コーンの高さは少なくとも150 mmとする。旗の大きさは250mm×200 mm、高さは少なくとも450mmとし、フィールド側に60度の角度に倒すように立てる。コーンまたは旗は、その底の縁がトラックに最も近い白線の端になるように設置する。その間隔が曲走路では1 m 500、直走路で10 mを超えないように配置する。	トラックの内側を白線で区分する時は、曲走路には必ず、直走路には必要があれば、 <b>高さ100mmから150mmのコーンを追加で設置しなければならない。</b> コーンは白線上に、その底面の端がトラックに最も近い白線の端と一致するように設置しなければならない。コーンは曲走路では1 m 500を超えない間隔で、直走路で10 mを超えない間隔で設置しなければならない。〔国際〕技術代表の承認があれば、同様の高さの他の適切な物理的マーカーを使用することもできる。
TR43.4 Green (斜字)	<del>周回トラックは200mを超える場合があるが、200m以上の距離のレースの記録はショート・トラック記録としては公認されない。トップレベルの競技会を開催するには、6レーンあるほうが使い勝手がよい。周回トラックの理想的な幅は1mである。</del> 旗または…	(TR43.2 Greenへ移動)  <b>コーンを置くときは、第1レーンの内側にある白線がそのレーンに含まれないということを考慮する必要がある。</b>
TR44.6	競走種目は以下のように行う。 … 44.6.3 800mの競走のスタートは各競技者が各レーンに1名ずつ、またはレーンに最大2名を割り振って行うか、TR17.5.2に従い第1レーンと第4レーンを用いたグループスタートで行う。このような場合、各競技者が自分のレーンを離れたり、グループスタートの外側を走る競技者が内側のグループに合流したり出来るのは、第1曲走路の終わりのブレイクラインを過ぎた後とするが、もし二つの曲走路を自分	競走種目は以下のように行う。 … 44.6.3 800mの競走のスタートは各競技者が各レーンに1名ずつ、またはレーンに最大2名を割り振って行うか、TR17.5.2に従い第1レーンと第4レーンを用いたグループスタートで行う。 <b>レーンを割り当ててスタートを行う場合、競技者は第二曲走路の終わりに設定されたブレイクラインを通過した後でのみ、レーンを離れることができる。</b> グループスタートの場合、外側のグループを

	<p>のレーンで走るのであれば、第2曲走路終わりのブレイクラインを過ぎた後である。スタートラインは一本の曲線でもよい。</p> <p>…</p> <p>もし競技者がこの規則に従わない場合は失格となる。 ブレイクラインは各…するのが望ましい。</p>	<p>走る競技者は、<b>第一曲走路の終わりに設定されたブレイクラインを通過した後、または、グループで2つのカーブを走るレースの場合は第二曲走路の終わりを通過した後でのみ、内側のグループに合流することができる。</b>スタートラインは一本の曲線でもよい。</p> <p>…</p> <p>もし競技者がこの規則に従わない場合は失格となる。 ブレイクラインは…するのが望ましい。 <b>グループスタートの場合、コースの外側半分は、高さ0.10mから0.15mのコーンで示され、コーンを当該レーンライン上に設置する。コーンの底面の端は、コースの外側半分に最も近い白線の端と一致するように設置し、コーンは1m500を超えない間隔で設置しなければならない。〔国際〕技術代表の承認があれば、同様の高さの他の適切な物理的マーカーを使用することもできる。</b></p>
TR44.6 Green (斜字)	(新規追加)	<b>色付きのレーンを示すラインのみでは、グループスタートにおけるトラックの外側半分を示すには不十分であり、物理的マーカーの使用要件の代替とはならない。</b>
TR48 〔注意〕	<p>ショート・トラックのリレー競走は狭いレーンのため、400mトラックのリレー競走よりも衝突や意図しない妨害がとてもしやすい。それ故、可能ならば空きのレーンが各チームの間にあることが望ましい。例えば、第1、第3、第5レーンはレースに使用し、第2、第4、第6レーンはレースに使用しない。</p>	<p>ショート・トラックのリレー競走は<b>レーンの幅が狭い</b>ため、400mトラックのリレー競走よりも衝突や意図しない妨害が<b>発生する可能性が高い</b>。そのため、<b>必要かつ可能な限り、各チーム間に予備レーンを設けることを推奨する。</b></p>
TR54.1	<p>競歩競技の標準となる距離は、ショート・トラックでは3,000m、5,000mとし、400mトラックでは5,000m、10,000m、ハーフマラソン(21,097.5m)、マラソン(42,195m)、50,000mとする。道路のコースでは10km、ハーフマラソン(21km0975)、マラソン(42km195)、50kmとする。</p>	<p><del>—(2025年12月31日まで)—</del> 競歩競技の標準となる距離は、ショート・トラックでは3,000m、5,000mとし、400mトラックでは5,000m、10,000m、20,000m、35,000m、50,000mとする。道路のコースでは10 km、20 km、35 km、50 kmとする。</p> <p><del>—(2026年1月1日から)—</del> 競歩競技の標準となる距離は、ショート・トラックでは3,000m、5,000mとし、400mトラックでは5,000m、10,000m、ハーフマラソン(21,097.5m)、マラソン(42,195m)、50,000mとする。道路のコースでは10km、ハーフマラソン(21km0975)、マラソン(42km195)、50kmとする。</p>
TR54.4.1	<p>競歩審判員主任は、…その競技者を主任単独で失格にする権限をもつ。失格となった競技者はレース終了後、できるだけ速やかに、競歩審判員主任または競歩審判員主任補佐によってレッドパドルで失格を告知されなければならない。</p>	<p>競歩審判員主任は、…その競技者を主任単独で失格にする権限をもつ。<b>主任により失格となった競技者は、フィニッシュすることは認められる。</b>失格となった競技者はレース終了後、できるだけ速やかに、競歩審判員主任または競歩審判員主任補佐によってレッドパドルで失格を告知されなければならない。</p>
TR54.4.1 〔国内〕	<p><del>i TR9で認める男女混合競技の競歩審判員主任はJRWJであることが望ましい。</del></p> <p>ii TR54.4.1に定める特定の競技会の主任はWARWJまたはJRWJとする。それ以外の競技会で、主任単独による失格権限を適用する場合には、主催者は本連盟に事前に申告するものとする。なお、その場合の競歩審判員主任はJRWJとする。</p> <p>iii TR9で認める男女混合競技でも適用する。</p>	<p>i TR54.4.1に定める特定の競技会の主任はWARWJまたはJRWJとする。それ以外の競技会で、主任単独による失格権限を適用する場合には、主催者は本連盟に事前に申告するものとする。なお、その場合の競歩審判員主任はJRWJとする。</p> <p>ii TR9で認める男女混合競技<b>では本条を適用する。競歩審判員主任はJRWJであることが望ましい。</b></p>

TR54.6	競歩審判員は、競技中のどの時点であれ、「ロス・オブ・コンタクト」あるいは「ベント・ニー」を目視で確認し、競技者がTR54.2 に違反していると判断したならば、レッドカードを競歩審判員主任に提出しなければならない。	競歩審判員は、競技中のどの時点であれ、「ロス・オブ・コンタクト」あるいは「ベント・ニー」を目視で確認し、競技者がTR54.2 に違反していると判断したならば、 <b>審判員番号、競技者のビブ番号、違反行為、およびカード記入時刻を記載した</b> レッドカードを競歩審判員主任に提出しなければならない。 <b>競技者の失格につながるレッドカードも含め、各レッドカードは審判員が発行した時点で効力を有する。</b>																																												
TR54.6 Green (斜字)	(新規追加)	<b>可能であれば、レッドカードを提出する前にTR54.5に規定されているイエローパドルを競技者に示すことを推奨する。イエローパドルの目的は、TR54.2に規定されている競歩の定義に合うように、競技者が歩行技術を修正できるようにすることであり、より多くの競技者が完歩できるようにすることである。</b>																																												
TR54.7.3	<p>(2025年1月1日から)</p> <table border="1" data-bbox="336 707 836 1025"> <tr><th>距離</th><th>削除</th></tr> <tr><td>5,000m</td><td></td></tr> <tr><td>10,000m</td><td></td></tr> <tr><td>20,000m</td><td></td></tr> <tr><td>30,000m</td><td></td></tr> <tr><td>35,000m</td><td></td></tr> <tr><td>40,000m</td><td></td></tr> <tr><td>50,000m</td><td></td></tr> </table> <p>(2026年1月1日から)</p> <table border="1" data-bbox="336 1077 903 1290"> <tr><th>距離 (その長さを含む)</th><th>時間</th></tr> <tr><td>5,000m・5km まで</td><td>30秒</td></tr> <tr><td>10,000m・10km まで</td><td>1分</td></tr> <tr><td>ハーフマラソン (21,097.5m・21 km 0975) まで</td><td>2分</td></tr> <tr><td>30,000m・30km まで</td><td>3分</td></tr> <tr><td>マラソン (42,195m・42 km 195) まで</td><td>4分</td></tr> <tr><td>50,000m・50km まで</td><td>5分</td></tr> </table> <p>ペナルティゾーンに入るよう命じられても入らない場合や定められた時間とどまらない場合、審判長によって失格と判定される。</p>	距離	削除	5,000m		10,000m		20,000m		30,000m		35,000m		40,000m		50,000m		距離 (その長さを含む)	時間	5,000m・5km まで	30秒	10,000m・10km まで	1分	ハーフマラソン (21,097.5m・21 km 0975) まで	2分	30,000m・30km まで	3分	マラソン (42,195m・42 km 195) まで	4分	50,000m・50km まで	5分	<table border="1" data-bbox="951 719 1522 913"> <tr><th>距離 (その長さを含む)</th><th>時間</th></tr> <tr><td>5,000m・5km まで</td><td>30秒</td></tr> <tr><td>10,000m・10km まで</td><td>1分</td></tr> <tr><td>ハーフマラソン (21,097.5m・21 km 0975) まで</td><td>2分</td></tr> <tr><td>30,000m・30km まで</td><td>3分</td></tr> <tr><td>マラソン (42,195m・42 km 195) まで</td><td>4分</td></tr> <tr><td>50,000m・50km まで</td><td>5分</td></tr> </table> <p>ペナルティゾーンに入るよう命じられても入らないで、<b>あるいはゾーン内に定められた時間とどまらないで、レースを続行する競技者は</b>、審判長によって失格と判定される。</p>	距離 (その長さを含む)	時間	5,000m・5km まで	30秒	10,000m・10km まで	1分	ハーフマラソン (21,097.5m・21 km 0975) まで	2分	30,000m・30km まで	3分	マラソン (42,195m・42 km 195) まで	4分	50,000m・50km まで	5分
距離	削除																																													
5,000m																																														
10,000m																																														
20,000m																																														
30,000m																																														
35,000m																																														
40,000m																																														
50,000m																																														
距離 (その長さを含む)	時間																																													
5,000m・5km まで	30秒																																													
10,000m・10km まで	1分																																													
ハーフマラソン (21,097.5m・21 km 0975) まで	2分																																													
30,000m・30km まで	3分																																													
マラソン (42,195m・42 km 195) まで	4分																																													
50,000m・50km まで	5分																																													
距離 (その長さを含む)	時間																																													
5,000m・5km まで	30秒																																													
10,000m・10km まで	1分																																													
ハーフマラソン (21,097.5m・21 km 0975) まで	2分																																													
30,000m・30km まで	3分																																													
マラソン (42,195m・42 km 195) まで	4分																																													
50,000m・50km まで	5分																																													
TR54.8	レースは信号器、大砲・エアホーン、その他類似の機器の発射で開始する。その合図と手順は…	レースは <b>ピストル、大砲またはエアホーン</b> の発射、 <b>あるいは当該競技に適した特徴的で明確なスタート信号器の合図</b> で開始する。その合図と手順は…																																												
TR54.8 Green (斜字)	(追加)	<b>ピストル、大砲またはエアホーン以外のスタート信号器は、WAによって事前に承認されたものでなければならない。</b>																																												
TR54.11.1	競技会では、周回コースは1周最長2km、最短1kmにしなければならない。スタートとフィニッシュが競技場内の競技では、周回コースは競技場のできるだけ近くに設定する。	競技会では、周回コースは1周最長2km、最短1kmとする。 <b>〔国際〕但し、競技運営上の正当な理由により、1km未満の周回コースが必要とされる場合は、技術代表の承認を得て設定することができる。</b> スタートとフィニッシュが競技場内の競技では、周回コースは競技場のできるだけ近くに設定する。																																												
TR55.6	レースは信号器、大砲・エアホーン、その他類似の機器の発射で開始する。その合図は…	レースは <b>ピストル、大砲またはエアホーン</b> の発射、 <b>あるいは当該競技に適した特徴的で明確なスタート信号器の合図</b> で開始する。その合図と手順は…																																												

<p>TR55.6 <i>Green</i> (斜字)</p>	<p>中・長距離のトラック種目同様に、競技場外種目でもスターター及び審判長は、スタート規則の不正スタートの適用にあたり過剰にならないよう強調される。道路競走やその他の競技場外種目では、スタートの呼び戻しは困難であり、どんな場合でも大規模な参加者に対しては実用的ではない。しかし…</p>	<p><b>ピストル、大砲またはエアホーン以外のスタート信号器は、WAによって事前に承認されたものでなければならない。</b> 中・長距離のトラック種目同様に、競技場外種目でもスターター及び審判長は、<b>不正スタートの規則適用</b>にあたり、過剰にならないようにすることが<b>強く求められる</b>。道路競走やその他の競技場外種目では、スタートの呼び戻しは困難なことが多く、特に参加者が多い大規模な道路競走等では、スタートの呼び戻しは<b>安全面から現実的ではない</b>。しかし…</p>
<p>TR55.8.7</p>	<p>スタート地点から持っているか、主催者が設置した供給所で手を取るか手渡されたものである限り、競技者はいつでも水または飲食物を手を持って、あるいは身体に取り付けて運ぶことができる。</p>	<p><b>競技者は、スタート地点から持ち込んだり、主催者が設置した供給所で受取ったりした水や飲食物を、いつでも手に持ったり身体につけたりして競技を行ってよい。</b></p>
<p>第8部 見出し</p>	<p>競技規則・第8部 クロスカントリーとマウンテンレース、トレイルレース 世界中で実施されているクロスカントリー競走、マウンテンレース、トレイルレースの条件は極めて異なり、これらの種目に国際的基準を法制化することは難しい。成功した競技会と失敗した競技会との違いは、多くは開催地の自然的特色とコース設計者の能力にあるということを理解しなければならない。 次に示す規則は、クロスカントリー競走、マウンテンレース、トレイルレースの発展に向けて、加盟団体に指針を示し、その取り組みを促し、支援することを目的としている。</p>	<p>競技規則・第8部 クロスカントリーとマウンテンレース・トレイルレース クロスカントリー競走、マウンテンレース、トレイルレースは<b>世界各地で様々な条件下で行われており</b>、これらの種目に国際的基準を法制化することは<b>困難である</b>。成功した競技会と失敗した競技会との違いは、多くは開催地の自然的特色とコース設計者の能力に<b>左右される</b>ということを理解しなければならない。 <b>以下に示す規則は</b>、クロスカントリー競走、マウンテンレース、トレイルレースの発展に向けて、加盟団体に指針を示し、その取り組みを促し、支援することを目的としている。</p>
<p>TR56.6</p>	<p>レースは信号器、大砲・エアホーン、その他類似の機器の発射で開始する。その合図は…</p>	<p>レースは<b>ピストル、大砲またはエアホーン</b>の発射、あるいは<b>当該競技に適した特徴的で明確なスタート信号器</b>の合図で開始する。その合図は…</p>
<p>TR56.6 <i>Green</i> (斜字)</p>	<p>(新規追加)</p>	<p><b>ピストル、大砲またはエアホーン以外のスタート信号器は、WAによって事前に承認されたものでなければならない。</b></p>
<p>TR57</p>	<p><del>Ⅰ. 総則</del> (新規追加)</p>	<p>マウンテンレースとトレイルレースは、様々な自然地形(砂地、未舗装道路、林道、一人分の幅しかない細い山道、雪道など)と様々な環境(山、森林、平原、砂漠など)で行われる。 レースは主に未舗装のオフロードで行われるが、コース上のトレイル(自然地形の小道)に到達するために、あるいはトレイル間をつなぐ手段として、舗装された路面(アスファルト、コンクリート、碎石など)を使うことは認められる。但し、その長さは最小限に抑え、コース全長の<b>25%を超えてはならない</b>。</p>
<p>TR57.1</p>	<p>コース <del>57.1 コースに関しては以下の通りとする。</del> <del>57.1.1 マウンテンレース・トレイルレースはさまざまな種類の地形(砂地、土の道、林道、一人しか通り抜けられない森の小道、雪道等)や環境(山、森林、平原、砂漠等)で行われる。</del> <del>57.1.2 レースは主に未舗装のオフロードで行われるが、コースの一部が舗装(アスファルト、コンクリート、碎石等)されていても構わないものの、最小限の距離に抑えられている必要がある。既存の道路や小道をできる</del></p>	<p>コース 全てのコースは、競技者が地図を読んだり、道を探したりする能力(ナビゲーションスキル)を必要とせず、先頭のランナーが、常に容易にルートをたどれるように設計されなければならない。マウンテンレースとトレイルレースには、距離や標高差の制限はなく、ループ(スタートとフィニッシュが同じ場所にある周回コース)またはポイント・ツー・ポイント(スタートとフィニッシュが異なる地点にあるコース)で走ることができる。マウンテンクラシック競技を除き、レースは通常、地域を論理的に探索するものであり、</p>

	<p>だけ使用する。</p> <p>57.1.3 マウンテンレースに関しては、舗装路面で行われるものにはいくつかの例外規定があるものの、コースに大きな高低差がある場合のみ実施可能である。</p> <p>57.1.4 コース上には、競技者が地図を読むような特別な技術を必要としない、容易に認識できる標識を設置しなければならない。トレイルレースに関しては、距離や高低差に制限はないが、コースは自然環境に合わせて走るように設置されたものでなければならない。</p> <p>57.1.5 マウンテンレースは伝統的に「Uphill」「Up &amp; Down」に分類される。平均的な高低差は1kmあたり約50～250m、距離は42.2kmまでとする。</p>	<p>同じコースを複数周回するものであってはならない。</p> <p>コースは <b>GPS デバイス</b>を使用して正確に測定し、<b>GPS トラックファイル</b> (GPSで記録された移動経路のデータ) をすべての参加者に公開する必要がある。</p>
TR57.2	<p>スタート</p> <p>マウンテンレースとトレイルレースは、通常、全競技者が一斉にスタートする。性別や年齢によるカテゴリーで分けてスタートすることもできる。</p>	(TR57.5へ移動)
TR57.3 ↓ TR57.2	<p>安全・環境</p> <p>主催者は競技者と競技役員の安全を確保しなければならない。特に高地のために天候に左右されやすい特殊な状況や利用可能な施設を考慮しておかなくてはならない。また、主催者はコース設定時から競技中、競技終了後も環境保護に関して十分に責任を持つ。</p>	<p>安全・環境</p> <p>レースの主催者は<b>全ての</b>競技者と競技役員の安全を確保しなければならない。特に高地のために天候に左右されやすい特殊な状況や利用可能な施設を考慮しておかなくてはならない。主催者は、コース設定時から競技中、競技終了後も、環境保護に関して十分に<b>配慮する</b>責任を持つ。<b>主催者は、例外的な状況を除き、遭難発生の電話を受けてから、30分以内にコースのどの部分へも関係者が到達できるようにしなければならない。</b></p>
TR57.4 ↓ TR57.3	<p>器具</p> <p>マウンテンレースとトレイルレースは標高の高い山を登るような特別な登山技術や登山用具、特殊な装備等を使用するものではない。トレッキングボールの使用は主催者の裁量により認められることもある。主催者はレース中に競技者が直面すると予想される状況により、競技者が遭難を回避できるように、事故発生時等に通報し救助が来るまでに安全に待機することができるような安全器具の携行を義務付けたり、推奨したりすることができる。</p>	<p>器具</p> <p>マウンテンレースとトレイルレースは標高の高い山を登るような特別な登山技術や登山用具、特殊な装備の<b>使用を義務付けるものではない</b>。トレッキングボールの使用は主催者の裁量により認められ、<b>認められる場合は大会要項等のレース前情報に明記されなければならない</b>。主催者はレース中に競技者が直面すると予想される状況により、競技者が遭難を回避できるように、事故発生時等に通報し救助が来るまでに安全に待機することができるように、<b>最低限の服装、防風ジャケット、ヘッドランプ、水、食料などの必須装備</b>の携行を義務付けたり、推奨したりすることができる。</p>
TR57.5 ↓ TR57.4	<p>レースの体制</p> <p>57.5 主催者は、あらかじめ最低限以下の内容を含む競技会の規則を公表しなければならない。</p> <p>57.5.1 担当責任者の詳細 (氏名、連絡先)</p> <p>57.5.2 競技種目と開始時間</p> <p>57.5.3 競技に関する技術的情報: 総距離、最大標高差 (エレベーション)、コースの主な難所</p> <p>57.5.4 コースの詳細地図</p> <p>57.5.5 コースの特徴</p> <p>57.5.6 コース上の標識設置基準</p> <p>57.5.7 コース上のチェックポイントや医療・救急拠点 (該当する場合)</p> <p>57.5.8 携行が許可、推奨、必須となる器具 (該当する場合)</p>	<p>レース運営</p> <p>競技者の安全確保と各レースの特性を考慮し、レース主催者はレース前に、少なくとも以下の事項を含むレースの具体的な規則を公表しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 主催者の担当責任者詳細 (氏名、<b>緊急時</b>連絡先)</li> <li>• <b>スタート時間、制限時間、および関門閉鎖時間 (該当する場合) を含む競技内容</b></li> <li>• 競技に関する技術的詳細情報: 総距離、登り/下りの標高差、コースの主な難所、<b>エイドステーションの位置、エイドステーションでのサポートの有無、摂取可能な軽食の内容など</b></li> <li>• コースの詳細地図と<b>コースの特徴</b></li> <li>• コース上の標識設置基準</li> </ul>

	<p>57.5.9 守るべき安全規則  57.5.10 処罰、失格に関する規則  57.5.11 制限時間と関門（該当する場合）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース上のコントロールポイントや<b>メディカルステーションの配置</b>（該当する場合）</li> <li>・携行が許可、推奨、<b>義務付けられている</b>装備（該当する場合）</li> <li>・<b>エイドステーションでの個人サポートやランニングペーサーによるサポートを含む、外部からの援助に関する規則</b></li> <li>・遵守すべき安全規則</li> <li>・処罰、失格に関する規則</li> </ul>
TR57.5	(TR57.2、57.7から移動、追加)	<p><b>スタート</b>  マウンテンレースとトレイルレースは、通常、全競技者が一斉にスタートする。性別や年齢によるカテゴリーに分けてスタートすることもできる。  スタートの合図は<b>400m</b>を超えるトラック競技で用いる方法で行う（参照TR16.2.2）。  <b>大人数の競技者が出場するレースでは、スタート5分前、3分前、1分前の合図を行うことができる。スタートまで10秒間のカウントダウンを行うこともできる。</b>  <b>コースが特に狭い場合は、タイムトライアル形式のスタートを採用してもよい。その場合はレース前情報に明記しなければならない。</b></p>
TR57.6	<p>II. マウンテンレースとトレイルレースに関する国際競技規則  適用範囲  以下に記載の競技規則は世界選手権では必ず適用する必要があるが、他の全ての国際競技会にも適用することを強く推奨する。世界選手権以外の全てのマウンテンレースとトレイルレースでは、当該大会の規則や各国の規則を適用することが優先されるが、もし国際競技規則により実施する場合には、そのことを当該競技会の競技規則に明記しなければならない。他の全ての競技会においては、審判長が加盟国団体または当該地域陸連、あるいは競技会を監督する機関によって任命されたのならば、当該審判長は陸上競技の一般規則を遵守させなければならないが、マウンテンレースとトレイルレースに関する国際競技規則を強制してはならない。</p>	(削除)
TR57.7	<p><u>スタート</u>  <u>スタートの合図は400mを超えるトラック競技で用いる方法で行う（参照TR16.2.2）。</u><u>多数の競技者が出場するレースでは、スタート5分前、3分前、1分前の合図を行う。スタートまで10秒間のカウントダウンを行うこともできる。</u></p>	(TR57.5に移動)
TR57.8 ↓ TR57.6	<p>レース管理  審判長が監察員や他の審判員、またはそれ以外の大会関係者の報告により、競技者が以下のような行為を行ったと判定した場合、当該競技者は失格となるか競技会規則で定められた罰則を受ける。  57.8.1 コースを外れ、走るべき距離を短くした。  57.8.2 他の者から走るペースに関する助力を受けた。あるいは、主催者が設置した場所以外で飲食物を受取った。  57.8.3 特に定められた競技会規則（競技注意事項等）に従わなかった。</p>	<p>レース管理  審判長が監察員や他の審判員、またはそれ以外の大会関係者の報告により、競技者が以下のような行為を行ったと判定した場合、当該競技者は失格となるか競技会規則で定められた罰則を受ける。  ・コースを外れ、走るべき距離を短くした。  ・<b>当該レースで明示的に許可していないにも関わらず</b>、他の者から走るペースに関する助力を受けた。あるいは、主催者が設置した場所以外で飲食物を受取った。  ・特に定められた競技会規則（競技注意事項等）に従わなかった。</p>

TR57.7	(新規追加)	<p><b>フィニッシュ</b>  主催者は、同着が認められる場合は、大会開催前に競技者に対して明示する必要がある。  主催者から特に明示がない場合、フィニッシュラインでの競技者の意思表示により、同着であることが明確に認められる場合は、同着が認められる。</p>																																
TR57.8	(新規追加)	<p><b>レース妨害</b>  主催者は、一般観客やメディア関係者（例えば、カメラ・ランナーやバイクカメラなど）がレースを妨害したり、レース中の位置関係によってのみ知り得る他の競技者に関する情報を提供したりすること含む、いかなる形の支援も提供してはならない。  カメラ・ランナーは常に追従するランナーの後方を走行し、特定の色の衣服などを着用して、競技者や観客と明確に識別できるようにしなければならない。</p>																																
TR57.9	<p>トレイルレースに関する特別規定  トレイルレースに関する特別規定は以下の通りとする</p> <p>57.9.1 舗装面はコース全体の25%を超えてはならない。</p> <p>57.9.2 レースは「km-effort」（キロメートル・エフォート）により分類される。「km-effort」はkmで表される距離と、mで表される累積獲得標高を100で除した値（小数点以下切捨て）の合計で計測される。</p> <p><math>km\text{-}effort = \frac{\text{総距離(km)} + \text{累積獲得標高(m)}}{100}</math></p> <p>（例）</p> <p>距離65km、獲得標高3500mのレースの km-effort</p> <p><math>\frac{65+3500}{100}=100</math></p> <p>この考え方により、レースは以下のように分類される。</p> <table border="1" data-bbox="414 1299 718 1568"> <thead> <tr> <th>カテゴリー</th> <th>km-effort</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>XXS</td> <td>0-24</td> </tr> <tr> <td>XS</td> <td>25-44</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>45-74</td> </tr> <tr> <td>M</td> <td>75-114</td> </tr> <tr> <td>L</td> <td>115-154</td> </tr> <tr> <td>XL</td> <td>155-209</td> </tr> <tr> <td>XXL</td> <td>210以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>57.9.3 世界選手権ではショート(S)とロング(L)のカテゴリーに基づいて競技が行われる。</p> <p>a. ショート：距離 35～45km、最小獲得標高 1500m以上</p> <p>b. ロング：距離 75～85km</p> <p>57.9.4 競技は自給自足の考え方によって行われ、競技者はエイドステーション（補給所）間では、装備、通信、飲食物について自分自身で責任をもって対応しなければならない。</p> <p>57.9.5 競技者は最低限、防寒毛布（最小サイズ140×200cm）、笛（ホイッスル）、携帯電話は常に携行しなければならない。但し、レース中に競技者が直面すると予想される状況によっては、主催者は追加で携行必須器具を課</p>	カテゴリー	km-effort	XXS	0-24	XS	25-44	S	45-74	M	75-114	L	115-154	XL	155-209	XXL	210以上	<p><b>マウンテンレースおよびトレイルレースの評価</b></p> <p>マウンテンレースおよびトレイルレースの特徴として、標準的な距離やコース形状は定められていない。競技は、同じコースを周回する形式や、全体のコースを複数区間に分けて走る「駅伝形式」で行われることもある。</p> <p><b>ITRA（国際トレイルランニング協会）は、レースの難易度を「km-effort（キロメートル・エフォート）」という概念に基づいて分類している。km-effortは、距離と累積標高差の両方を考慮して以下のように計算する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>距離：1km = 1 km-effort</li> <li>標高差：100mの上昇 = 1 km-effort</li> </ul> <p>例えば、距離65km、累積標高差3500mのレースの場合、</p> <p><math>km\text{-}effort = 65 + 3500 \div 100 = 100</math></p> <p>このkm-effortの数値に基づいて、各レースは難易度に応じて分類され、難易度ポイントは0から6までの範囲で設定される。</p> <table border="1" data-bbox="989 1545 1324 1825"> <thead> <tr> <th>km-effort</th> <th>難易度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0-24</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>25-44</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>45-74</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>74-114</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>115-154</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>155-209</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>210+</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	km-effort	難易度	0-24	0	25-44	1	45-74	2	74-114	3	115-154	4	155-209	5	210+	6
カテゴリー	km-effort																																	
XXS	0-24																																	
XS	25-44																																	
S	45-74																																	
M	75-114																																	
L	115-154																																	
XL	155-209																																	
XXL	210以上																																	
km-effort	難易度																																	
0-24	0																																	
25-44	1																																	
45-74	2																																	
74-114	3																																	
115-154	4																																	
155-209	5																																	
210+	6																																	

	<p>オことがある。</p> <p><del>57.9.6 公式競技会でのエイドステーション（補給所）は、自給自足の原則を尊重するために十分な間隔を空けて設置しなければならない。スタートラインからフィニッシュライン間の水供給拠点を含むエイドステーション（補給所）設置の最大数は、「km-effort」を15で割った数（小数点以下切捨て）とする。</del></p> <p><del>（例）km-effort：58の場合 <math>58/15=3.86</math></del></p> <p><del>スタートとフィニッシュ地点を除き、最大3か所のステーションの設置が認められる。</del></p> <p><del>〔注意〕</del></p> <p><del>i 上記式で算出されたエイドステーション（補給所）の最大半数（小数点以下切捨て）までのステーションで、飲食物や人的援助を与えることができる。</del></p> <p><del>（例）エイドステーションの最大数：3の場合 <math>3/2=1.5</math></del></p> <p><del>飲食物や人的援助を受けることができるステーションの最大数は1か所。残りのステーションでは飲料のみが与えられ、食料や人的援助は与えられない。</del></p> <p><del>ii 人的援助が与えられるエイドステーション（補給所）では、各国が個々のテーブルやスペースが割り当てられ、国や領土の旗によって見分けがつき、各国の公式スタッフが競技者を援助できるように配置されなければならない。テーブルはアルファベット順に配置され、各チームは1テーブルあたり最大2名の公式スタッフを配置することが認められる。</del></p> <p><del>iii 競技者への援助（飲食物の提供）は、上記で定められた通りのエイドステーション（補給所）でのみ行なわれる。</del></p> <p><del>57.9.7 明らかに同着であることが明白な時は、競技者の意向により同着として認められる。</del></p>	
TR57.10	<p>マウンテンレースの種目は以下のように分類される</p> <p><del>57.10.1 クラシック Uphill</del></p> <p><del>57.10.2 クラシック Up &amp; Down</del></p> <p><del>57.10.3 Vertical</del></p> <p><del>57.10.4 長距離</del></p> <p><del>57.10.5 リレー</del></p>	<p><b>国際競技会</b></p> <p>上記の一般規則に加えて、国際選手権および地域選手権は、<b>the World Mountain and Trail Running Championships Technical Guidelines</b> に従って行う。</p> <p>以下の用語は、国際大会を分類するために使用されており、広く一般的にも使われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Uphill</b>：主に登りで構成されるレースで、通常60分以内で終了するもの</li> <li>• <b>Classic</b>：登りと下りがあるレースで、距離は最大30kmまでのもの</li> <li>• <b>Short Trail</b>：登りと下りがあるレースで、距離は30～60kmのもの</li> <li>• <b>Long Trail</b>：登りと下りがあるレースで、距離は60kmを超えるもの</li> </ul> <p><b>The World Athletics Mountain and Trail Running Championships</b>（世界マウンテン&amp;トレイルランニング選手権）におけるレース要件は以下の通りである。</p>

		種類	距離	エレベーション (高低差)	理想的な 男子優勝タイム
		Long Trail	75-85km	3,500- 6,000m	7時間45分 ～8時間15分
		Short Trail	35-45km	2,000- 3,000m	3時間45分 ～4時間15分
		Senior Classic (Up and Down)	12-15km	600-900m	55～60分
		U20 Classic (Up and Down)	5-7km	300-450m	25～30分
		Senior Uphill	4-7km	700-1000m (平均斜度 10%超)	40～50分
TR57.11	Vertical以外の全ての種目は、コースの平均斜度は5%（または1kmあたり50m）から25%（または1kmあたり250m）の間でなければならない。コースが引き続き走れることを前提として、最も好ましい平均斜度は約10%～15%である。これらの制限は斜度が25%以上でなければならないVertical種目には適用しない。	(削除)			
TR57.12	世界選手権では以下の種目と距離の競技が行われる 57.12.1 クラシックUphill —:— シニア（男子・女子） 10～12km U20（男子・女子） 5～6km 57.12.2 クラシックUp & Down —:— シニア（男子・女子） 10～12km U20（男子・女子） 5～6km 57.12.3 Vertical —:— 少なくとも1,000mの上方向への垂直高度。誤差±10mの精度で、承認された方法で計測。 57.12.4 長距離 —:— 距離は42.2kmを超えてはならず、コースは主に山登り、または山登りと山下りであること コースの総上昇高度は2,000mを超えてはならない。 男子の優勝記録は2～4時間で、舗装面は総距離20%未満でなければならない。 57.12.5 リレー —:— あらかじめ決められ知らされていれば、どんなコースでも、性別・年齢が混在するチームでも行うことができる。それぞれの走る距離と高度はクラシック種目の定義を考慮する 〔注意〕 世界選手権では、伝統的にクラシックUphillとクラシックUP & Downは大会の交互に行なわれる。	(削除)			
TR57.13	スタート地点およびフィニッシュ地点において、水やその他の適切な飲食物を提供するものとする。追加的な水、スポンジ供給所をコース沿いの適切な場所に設ける。	(削除)			

---

# 競技用靴に関する規程の修改正のポイント (WA:2026.1.1～)

## 競技用靴に関する規程（WA）①

---

- 適用対象競技会 全てのWRk
- 使用可能シューズ 種目別に使用が認められている承認シューズ  
承認シューズリスト記載のシューズ  
[https:// certcheck.worldathletics.org/FullList](https://certcheck.worldathletics.org/FullList)
- 承認シューズ 市販シューズ（Available Shoe）  
開発用シューズ（Development Shoe）
- カスタマイズ 医療目的の矯正に限定され、WAの事前承認要（承諾通知書）  
軽微なものでもWAへの事前通知が必要
- 事前チェック（招集所） 不可
- 事後チェック 疑義があった場合、競技終了後にチェック  
必要があれば現物回収、WAへ送付
- 未承認シューズの使用 失格  
競技会終了までに承認・未承認の判定ができない場合は  
記録は非公認（UNC TR5.2）
- シューズコントロールオフィサー 原則、シューズチェック専門担当者として任命

## 競技用靴に関する規程②

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
トラック種目 フィールド種目 (競歩を除く)	スパイクシューズ または ノンスパイクシューズ 20mm	すべての跳躍種目では、前足部中央のソールは踵中央のソールより高くなってはならない。 (競技用靴に関する規程8.3項および8.4項参照： シューズ内部の長さの12%と75%の位置)。
競歩種目 (トラック、道路) 道路競走種目	40mm	
クロスカントリー種目	スパイクシューズ：20mm または ノンスパイクシューズ ：40mm	2026年3月31日まで適用。 競技用靴に関する規程8.6項により、2026年4月1日以降は クロスカントリー種目で着用するスパイクシューズ、ノンスパイクシューズの厚 さに制限は設けない。
マウンテンレースとトレイルレース	制限なし	

# 競技用靴に関する規程の国内適用①

	WA規程	国内適用
対象競技会	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全てのWRkに適用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全てのWRkに適用</li> <li>• 非WRkも原則として適用*</li> </ul>
使用可能シューズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 種目別に使用が認められている承認シューズを使用しなければならない</li> <li>• 承認シューズリスト</li> </ul> <p><a href="https://certcheck.worldathletics.org/FullList">https:// certcheck.worldathletics.org/FullList</a></p>	
承認シューズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市販シューズ (Available Shoe)</li> <li>• 開発用シューズ (Development Shoe)</li> </ul>	
カスタマイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 医療目的の矯正に限定され、WAの事前承認要 (承諾通知書の携帯必須)</li> <li>• 軽微なものでもWAへの事前通知が必要</li> </ul>	

## 競技用靴に関する規程の国内適用②

	WA規程	国内適用
事前チェック (招集所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シューズチェックをしてはならない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招集所ではピンチェックのみで可</li> <li>・靴底厚の計測は不要</li> <li>・主催者判断で事前チェックを行うことは妨げないが、その際のチェックは承認シューズリストとの照合のみ実施</li> <li>・この場合、未承認靴であれば指摘し、交換を求める</li> <li>・未承認靴のまま競技に参加した場合は、失格扱い</li> <li>・承認靴／未承認靴の判定ができないまま競技に参加させることは可能だが、その情報は関係する他の審判員と共有</li> </ul>
未承認シューズ での競技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技会終了までに未承認シューズと判断された場合は失格とする。</li> <li>・競技会終了までに判断できない場合は、失格とせず、記録は非公認 (UNC TR5.2) とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技会終了までに未承認シューズと判断された場合は失格とする。</li> <li>・競技会終了までに判断できない場合は、失格とせず、記録は非公認 (UNC TR5.2) とする。  <ul style="list-style-type: none"> <li>＜結果発表時は「N.M」＞</li> <li>＜記録申請時には当該記録は除外＞</li> <li>＜記録証発行時は「非公認」と明記＞</li> </ul> </li> <li>・後に承認シューズと判明したら、結果訂正</li> </ul>

## 競技用靴に関する規程の国内適用③

	WA規程	国内適用
シューズ コントロール オフィサー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則、シューズチェック専門担当者として任命する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・任命が必要な競技会（候補）</li> <li>✓ WRk 1 : GGP、ラベルロードレース</li> <li>✓ WRk 2 : アジア大会、WAパーミット競技会</li> <li>✓ WRk 3 : 一般およびU20の各日本選手権 全日本実業団、日本インカレ、 インターハイ</li> <li>・その他競技会での任命は主催者判断で可</li> <li>・オフィサーと総務員の兼任も可</li> <li>・オフィサーを任命しない競技会では、トラック審判長、 フィールド審判長がチェック実施</li> </ul>

### \* 国内・非WRkへの適用の考え方

- ・当該規程を適用するかどうかは、主催者判断
- ・普及的要素の強い競技会や競技レベルが高くない競技会では、適用することが現実的でないものもあり
- ・上位大会につながる競技会や競技レベルが高い競技会では、記録の公平性をより厳格に担保する観点から適用する

2025年度 全国競技運営責任者会議

2026.2.11

Book C – C7.1



## MARKETING AND ADVERTISING RULES

*(Approved by Council 21 March 2023,  
effective 31 March 2023)*

『競技会における広告および展示物に関する規程』

# 事前質問

【広告規程について】

**広告規程について陸連の見解を聞きたい。**

どの程度守らなければならないのか、だいたいよいのか。

伝達講習会等では遵守と言われるが、陸連主催の高校駅伝・女子駅伝・男子駅伝などいずれもTV放送があったが、明らかに広告規程に抵触するウェア等が映り込んでいたり、それでレースに出ている様子があった。

(招集後のベンチコート, レース中のアームウェア, スパッツ特に2XUの大きなXなど)

これは、これまでも毎回のように出てくるが、アップデートするつもりがないのか、見逃してしまうレベルであれば、問題ないのか。

現場では広告規程の事を言っても、TVに出ていた選手が着用していた！ということで守らない選手や指導者がいたり、また広告規程を適用する競技会とそうでない競技会が混在することで選手や指導者にイマイチ根付いていない。

適用する競技会の内容の

(iii) テレビ放映またはインターネット等によって不特定多数に送信される競技会については、昨今、ほとんどの競技会で選手や指導者が撮影した動画や静止画がSNS等にアップロードされ、不特定多数の閲覧があることを考えれば、全ての競技会がこの広告規程が適用されるべきではないだろうか。

広告規程はルールなのか、努力目標なのか、このあたりをしっかりと説明していただきたい。

# 2026修正 ※医療用テープに関する規程の修正 (BookC C-7.4) / (ガイドライン)

6.5 Any medical, bandage or general tape used by an Athlete may either be plain colour or display the Athlete's name on the tape. Commercial names/Logos on medical, bandage or general tape are not permitted. 【原文】

6.5 競技者が使用する医療用テープまたは一般的なテープは、無地でも、テープに競技者の名前が付いていても構わない。医療用テープまたは一般的なテープに記載される商品名/ロゴは、大会主催者の書面での承認が必要である。



6.5 競技者が使用する医療用テープまたは、一般的なテープは、無地でも、テープに競技者の名前が付いていても構わない。**商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープの使用は認められない。**

〔注釈〕 **商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープの使用には、大会主催者の書面での承認が必要となる。**

**〈参照 Book C、C7.4『ガイドライン』「MEDICAL/GENERAL TAPE」の欄〉**

※医療用テープに関する規程の修正（Book C C-7.4）

6.5 競技者が使用する医療用テープまたは、一般的なテープは、無地でも、テープに競技者の名前が付いていても構わない。**商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープの使用は認められない。**

〔注釈〕 **商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープの使用には、大会主催者の書面での承認が必要となる。**

〈参照 Book C、C7.4『ガイドライン』「MEDICAL/GENERAL TAPE」の欄〉

〔国内〕 C7.1 1.1.1〔国内〕の競技会では、競技者は、競技規則に反しない限り、**商品名/ロゴの表示のある**医療用テープまたは、一般的なテープを使用することができる。表示できる製造会社(商品)名/ロゴは、1枚につき最大の大きさは、10cm<sup>2</sup>とする。



# MARKETING AND ADVERTISING REGULATIONS

GUIDELINES ON CLOTHING AND ACCESSORIES  
for International Invitation Meetings and Competitions



**WORLD  
ATHLETICS™**



## MEDICAL/GENERAL TAPE

Any medical or general tape used by an Athlete may be either a plain colour or have the Athlete's name on the tape. Any commercial name/Logo on medical tape must be approved in writing by Event Organizer.

## 医療用テープ/一般的なテープ

競技者が使用する医療用テープまたは、一般的なテープは、無地でも、テープに競技者の名前が付いていても構わない。  
商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープの使用には、大会主催者の書面での承認が必要となる。

# 競技会における広告および 展示物に関する規程 2025.4.1

国際招待試合、サーキットおよび、  
ラベルロードレースにおける、  
衣類およびアクセサリー等 **ガイドライン**

※日本陸連 競技運営委員会広告規則検討PT

**JAAF**



**WORLD  
ATHLETICS™**

## 個人の所有物およびアクセサリ

### すべてのタオル（ビーチ、バス、ハンド、フェイス）およびブランケット

- 1x 製造会社名/ロゴ
- 2x アスリートスポンサー名/ロゴ
- 1x 競技者名または個人のソーシャルメディアハッシュタグ



それぞれ  
40cm<sup>2</sup>—  
最大の高さ 5cm、長さ 10 cm

### すべてのバッグ（タグとラベルを含む）

- 1x 製造会社名/ロゴ
- 2x アスリートスポンサー名/ロゴ
- 1x 競技者名/競技者個人のソーシャルメディアハッシュタグ



それぞれ  
40cm<sup>2</sup>—  
最大の高さ 5cm、長さ 10 cm

### ドリンクボトル（最大1リットルのボトル）

- 2x 飲み物の提供者/製造者および(または)  
アスリートスポンサー



それぞれ  
40cm<sup>2</sup>— 最大の高さ 5cm

[国内] アスリートスポンサー名/ロゴのうちの1つを、あるいは、  
競技者名または個人的なソーシャルメディアハッシュタグを、所属団体名/ロゴまたは、  
学校名/ロゴにすることができる。高さは最大5 cm、長さに制限なし。  
学校名/ロゴの大きさに制限はなし。

## 医療用テープ/一般的なテープ

競技者が使用する医療用テープまたは、一般的なテープは、無地でも、テープに競技者の名前が付いていても構わない。商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープの使用には、大会主催者の書面での承認が必要となる。

[国内] 競技者は、競技規則に反しない限り、商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープを使用することができる。表示できる製造会社（商品）名/ロゴは、1枚につき最大の大きさは、10 cm<sup>2</sup>とする。

[



## ※医療用テープに関する規程の修正 ガイドライン

### 医療用テープ/一般的なテープ

競技者が使用する医療用テープまたは、一般的なテープは、無地でも、テープに競技者の名前が付いていても構わない。商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープの使用には、大会主催者の書面での承認が必要となる。

[国内] 競技者は、競技規則に反しない限り、商品名/ロゴの表示のある医療用テープまたは、一般的なテープを使用することができる。表示できる製造会社（商品）名/ロゴは、1枚につき最大の大きさは、10cm<sup>2</sup>とする。

[

## 具体例【ファイテン】



### パワーテープ

繰り返し掲出 例 **×**  
「1ヶ所以外を消すか、  
使用しない」対応。



チタンテープ  
1つ1つ扱い



## 【国際大会の現状】

貼付する医療用テープに関して、  
WAS大会や、アジア選手権、ダイヤモンドリーグ・コンチネンタルツアーなどで事前申請は求められていない。

WA：WAスポンサー保護から、WASにおいて、  
ユニフォーム・アクセサリ類のデザイン全ての提出  
と承認あり。医療用テープは対象とされていない。  
(WAスポンサーとバッティングするカテゴリーの不可)

DL、CT：ユニフォーム・アクセサリ類の扱いは、主催者  
の裁量に委ねられ、運用の程度は主催する国ごとに異  
なる。大会での広告規程の運用を事前に代理人に周知  
する程度

# 資料編 Ⅰ

## 中学校のユニフォームについて

部活動の地域以降に伴い、中学校の部活動をクラブチームの指導者が始動している。クラブチームとしては陸連登録をしていないため、所属生徒たちはいずれのチームも学校のユニフォームを着用している。

### ①学校のユニフォームにクラブチームのワッペンを付けることが可能かどうか

(クラブチームとしては、練習のサポートのみを行っているため、陸連への登録はクラブチームとしては行っていない。)

**【回答】** 本件の場合、『クラブチームのワッペン』は、スポンサー名/ロゴの扱いになります→日本陸連の広告規程としては、登録が「学校」だろうが、「クラブ」であろうがいずれも、製造会社名/ロゴを含め3つ（つまりスポンサー名/ロゴは2つまで）まで表示が可能です。その具体的サイズは、

※ 上衣、下衣 それぞれ1つ・場所は問わない。上衣、下衣 とも全く同一の表示でなければならない

※40cm<sup>2</sup>、最大高さ5cm、最大長さ10cm

- 但し、〔全国中学校体育連盟〕には別に広告・宣伝に関する規程（申し合わせ事項）があります。中体連が主催や共催される競技会に参加の際は、その規程に従うことになります。

②リストバンドなどアクセサリーにクラブチームのワッペンを表示できるか

【回答】

アクセサリーの規定：「リストバンド」「ヘッドバンド」「ハチマキ」等は、その他のアパレルに分類。

所属団体名 / ロゴ または 学校名 / ロゴ を 1 つ / 一箇所表示できる。

所属団体名 / ロゴ : 10 cm<sup>2</sup> まで 学校名 / ロゴ : 大きさの制限なし。

ここでの所属団体名 = 陸連登録をしている団体となるため、学校名で大会に出場する場合は所属団体としてクラブチームのロゴを表示することは不可

## 資料編 II

**現在2XUで新しいデザインの商品が複数出ている。**

大きなエックスのデザインが入ったタイツなどは広告規定上NGとなっているが、新しいデザインでは薄くXの刺繍が入っているタイツもある。

どの程度まで違反とみなすか、陸連としての見解を確認したい。

**【回答】** 透かしだろうと、薄くだろうと、「掲出」が確認できれば、数とサイズで判断。

レッグウォーマー：10cm<sup>2</sup> 最大高さあるいは、長さ 4cm。

※当該商品は サイズも長さも ✖

スパッツ：一か所 場所は問わないが 40cm<sup>2</sup> 最大高さ 5cm、最大長さ10cm。

「装飾的なデザインマーク」 体側または、裾に 連続または1つ 幅 10cm。

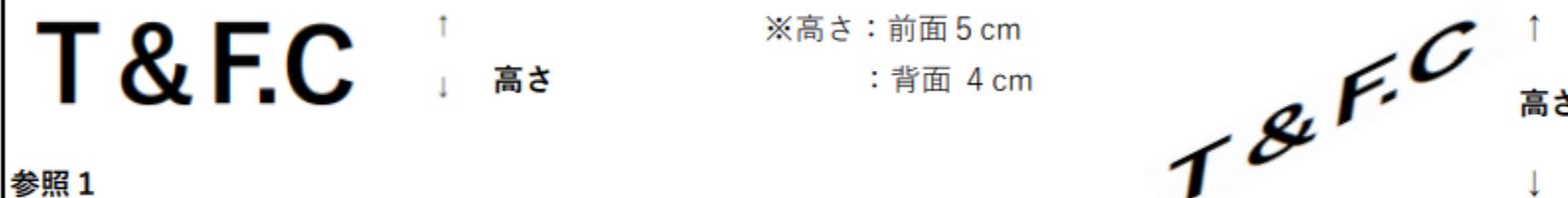
アルファベット付記のものは ✖

※当該商品（グレー地）は 複数個掲出、また大きく『X』（透かし）も。体側に沿って認められる「装飾的なデザインマーク」としても認められないもの。

※当該商品（ブラック地）は 以前の黄金色ラインのもの同様に、「装飾的なデザインマーク」として認められないもの。



# 資料編 Ⅲ

4. ロゴ		広告規程 条文番号
Q	所属名（ロゴ）を斜めに表示できますか。また、斜め文字も含め、全体に斜めに配置した場合、高さの解釈はどうなりますか。	〔国内〕
A	横なが長方形のものを斜めに掲出〔参照1〕しても構いません。 斜め文字/ロゴ表示の場合（右上がり斜めに表示した場合）は、高さは 左下角から右上角まで、 と捉えます。 〔参照2〕 高さ・長さを枠として捉え、その範囲内での斜め文字表示は可能です。	
	 <p>参照1</p> <p>斜めに掲出 ○</p> <p>参照2</p> <p>参照3</p> <p>※高さ：前面 5 cm ：背面 4 cm</p> <p>枠の範囲内での 斜め文字表示 ○</p>	

# 施設用器具委員会報告

## 1. 2026施設用器具委員会関係の規則の改正

調整中の箇所もあり、最終条文については、ルールブックで確認してください。  
地域陸協にも伝達をお願いします。

概要：WA競技規則及び施設マニュアルとの整合と国内競技規則変更による整合

### (1) グループスタートのスタート位置の変更

WAの主要な大会で運営している方法と整合するとともに暑熱対策や審判員の負担軽減をするためグループスタートのスタート位置を変更する。

➡ 競技規則、陸上競技場公認に関する細則

### (2) ブレイクラインの考え方の変更

グループスタートのスタート位置を変更することに伴いブレイクラインの考え方をWA（WA施設マニュアル）の考えに整合する。

➡ 競技規則

### (3) 300mHのWA規格移行への対応

➡ 競技規則、陸上競技場公認に関する細則

### (4) やり投助走路踏切付近の舗装材の対応

やり投助走路踏切付近に引張強度の違う同製品の敷設についてWAの規定に整合する。

➡ 陸上競技場公認に関する細則

### (5) その他の競技規則の改正

➡ 競技規則

### (6) 室内陸上競技場のショートトラックへの移行による室内陸上競技場公認に関する細則の対応（2026年度中に改正予定）

### (7) ショートトラックへの移行による屋外種目別陸上競技場施設公認に関する細則の対応（2026年度中に改正予定）

## (1) グループスタートのスタート位置の変更

2025 東京世界陸上において WA よりグループスタートの区画はコーンで区切るよう指示があった。WA の主要な大会で運営している方法と整合するとともに暑熱対策や審判員の負担軽減をするため変更し、併せて WA 施設マニュアルに整合する。

### 【概要】

競技規則ではグループスタートのスタートラインを計測する方法は、縁石の外端から 300 mm 外方とラインの外端から 200 mm 外方を測る方法がある。国内では代用縁石を設置することとして縁石の外端から 300 mm 外方を計測している。ラインの外端から 200 mm 外方を測ることとして、ライン上にコーンを置く方法にする。併せてブレイクラインの考え方を WA 施設マニュアルに整合する。

### 【対応】

- ① 当該箇所またはトラックの改修および公認満了 2032 年 3 月 31 日までの検定までに適用する。
  - ・ 改正の周知期間を考慮して、2026 年度は対応できるところを可能として公認満了 2031 年度の検定までに適用とする。
  - ・ 検定を待たずに変更することは可能。
  - ・ 変更した時には検定が必要となる。
- ② グループスタートのスタートラインを変更する。
  - ・ 従前ラインの消去と新スタートラインを塗布する。
  - ・ 標識タイルの設置位置を変更する。  
対応した標識タイルの色は赤とする。
  - ・ 3000m、5000m のブレイクマーカー（緑色 50×50）は C 点角石線とする。
  - ・ 標識タイル計算書の改定をする。
- ③ コーン（中）を 40 個追加して整備する。
  - ・ コーンの高さは 15cm～50cm のものとする。（高い物は不可）
  - ・ 競技場にとする。コーンの一般的な高さは 75cm であり、低いものとする。45cm が販売されている。）
- ④ スタートラインを変更した競技場をリスト化する。
  - ・ 競技会時に総務、技術総務、審判長が確認する。
- ⑤ 従前のスタートラインでは、代用縁石をすべて設置する。
  - ・ スタートラインを変更していない競技場では代用縁石をすべておいて競技会を実施する。
- ⑥ 3000mSC は従前の通り代用縁石を設置する。
  - ・ 縁石の外端から 300 mm 外方を計測点とする。
  - ・ スタートラインの変更はしない。
- ⑦ ブレイクの位置は前方の曲走路の接線点とする。（WA 施設マニュアル）
  - ・ 別紙

## 【競技規則】

### TR 14. トラックの計測

14.1 略 縁石を撤去しコーンまたは旗で代用する（代用縁石を含む）方法は、水濠を越えるためにメイントラックを離れる障害物競走、TR17.5.2による第1グループと第2グループの走路の境界、縁石設置のない直走路にも適用されなくてはならない。後者の場合は（コーン、旗または代用縁石を置く）間隔が10mを超えないようにする。

〔国内〕

1. メイントラックを離れる障害物競走とグループスタートで300mm外方を計算された競技場では、代用縁石を置くものとする。

14.2 計測は縁石の外端から300mm外方、そして曲走路において縁石がない場合（あるいは、障害物競走で水濠を越えるために縁石が置かれていないメイントラックを離れる場合）、ラインの外端から200mm外方を測る。

〔国内〕

国内の競技場では代用縁石を置くことからところは縁石とみなし、300mm外方を測る。

### TR17. レース

#### 17.5.1 〔国内〕 別紙

#### 17.5.2 〔国内〕

1. 第1グループと第2グループの走路の間には代用縁石を置き、二つに分ける。合流地点には他とは異なる彩色の代用縁石を置く。
2. 第2グループのスタートは、第1グループと第2グループの走路の間のラインの外端から200mm外方を測り、ライン上に150mm～500mmの高さのコーンを置く。（200mm外方スタートライン）当該箇所またはトラックの改修および公認満了2032年3月31日までの検定までに適用する。

【参考】10000mのグループスタート（800m5レーンスタート同じ位置）



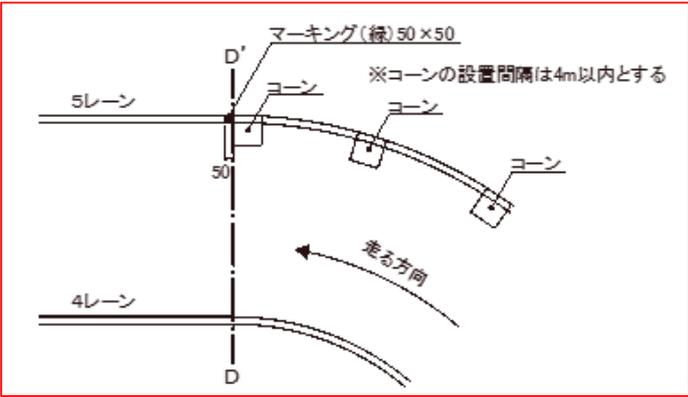
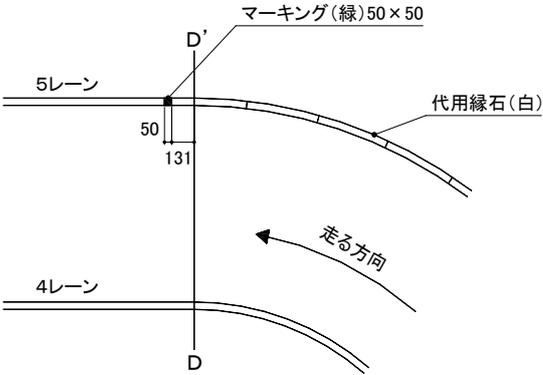
【陸上競技公認に関する細則】

(標識)

第10条

6. 標識は走路の両側の縁に明瞭で、耐久性のあるものを固定する。グループスタート 200 mm外方スタートラインの標識の色は赤とする。

別表1 全天候舗装用レーンマーキング色分け標準表

番号	項目	色分
8	<p>3000m、5000mのグループスタートの末端(合流点になる所) 200mm外方スタートラインの場合</p>  <p>300mm外方スタートラインの場合 (ただしL=80m、R=37.898mの場合)</p> 	緑

別表2 用器具一覧

代用緑石	◇	1式	1	1	((1))	((1))	障害物競走及びグループスタートに使用する全延長分 グループスタート 200 mm外方スタートラインの場合はコーン(中)を設置する
コーン(中)		((40)) 本	((40))	((40))	((40))	((40))	高さ 150 mm~500 mmのもの グループスタート 200 mm外方スタートライン用

## (2) ブレイクラインの考え方の変更

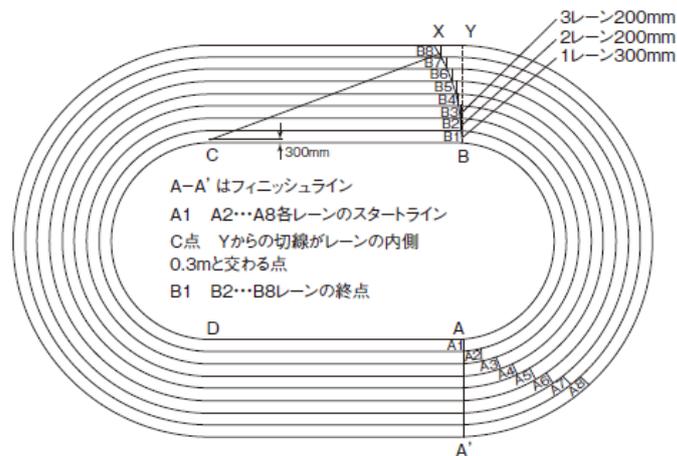
### 【概要】

ブレイクラインの設置、計算方法に違いがある。わずかな違いとなるがグループスタートのスタート位置を変更するに伴いブレイクラインの考え方をWAの考え（WA施設マニュアル）に整合する。

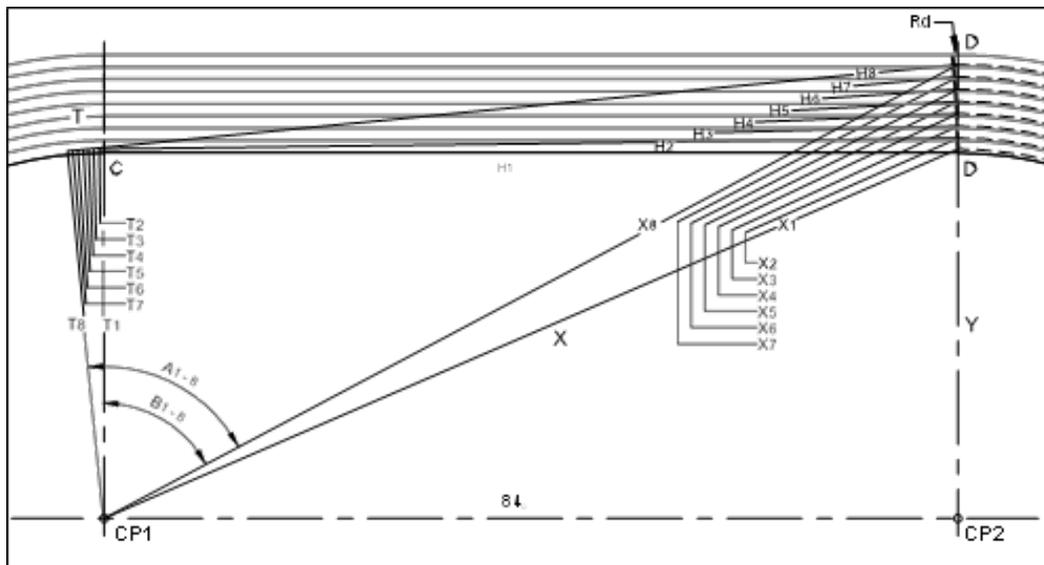
但し土質の競技場はその都度ラインを設置する必要があり、従来方法の角石からとする。

- 日本のブレイクラインは角石 C（直線と曲走路の境）から同じ距離とする。

第1曲走路をレーンで走る800m競走のスタート区画



- WA 施設マニュアルのブレイクラインは曲走路の接線点に向けた距離とする。理論上の走行ライン上ではなく、Hライン上で測定される。



図は WA 施設マニュアルより

X 距離 CP1 から D1/D8      Y 距離 CP2 から D1/D8  
H 距離 H2/H8 から T2/T8      T 接線点 T2/T8  
D/D 線からのブレイクラインの Rd 差 (Dからブレイクラインまでの差)  
レーンの縁石上の C 点と D 点

## 【対応】

- ① 3000m、5000mのグループスタートの第2グループを200mm外方スタートラインとした時のブレイクマーカー（緑色50×50）はC点角石線上とする。
- ② グループスタートの第2グループを200mm外方スタートラインとした時の800mのブレイクラインは、当該箇所またはトラックの改修および公認満了2032年3月31日までの検定までに適用する。
  - ・ ブレイクラインの5レーン以降のスタートラインにわずかに差がある。
  - ・ ブレイクライン、ブレイクラインに関連するライン（800m、1600mリレーなど）は検定時に新たな角度表と確認する。差がある時には修正する。  
また、塗り直し時には、新たな角度表により塗布する。
- ③ 土質競技場では、競技会ごとにラインを入れることから従前の考え方のおりとする。

## 【競技規則】

### TR17. レース

#### 17.5.1 〔国内〕

ii 800 m競走でブレイクラインまでレーンを走る場合のスタート位置は二つの要素に注意しなければならない。第1に、適用する通常の階段式差は200m競走の場合と同じである。

第2に、外側のレーンの走者のためにバック・ストレートの終端でほぼ同じ距離となるように、内側のレーンの走者よりも各レーンのスタートの位置を順次前に出して調節することである。

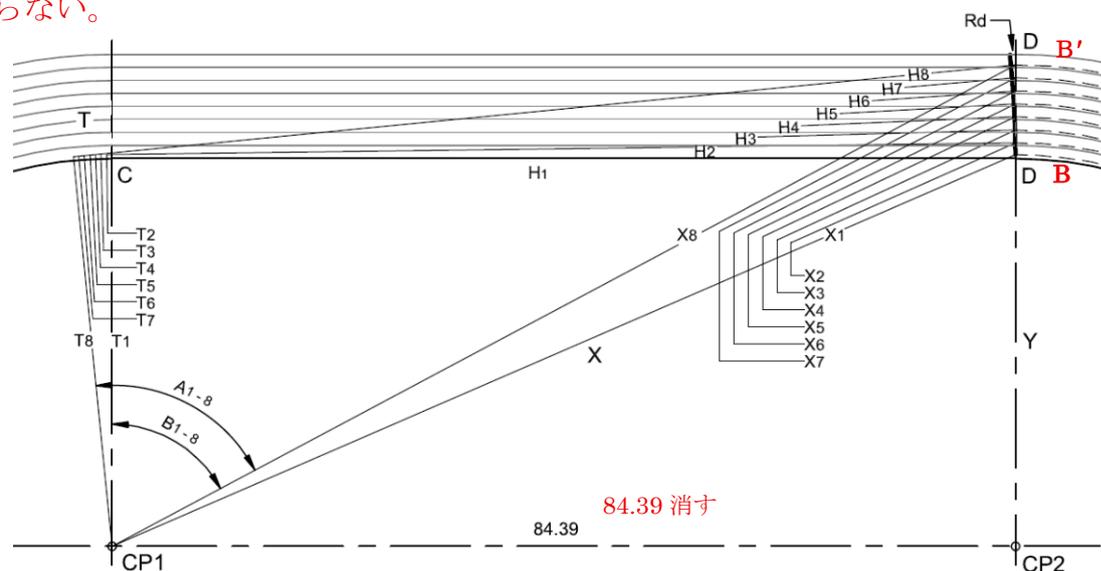
各レーンのスタート位置については、次の方法が望ましいとする。

グループスタートの第2グループを200mm外方スタートラインとした時の全天候舗装競技場の場合

- (1) 1レーンのブレイクライン（X1）は、内側の縁石の外端から300mmの地点。
- (2) 第2レーンから一番外側のレーンまでは、1レーンのC点先の曲走路の周りの300mmの測定線に沿ってカーブを十分に回り込むように、ブレイクラインの外側の端から曲走路の接線点から決まる。

スタートの位置の正確な調節は次の方法で決定する。

800m競走における各レーンのスタートの位置をB・B'線上より前に出さなければならない。



Rd : 斜辺 H 上での測定値。理論上の走行ライン上の短縮ではない。  
各レーンのスタートの位置を前に出す距離は、レーンの幅が 1 m220、直線の長さ 80 m とすると、次の数値になる。

第 1 レーン	0	第 2 レーン	8 mm	第 3 レーン	34 mm
第 4 レーン	79 mm	第 5 レーン	141 mm	第 6 レーン	222 mm
第 7 レーン	321 mm	第 8 レーン	437 mm	第 9 レーン	571 mm

全天候舗装競技場の場合のブレイクラインは、当該箇所またはトラックの改修および公認満了 2032 年 3 月 31 日までの検定までに適用する。それまでに修正されていない競技場は土質競技場の場合を適用する。

#### 土質競技場の場合

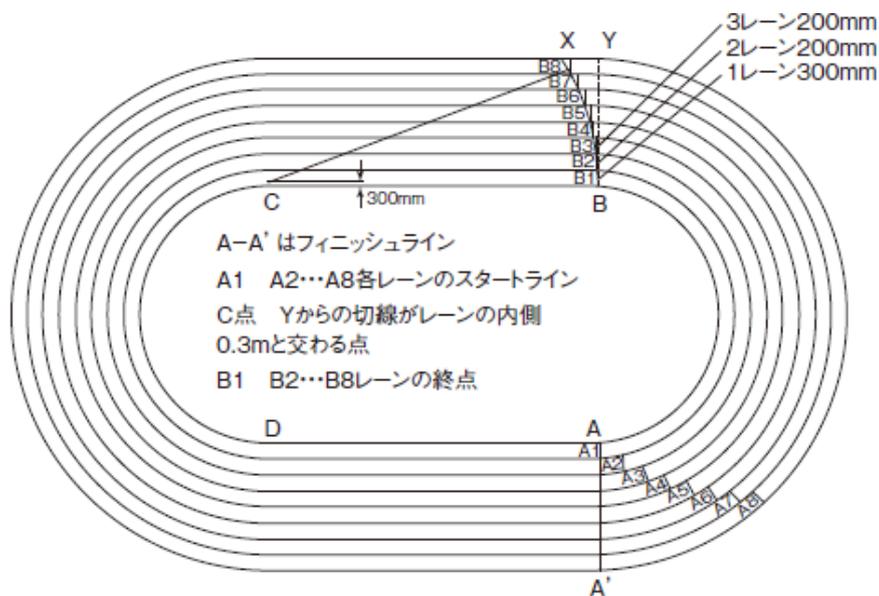
- (1) 1 レーン**のブレイクライン (B1)** 点は、~~内側のレーンのバック・ストレートの入口で、内側の縁石の外端から 300 mm の地点。~~
- (2) ~~定点 Y は、AB1 の延長線で一番外側のレーンの、そのレーンの内側のラインから 200 mm の地点。~~
- (3) **定点 C 点** は、バック・ストレートの終点、即ち、次の曲走路の始まる所で内側の縁石の外端から 300 mm。
- (4) ~~CB1 を半径としてトラックに弧 B1X を引く。このラインは、トラックに幅 50 mm で示す。~~
- (5) 第 2 レーンから一番外側のレーンまでは、**C 点より CB1 を半径として、B1X と各レーンの内側から 200 mm の点の交点により決める。**

スタートの位置の正確な調節は次の方法で決定する。

800m 競走における各レーンのスタートの位置を B1Y から各レーンの終わり (B2 ~ B8) までの距離を前に出さなければならない。

各レーンの正当なスタートの位置を前に出す距離は、レーンの幅が 1 m220、直線の長さ 80m とすると、次の数値になる。

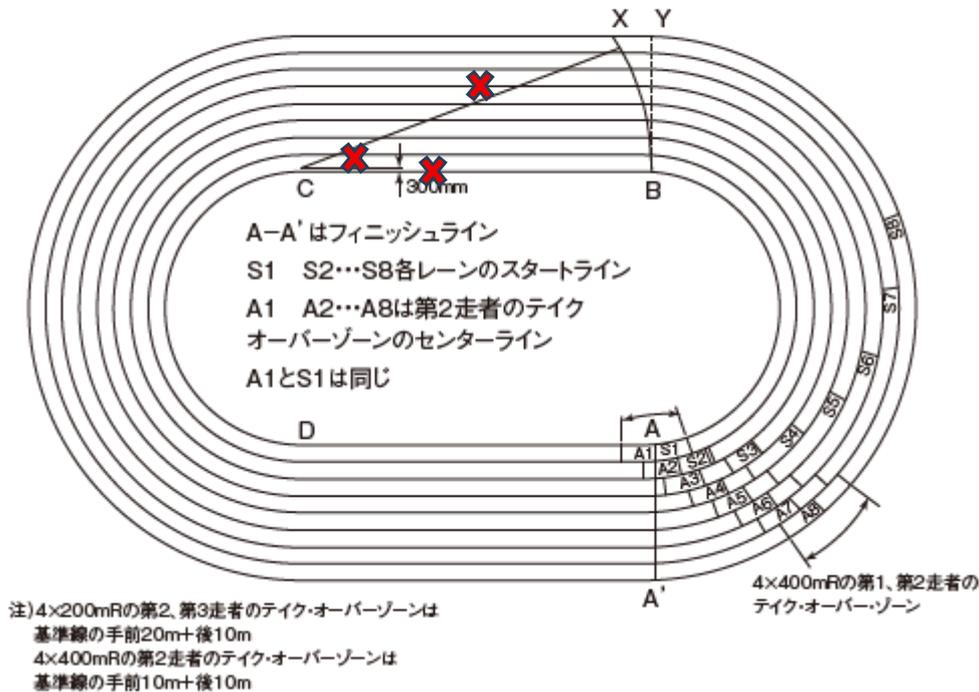
第 1 レーン	0	第 2 レーン	8 mm	第 3 レーン	34 mm
第 4 レーン	79 mm	第 5 レーン	143 mm	第 6 レーン	225 mm
第 7 レーン	326 mm	第 8 レーン	446 mm	第 9 レーン	585 mm



## 24.16.2 図

図の矢印、300mm を削除

4×200mおよび4×400mリレーで1周とつぎの曲走路  
までをレーンで走る場合のスタート位置と地域変化図



### (3) 300mH の WA 規格移行への対応

#### 【陸上競技公認に関する細則】

(標識)

#### 第10条

- 2025年度以前の規格における 300mH のハードル位置の標識は別途定める方式によるものとし、150m のスタートラインは、別途定めるところに従い、300mH のハードル位置についての標識を利用する。  
2026年以降の規格における 300mH のハードル位置の標識は 400mH の標識  
タイルによる。新たな標識タイルの設置はしない。150m のスタートライン  
は、別途定める方式による。

※ 従来の (2025 年度以前の規格) 300mH のビスを残す時には、検定時に設置位置を確認する。整備が必要となります。

### (4) やり投助走路踏切付近の舗装材の対応

#### 【概要】

2023 年 WA カウンシル会議において改定され、ブタペスト世界陸上、パリオリンピックで対応している。2025 東京世界陸上において WA よりやり投助走路の踏切付近 (L=8m) を同じ舗装材で強い強度の物で改修するように指示があり、国立競技場を改修した。まだ、WA 施設マニュアルの改正は明文化されていないが、WA の規定に整合する。

## 【2023年WAカウンスル会議】

競技室内の高ストレスエリアの構成の違いに関する陸上競技施設マニュアルの改正案を承認した。最近の経験から、合成表面は、実施されるイベント(トラック、ジャンプ、スロー)によって非常に異なるストレスレベルを受ける可能性があることが示されています。競技場の陸上競技エリア間で、引張強度は異なるが同じブランドとモデルの表面を実装するアプローチは、メーカーと検討され、最近経験された問題を回避することを目的として、関係するアスリートの一部でテストされています。この改正の結果、インフィールドの高応力領域は、この構成の違いを認識して、ランニングオーバルと比較してわずかに異なる引張強度特性を持つことができるようになった。

## 【陸上競技公認に関する細則】

### 第8条

- 2 (6) 走路、助走路及び半円部分の舗装材は、すべて同等のものとし、表面仕上げおよび硬度は、すべて同一とする。また、舗装を一部改修するときにも、舗装材は、既存の舗装材と同等のものとし、表面仕上げおよび硬度は、既存の舗装と同一とする。ただし、やり投助走路のスターティングラインの円弧より後方8mについて、同一舗装材で若干異なる引張強度(WA基準)とすることができる。(条文調整中)

## (5) その他の競技規則の改正

### 第2部トラック競技

#### TR22.1

ハードル競走の標準の距離は、次の通りとする。

男子(一般、U20、U18): 110m、**300m**、400m

女子(一般、U20、U18): 100m、**300m**、400m

100m、110m、400mでは、各レーンに10台のハードルを設置する。**300mでは各レーンに国際基準では7台、国内基準では8台のハードルを設置する。**

#### 男子

距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離
110m	13m720	9m140	14m020
<b>*300m</b>	<b>50m</b>	<b>35m</b>	<b>40m</b>
<b>**300m</b>	<b>45m</b>	<b>35m</b>	<b>10m</b>
400m	45m	35m	40m

#### 女子

距離	スタートラインから 第1ハードルまでの距離	ハードル間の距離	最終ハードルから フィニッシュラインまでの距離
100m	13m	8m500	10m500
<b>*300m</b>	<b>50m</b>	<b>35m</b>	<b>40m</b>
<b>**300m</b>	<b>45m</b>	<b>35m</b>	<b>10m</b>
400m	45m	35m	40m

\*国際基準 \*\*国内基準

TR22.3 ハードルの標準の高さは、次の通りとする。

男子	距離	一般	U20	U18	中学校*
	110m	1m067	991mm	914mm	914mm
	*300m	914mm	914mm	838mm	-
	**300m	-	914mm	838mm	-
	400m	914mm	914mm	838mm	-

女子	距離	一般	U20	U18	中学校*
	100m	838mm	838mm	762mm	762mm
	*300m	762mm	762mm	762mm	-
	**300m	-	762mm	762mm	-
	400m	762mm	762mm	762mm	-

\*国際基準 \*\*国内基準

### 第3部投てき競技

#### TR32.11 着地場所

着地場所の最大許容下方傾斜度は、**サークルの中心の高さ、またはスターティング・ラインの中心の高さから**、投げる方向で1,000分の1（0.1%）を超えてはならない。

#### TR36.6

[注意]Green 新規

チューブの目的は、ハンマーがケージの網に引っかからないようにし、競技が遅れる可能性を減らすことにある。ワイヤーをチェックできるように、透明なプラスチックチューブであることが必要である。

### 第5部200m（ショートトラック）競技

#### TR43.1 Green 新規

1周が標準の200m以外の長さのトラックで達成された記録であっても、そのトラックの標準長さが**201.20m（220ヤード）を超えない場合には、ショート・トラックの記録として認められる。**

#### TR43.2

トラックは4レーン～6レーンとする。レーンの幅は右側のラインを含めて900mm～1m**200**とする。どのレーンも同じ幅で...

#### TR43.2Green 新規

トップレベルの競技会を開催するには、**6レーンのトラックがあることが望ましい。周回トラックの理想的な幅は1mである。**

#### TR43.4

トラックの内側を白線で区分する時は、曲走路には必ず、直走路には必要があれば、**高さ100mmから150mmのコーンを追加で設置しなければならない。** コーンは白線上に、その底面の端がトラックに最も近い白線の端と**一致するように設置しなければならない。** コーンは曲走路では1 m **500**を超えない間隔で、直走路で10 mを超えない間隔で設置しなければならない。〔国際〕技術代表の承認があれば、同様の高さの他の適切な物理的マーカーを使用することもできる。...

#### TR43.4Green

コーンを置くときは、第1レーンの内側にある白線がそのレーンに含まれないということを考慮する必要がある。

#### TR44.6

グループスタートの場合、コースの外側半分は、高さ0.10mから0.15mのコーンで示され、コーンを当該レーンライン上に設置する。コーンの底面の端は、コースの外側半分に最も近い白線の端と一致するように設置し、コーンは1m500を超えない間隔で設置しなければならない。〔国際〕技術代表の承認があれば、同様の高さの他の適切な物理的マーカーを使用することもできる。

#### TR44.6 Green

色付きのレーンを示すラインのみでは、グループスタートにおけるトラックの外側半分を示すには不十分であり、物理的マーカーの使用要件の代替とはならない。

### 第6部 競歩競技

#### TR54.11.1

競技会では、周回コースは1周最長2km、最短1kmとする。〔国際〕但し、競技運営上の正当な理由により、1km未満の周回コースが必要とされる場合は、技術代表の承認を得て設定することができる。スタートとフィニッシュが競技場内の競技では、周回コースは競技場のできるだけ近くに設定する。

## 2. 競技会の派遣について

### (1) 技術総務の派遣

- ・ JTOの業務を補完するため、技術総務の任務について助言提言するため、施設用器具委員会から技術総務を派遣しています。
- ・ 派遣している大会：国民スポーツ大会、日本選手権、U16・U18日本選手権、日本選手権混成、ゴールデングラプリ、インターハイの6競技会
- ・ 助言する任務は、投てき用具の検査方法、投てき用囲いの設置など安全運用、推奨する技術総務/公式計測員の任務作業内容を主管陸協担当者へ指導伝達している。
- ・ 事前に「技術総務確認事項」送付して、競技場の用器具の確認、施設配置、ハードルの設置、角度線、距離線の設置、投てき用具の検査等について準備をしていただいている。

### (2) 国際道路コース計測員の派遣

- ・ 世界記録、アジア記録の認定は、WA認証コースでなければできません。この場合、競技に先立ち、正式に計測され記録されたとおりのコースであることを確認しなければなりません。（競技規則 CR31.21.4）
- ・ 当初のコース計測を行った計測員（A級、B級）またはその計測員に指名された者が、競技中に先導車に乗り込み、競技者が同じコースを走っていることを確認しなければなりません。
- ・ 施設用器具委員から国際道路コース計測員の派遣をしています。
- ・ WRKの競技会では国際道路コース計測員の任命が必須となりました。主催、後援競技会以外のWRKの競技会で派遣を希望する大会では、陸連に派遣依頼を提出してください。
- ・ プログラムの審判編成には「国際道路コース計測員」としてください。

### 3. 競技会での注意事項

#### (1) 300mH設置の注意事項

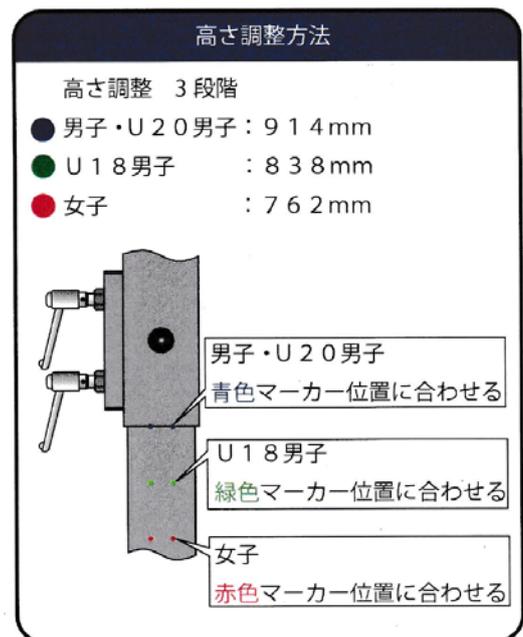
- 2026年度以降はWA規格 300mH を新たに公認記録対象種目となりました。
- 2026年度以降の競技場の対応は下記の通りとしています。
  - WA規格 300mH の新たな表示を行わない。  
400mH 4台目が1台目となり、400mH の位置となるので、**新たな標識タイルは設置しない。**
  - 国内規格 300mH を行わない(必要としない) 競技場では、検定時にビスの撤去とペイントの消去をする。2025年度の検定において対応することは可。
  - ビスを抜いた穴はウレタンでは充填は不要であるが、施工業者に確認すること。
  - 国内規格 300mH を必要とする競技場では、今までとおり整備する。
  - 但し、300mH 4台目は150mスタートとなるので、ビスを抜かずに、ビスを存置し、「150S -レーン数字」とペイントする。

#### (2) 4×1500mリレーの実施

- 日本記録が認定される種目で、実施される時がある。
- 4×1500mリレーの4走は4×1000mリレーの(1-2)を利用していました。リレーゾーンが20mから30mに変更された時に4×1000mリレーの標識タイルを変更して、この個所の標識タイルが抜けてしまっています。
- 4走のリレーゾーンの入に標識タイルが入っていない。競技会を実施する前に標識タイルを入れて検定を受けてください。

#### (3) 障害物の対応(競技規則 TR23.5)

- 障害物の高さにU18男子(838mm(±3mm))の規格が2020ルールに新たに定められた。
- 国内では競技会で行わないことから、〔国際〕対応になっているが導入されてもすべての競技場が対応するには10年近くかかることから、2020年からU18の高さにも対応した製品が納入されている。
- 固定障害は水濠改修時など固定障害の支柱を更新するとき、移動障害は更新するときに対応している。義務付けではなく、更新する以外の対応はしていないので注意されたい。現地検定等の対応もしていません。
- 納入した競技場では、高さの違いが判りづらく、競技会時に高さの修正に間違いがないよう注意をされたい。使用する審判員等に周知をしてください。



固定障害の高さの表示

#### (4) 走高跳の競技位置

- 公認競技場では走高跳のマークのあるところを認定しています。必ずマークのあるところで競技会を行ってください。マークのないでは走高跳の施設として検定をしていません。
- 特に踏切付近は舗装厚を18mmと厚くしています。(1種、2種は義務付け)
- 判定補助線は、芝生から1m以内の場合に塗布されています。
- トラック側の走高跳は2022年の規則改正により設置することができました。それより以前にマークをしている所があります。検定をしていない所では競技会を行わないようにしてください。検定をしたかどうかは、地元検定員に確認ください。必要な競技場では検定を受けてください。
- WA認証競技場では2022年以降の検定においてトラック側の走高跳を設置したところはWAに報告をしています。しかし、WAからはワールドランキングコンペティションの1.(a)(b)(c)(d)、2.(a)(b)には使用できないとのコメントがついてきています。アジア大会ではトラック側の走高跳を使用することはできません。



走高跳のマーキング

#### (5) 秤の調整

- 重さは緯度によって影響があります。投てき物を測る秤は、必ず10Kの確認をしてください。持ち込検査で正しく判断できるようにしてください。少なくともシーズン初めには確認をしていただきたい。
- 差がある時には取扱説明書により調整をしてください。



#### (6) ワールドランキングコンペティションでの投てき物の使用

- WA認証品の使用が明記された。(TR32.1) 日本陸連の検定品にはWA認証品ではない物があります。投てき物のリストには、WA認証番号と規格を記入するようにしてください。
- 最新の製品はWAのHPに掲載されている。WAのHPは更新されてしまうので、古い物はその年近くのHPで確認することになる。

主催者が用意する投てき物一覧表

器具	種別	メーカー	品名等	WA認証番号	規格等	数量	合計
ヤリ	男子(800g)	NISHI NORDIC	スーパー80m	I-01-0236	White	1	8
			エクスプレッソ-スティー-llflex6.1(steel)	I-99-0011	Red/white, red cord	1	
			チャール*オンスティール	I-99-0012	Yellow	1	
			スーパ*エリートスティー-ll90m	I-99-0020	White	1	
			オービットスティー-llflex6.6	I-99-0014	Blue/White	1	
		NEMETH	クラシック95m	I-09-0400	Violet/yellow/orange	1	
			クラシック90m	I-09-0100	Violet/yellow/green,violet cord	1	
			クラシック85m	I-09-0429	Violet/yellow/magenta,violet cord	1	

### (7) 兼用サークル表面の仕上げの追加

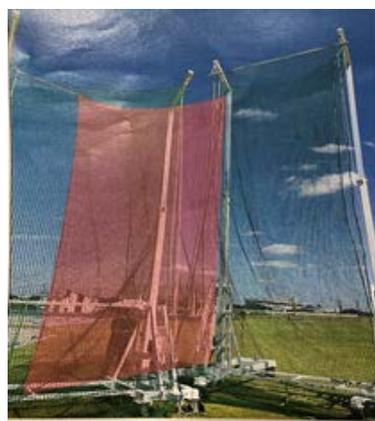
- ・ 2019WA施設マニュアルの改正において、ハンマー投の兼用サークル(ドーナツ板)は素材によっては雨天時に滑りやすいものがあり、競技者がけがをしないように、上部を白色以外で、滑らない仕上げとされた。
- ・ 検定品であるので、買い替え時には滑らないものを購入する。  
壊れやすいので製造会社に壊れにくい物の作成を要請中。
- ・ 買い替えるのは高額のため、買い替えるまでの措置として競技場にある製品には、滑らないテープを貼ることで対応可能としている。
- ・ 競技会では規格にあったものを利用してください。

### (8) 囲いの安全確保

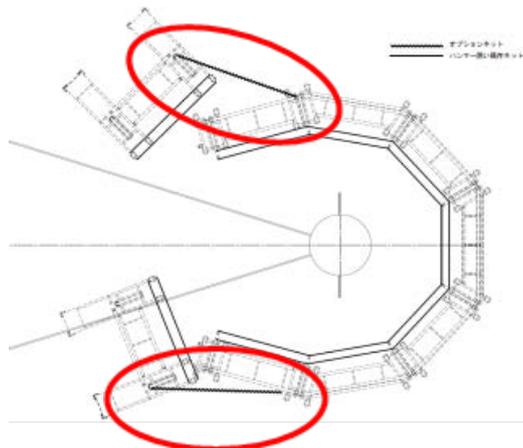
- ・ 2023年8月に実施されたインターハイで、男子ハンマー投げ競技中選手が投げたハンマーが囲いの隙間から外に飛び出し、選手控えテントにあたり落下した。これは、右投げ選手の投てきが終わり、左投げの選手のためにパネルを移動し、また元に戻す作業を繰り返している間に隙間が広がったため起きた。
- ・ WA規格の囲いは本体と前パネルが一体となっており隙間がないが、従来型はどうしても隙間が生じるため、台座部分をかみ合わせ、隙間を最小限にする措置がとられているが、今回のように移動が度重なると広がる可能性がある。
- ・ これを防止するために、補助ネットを張る方法が提案され、佐賀国民スポーツ大会で使用された。安全確保に有効であった。今後も安全に対する対応が、重要となってくる。



佐賀国スポ設置例



補助ネット設置例(ニシ・スポーツ提供)



#### (9) 長距離競走路、競歩路コース設定の注意

- ・ 競技会では計測したコースを設定してください。計測したコースと同じに設定されないと公認大会と認められません。
- ・ 計測時に作成された経路図、ポイント図を基に設定をしてください。コース所有者がこれらの図面を作成しています。
- ・ 計測されたコースと違うコースとなる時には、事前にコース変更の検定を受けなければなりません。
- ・ 途中計時の記録もコース設定の条件を満たしている箇所は、公認記録となりますが、必ずラインを入れてください。
- ・ 公認コースで非公認大会を開催した。民間の申し込みサイトに公認コースの記載があり、別の大会の参加記録を狙って出場したが記録が認められなかった。

### 4. 世界陸上での対応

#### (1) グループスタートの対応

- ・ WAよりグルースタートはコーンを設置して行うので、スタートラインを書き直して、検定して報告をするように指示があった。急遽ラインを変更して9月2日に検定をした。大会後もとに戻している。
- ・ TDより用意したコーン（マラソン、競歩用）は高すぎるとのことであったが、黄色のコーンが足りなく、黄色のコーンとブレイクラインマーカーを交互に置いた。撤去時間は30秒であった。
- ・ 縁石を外したところもコーンを設置しているので、代用縁石の箇所もコーンでよいのではないかとWA施設担当者に確認したところ、コーンと縁石では走る位置が違い、代用縁石で行う時には全部設置しなければならないとのことであった。



#### (2) ハードルの設置

- ・ 特注の運搬車を使用した。担当するコラボレーター（大学生）がわずかな時間の訓練だったが、正確に設置が出来た。海外からの取材もあり、設置のパフォーマンスは好評であった。
- ・ 「20:08 男子 400mH 終了後 400mH 撤去、20:14 までに男子 110mH 設置完了」「20:49 男子 110mH 終了後 21:01 までに女子 100mH へ移動」「22:04 男子 3000mSC 終了後障害撤去、22:13 までに女子 100mH 設置」というクレイジーなタイムテーブルがあった。「カートでハードル設置・撤去組」と「手押し台車でハードル設置・3000mSC 設置撤去組」に分けそれぞれ作業を行った。400mH 撤去と 110mH 設置は同時進行、3000mSC 撤去と 100mH 設置は同時進行で行い、それぞれ時間内に設置撤去を行うことができた。



### (3) 棒高跳の支柱台とマット

- ・ 用器具のサプライヤーはニシスポーツとなった。しかし、6m30 を設置できる支柱台がなかったことと、クリアした時の LED ランプをつけたいとのWAの要請によりモンド社製の支柱台が使用された。
- ・ モンド社製の支柱台はボルトで固定式のため、大会前にボルトを設置した。設置撤去でボルトが破損して、業者に来てもらい（2回）修理をした。
- ・ 支柱台とマットが合わず、マットを削って対応をした。



### (4) 囲いの設置、撤去

- ・ 囲いの種目のないセッションでは囲いを撤去した。8回の設置撤去となった。世界陸上では初めての対応で、観客から見やすい競技会となった。

### (5) やり投の踏切付近の舗装材

- ・ WAよりやり投の踏切付近の舗装材を同じ舗装材で強い強度の物で改修するように指示があり、改修をして検定をした。
- ・ 2023年WAカウンスル会議において異なる引張強度特性を持つ舗装材を可能とする改定され、ブタペスト世界陸上、パリオリンピックでもやり投の踏切付近について対応している。
- ・ やり投の投てきでは、以前のものと比較するとグリップが効いているようである。しかし、走高跳の選手には強度の強い舗装材は不評であると言っていた。

## 公認審判員制度の改正に向けて

日本陸上競技連盟 競技運営委員会  
審判員研修 PT

## 1. 改正を検討する背景

日本陸連では、1948年から公認審判員制度を設けてきた。従来の「3種-2種-1種-終身1種」からなる審判員制度は、2002年に現行の「B級-A級-S級」へと改訂され、現在に至っている（2021年にはC級審判員を追加）。その間、世界陸連（World Athletics：WA）においても審判員制度が整備され、「NTO（National Technical Officials）」および「ITO（International Technical Officials）」という形態を経て、現在は「NAR（National Athletics Referee）-ブロンズレフェリー（World Athletics Referee - Bronze level）-シルバーレフェリー（World Athletics Referee - Silver level）-ゴールドレフェリー（World Athletics Referee - Gold level）」に体系化されている。

このように、現在は日本陸連とWAの審判員制度が並立・一部重複している状況にある。近年では、WRk競技会においてWAレフェリーの配置が求められるなど、国際基準への対応の重要性が高まっており、より分かりやすく整理された審判員制度へと集約する必要性が生じている。

JAAF	WA
<ul style="list-style-type: none"> <li>・C級 16歳以上(高体連の登録会員) 加盟団体審査</li> <li>・B級 18歳以上 加盟団体(日本学連)審査</li> <li>・A級 B級取得後満10年以上 加盟団体審査</li> <li>・S級 A級取得後満10年以上 満55歳以上 日本陸連審査</li> </ul> 複線として JTO/JRWJ制度(日本陸連審査)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NAR 16歳以上 e-Learning 実技3試合</li> <li>・WA Referee Bronze (Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge) NAR3年 19歳以上 e-Learning Online試験</li> <li>・WA Referee Silver (Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge) WARB4年 23歳以上 e-Learning, Webinars, Online Exam; Written Presentation 2年毎</li> <li>・WA Referee Gold (Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge) WARS4年 27歳以上 e-Learning, Webinars, Online Exam; Written Presentation 2年毎</li> </ul>

## 2. アンケート結果から(加盟団体の声)

昨年度、各加盟団体向けに公認審判員制度の改正についてアンケートを実施した。日本陸連とWAの審判員制度の統合に賛成と回答された加盟団体からは、「国内ルールの適応か国際ルールの適応かを混乱しないためにもWAの審判員制度に準じていくことは必要」「時代の変化とともに国内競技会もWAスタンダードに変遷していくことも視野に入れ、国内競技会においてNAR及びブロンズレフリーの積極的な活用を試みていく必要はある」「日本陸連の審判員制度は昇級試験がなく、10年務めたご褒美みたい。B級であっても審判員主任を務めている現状である。」という声が挙がっている。

一方、反対と回答された加盟団体からは、「ブロンズレフェリー試験を受験するハードルの高さ」と審判経験の豊富さの両立させるのは、非常に困難」「WA資格が紐付くことによって、日本陸連の審判員

資格取得が難しくなることにならないことを望む」「eラーニングを受講しないと昇格の対象にならないのであれば、ほとんどの人が昇格意欲をなくしてしまう」「地方には栄章の意味合いも持っている現実がある」「永年の審判業務の励みとして、S級は日本陸連の制度として残してほしい」「現在の審判員制度を残したまま、WAレフェリーを取得する方法がいい」という声が挙がっている。

また、これとは別に「S級は一般審判員としては最高峰の資格になるため、経験年数等だけではなく高度な知識を持った方が所持すべきではないかを感じる。さらに、年齢に関係なく高度な知識を習得していればS級になる機会があっても良いのではないかと思う。」という声も寄せられた。

### 3. JTO/JRWJ 制度について

JTO/JRWJ については、単にジャッジに関わる審判技術にとどまらず、競技会運営やトラブル対応に関する事項まで幅広く網羅している。また、その試験内容は WA Referee Gold に匹敵する水準であると評価されている。

このため、引き続き JTO は総務の直下に位置づけ、審判長に対する必要な支援を行うとともに、競技が競技規則、競技注意事項等、ならびに総務の最終的な決定に基づいて適正に実施されていることを確認する。同様に、JRWJ についても従来どおり配置する。

### 4. 今後のスケジュール

2026年3月以降	陸連理事会に原案の提示 意見聴取・検討
夏	具体的な作業（ルールブック・ハンドブック・諸規定の修正）
2027年4月	新制度開始（予定）

### 5. その他

- ・C級審判員について、活用されている加盟団体がある一方、「C級からB級への移行に壁がある」「C級取得年齢の引き下げ」等の声が挙がっている。それとは別に、「B級審判員でも審判長・主任ができる現状について、基準を示してほしい」というご意見もいただいている。これらについては、これから行われる具体的な作業の中で整理していく。
- ・「登録料が挙がっていくので、S級・A級へ昇格を希望する人が少ない。登録費を同額にしてほしい」というご意見をいただきましたが、日本陸連の登録料に級別の差はありません。加盟団体独自に設定されているものと思われますので、加盟団体においてご検討下さい。（「審判手当」については主催(主管)団体においてご検討下さい）
- ・「JAAF START に審判等級を入力できるようにしてほしい」という要望をいただきました。2026年度については、各団体から、審判等級のわかる審判員名簿を日本陸連へ提出いただき、日本陸連事務局にて、JAAF START との紐づけを行うとのことです。詳細は別途インフォメーションセッション等で事務局よりご説明をさせていただきます。
- ・2027年からの制度改正（予定）に合わせて、審判手帳を更新する可能性がある。審判手帳の発注数や在庫管理についてはご留意いただきたい。

# 公認審判員制度の改訂に向けて

2026.2.11 (Wed.) 全国競技運営責任者会議

日本陸上競技連盟 競技運営委員会  
審判員研修PT



# ◆改正を検討する背景

## ◆日本陸連の審判員制度の変遷

- 1948年：公認審判員制度を設ける
- 2002年：「3種－2種－1種－終身1種」  
⇒「B級－A級－S級」へ改訂
- 2021年：C級を追加

# ◆改正を検討する背景

## ◆WAの審判員制度の変遷

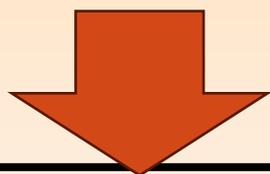
NTO／ITO という形態を経て、現行の4段階へ

- NAR
- WA Referee Bronze
- WA Referee Silver
- WA Referee Gold

# ◆改正を検討する背景

## ◆現状の課題

- 日本陸連とWAの制度が並立・一部重複
- WRK競技会ではWAレフェリー配置が必要
- 国際基準への対応が急務



より分かりやすく整理された審判員制度へと  
集約する必要性が生じている

# ◆JAAFとWAの制度比較

## JAAF

- C級：16歳以上
- B級：18歳以上
- A級：B級取得後10年以上  
(以上、加盟団体審査)
- S級：A級取得後10年以上  
55歳以上 (陸連審査)

## WA

- NAR：16歳以上、e-Learning  
+ 実技3試合
- Bronze：NAR3年、19歳以上、  
e-Learning + Online試験
- Silver：Bronze4年、23歳以上、  
e-Learning + Webinars  
+ 試験
- Gold：Silver4年、27歳以上、  
同上

# ◆アンケート結果

## ◆統合に賛成の理由

- 国内ルールと国際ルールの混乱を防げる
- 国内競技会もWAスタンダードへ移行すべき
- 日本陸連制度は昇級試験がなく実力評価が不十分

# ◆アンケート結果

## ◆統合に反対の理由

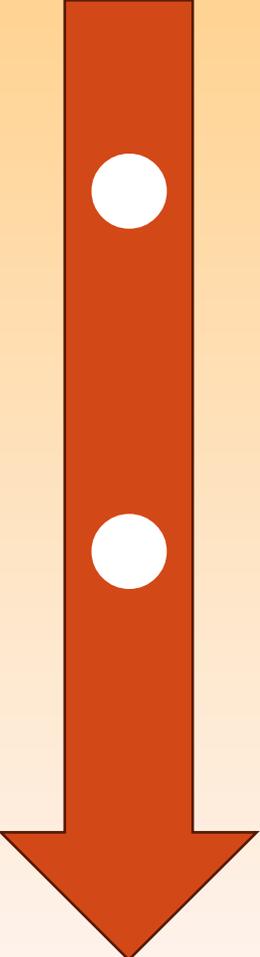
- ブロンズレフェリー試験のハードルが高い
- WA資格が紐づくくと取得が難しくなる懸念
- eラーニング必須化で昇格意欲が低下
- 地方では資格が“栄章”として機能
- S級は日本陸連独自で残すべき
- 現行制度を維持しつつWA資格取得を希望

# ◆JTO/JRWJ制度について

## ◆位置づけと評価

- 審判技術だけでなく運営・トラブル対応まで網羅
- 内容は WA Referee Gold に匹敵
- 今後も総務直下で継続配置
- 審判長への支援、競技の適正実施を確認
- JRWJも従来どおり配置

# ◆今後のスケジュール

- 
- **2026年3月以降**  
**理事会へ原案提示、意見聴取**
  - **2026年夏ごろ**  
**ルールブック・ハンドブック等の修改正**

**2027年4月：新制度開始（予定）**

## ◆その他

### ◆C級審判員について

活用されている加盟団体がある一方、

- C級→B級への移行の壁
- C級取得年齢の引き下げ要望 という声

### ◆B級でも主任が可能な現状への 基準設定を求める声

➡ 具体的な作業の中で整理していく

## ◆その他

### ◆登録料・システム等について

- 日本陸連の登録料に級別差はなし
- 加盟団体独自の設定の可能性

### ◆2027年制度改正に合わせて、

**審判手帳更新の可能性**



**発注数・在庫管理に留意**

# 公認審判員制度の改訂に向けて

2026.2.11 (Wed.) 全国競技運営責任者会議

日本陸上競技連盟 競技運営委員会  
審判員研修PT



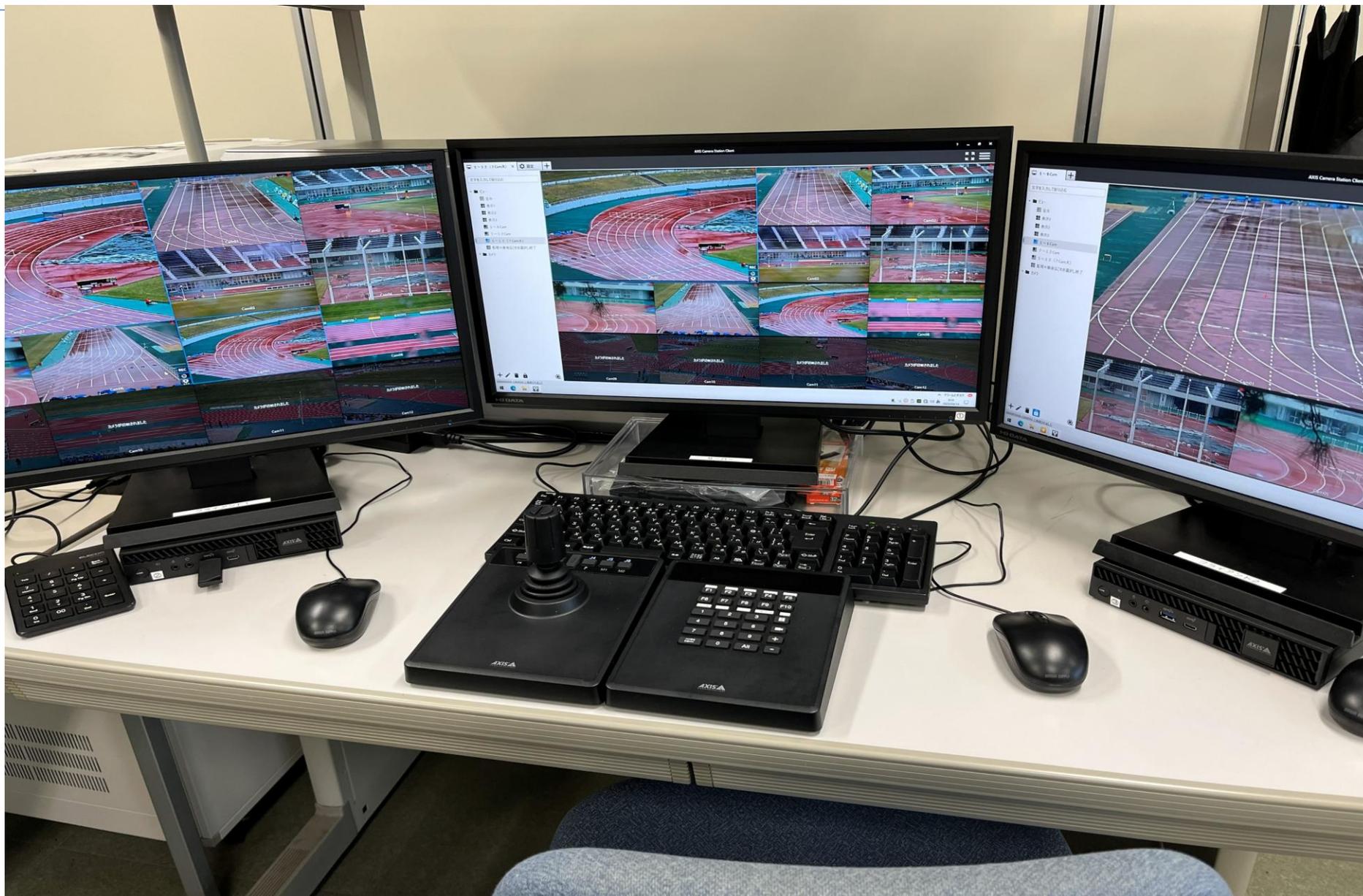
2025年度全国競技運営責任者会議

# 世界陸上2025東京大会 ビデオ判定事例

～ルール解釈・適用の参考として～

2026年2月11日  
日本陸上競技連盟  
競技運営委員会

## ビデオルーム①（国内設備）



## ビデオルーム② (WA設備)



# ビデオ判定①



## ビデオ判定②



TR17.1.1 意図的ではない妨害

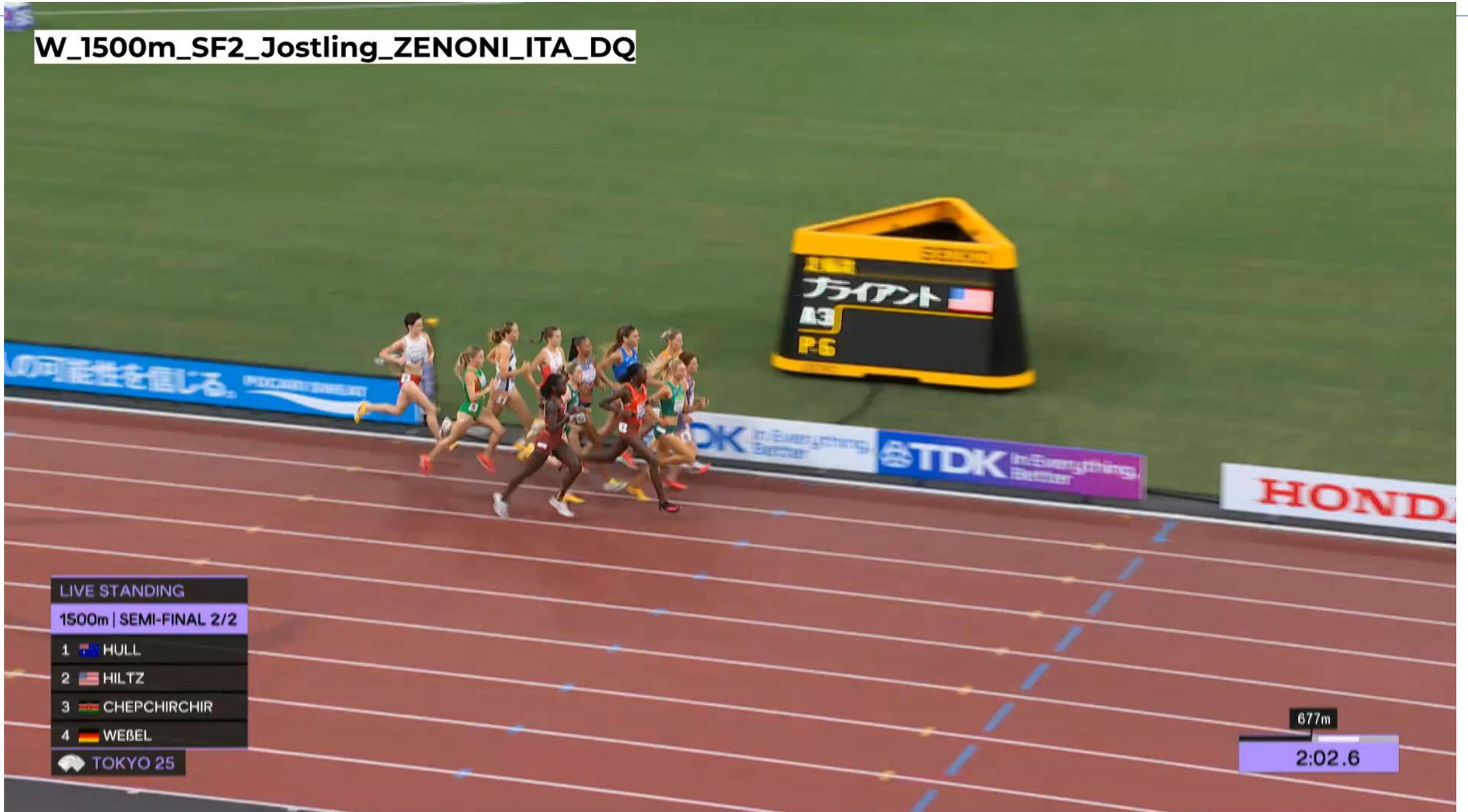
(ビデオタイトルではDQとあるが、抗議を経てDQとはなっていない)

M\_4x100m\_R2\_Obstruction\_ITALY\_ITA\_DQ



TR17.1.2 意図的な妨害 (最初のきっかけを作った競技者をDQ)

W\_1500m\_SF2\_Jostling\_ZENONI\_ITA\_DQ



TR17.5.2 グループスタートで外側の競技者が合流する場所は決まっているが・・・



## TR17.2.3 レーン侵害



TR22.6.3 単にハードルを移動させただけでは失格とはならない <26年度競技規則修改正>



TR24.7 バトンの受け渡しはテイク・オーバー・ゾーンの中で バトンの位置のみが決定的なもの

W\_4x100m\_F\_Baton Exchange\_POLAND\_POL\_DQ



TR24.20 バトンパスで走り出す位置は、テイクオーバーゾーンの中から

M\_4x400m\_H2\_Baton Exchange\_AUSTRALIA\_AUS\_DQ



LIVE STANDING

4X400m RELAY | HEAT 2/2

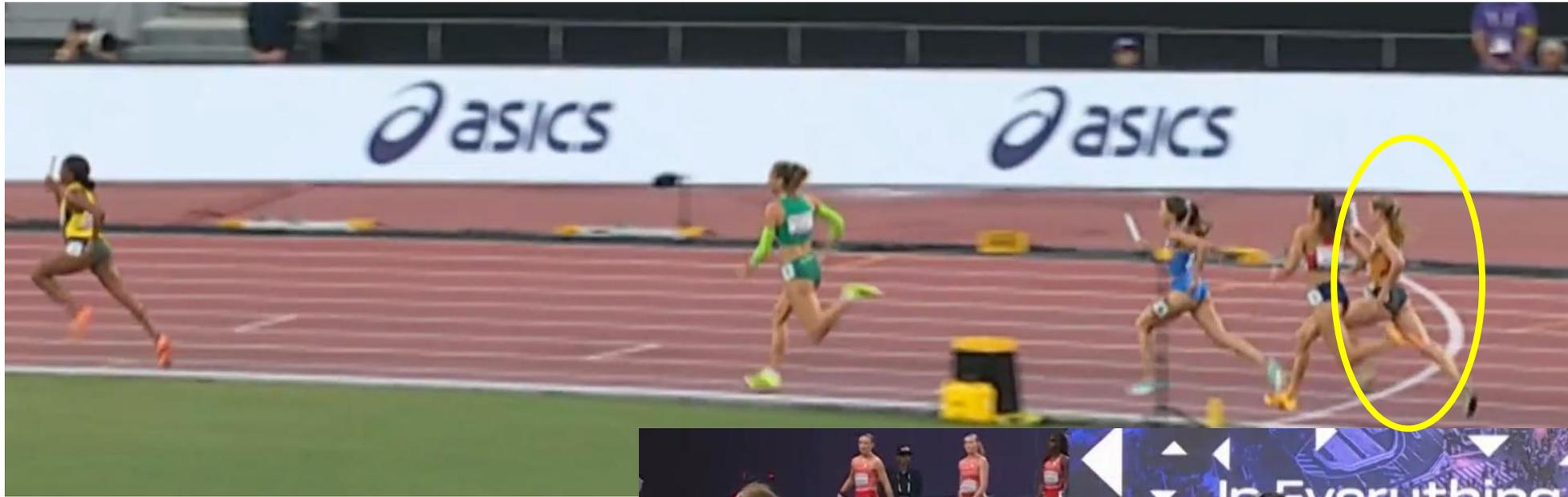
- 1 🇦🇺 AUSTRALIA
- 2 🇸🇩 BOTSWANA
- 3 🇧🇪 BELGIUM
- 4 🇬🇧 GREAT BRITAIN & NI

TOKYO 25

779m

1:26.0

TR24.21 第3・4走者は審判員の指示に従い、前走者が第2曲走路内側をした順に待機する①



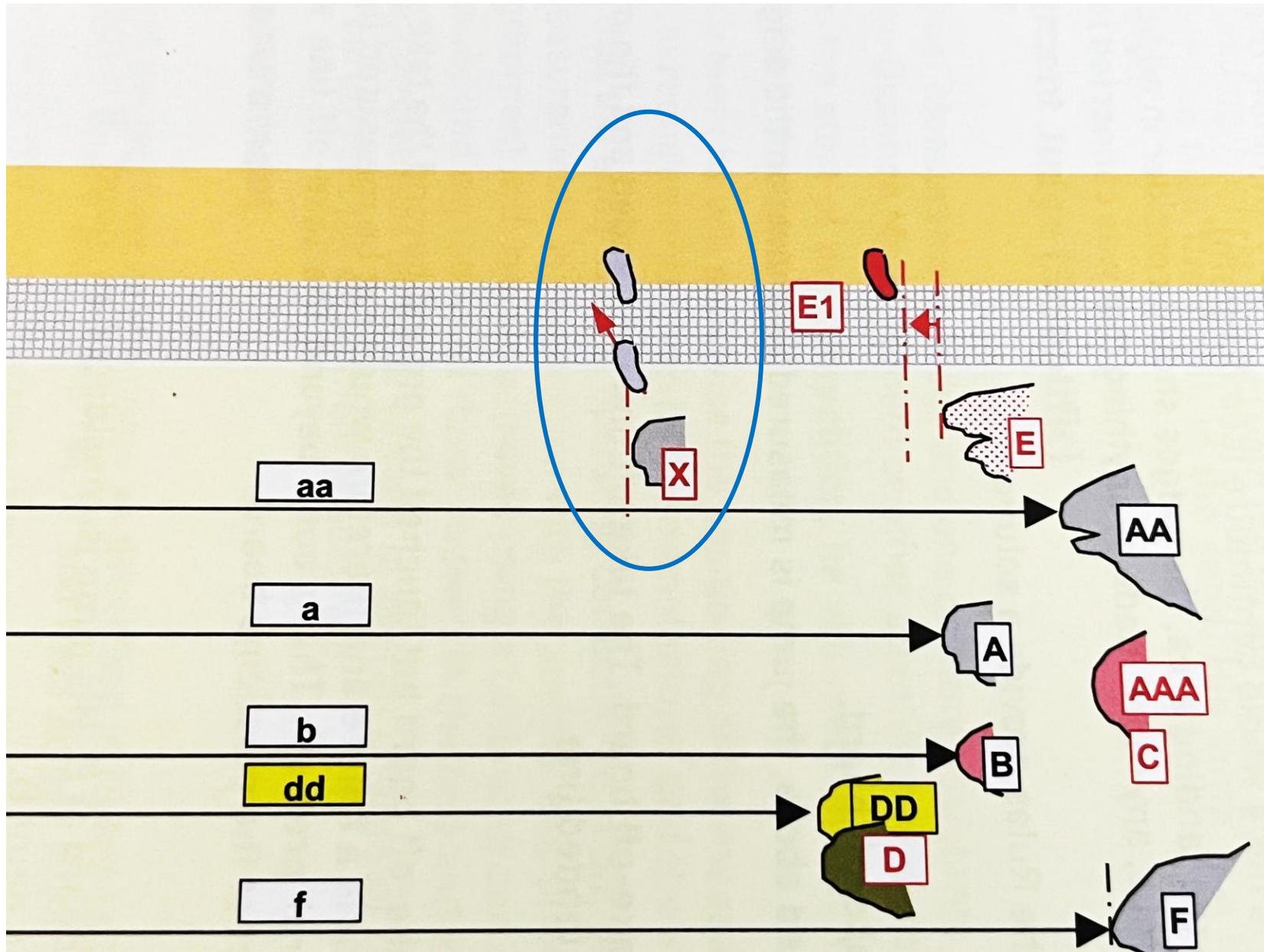
TR24.21 第3・4走者は審判員の指示に従い、前走者が第2曲走路内側をした順に待機する②



TR30.2 LJ・TJ 着地場所を離れる際の最初に触れる位置①



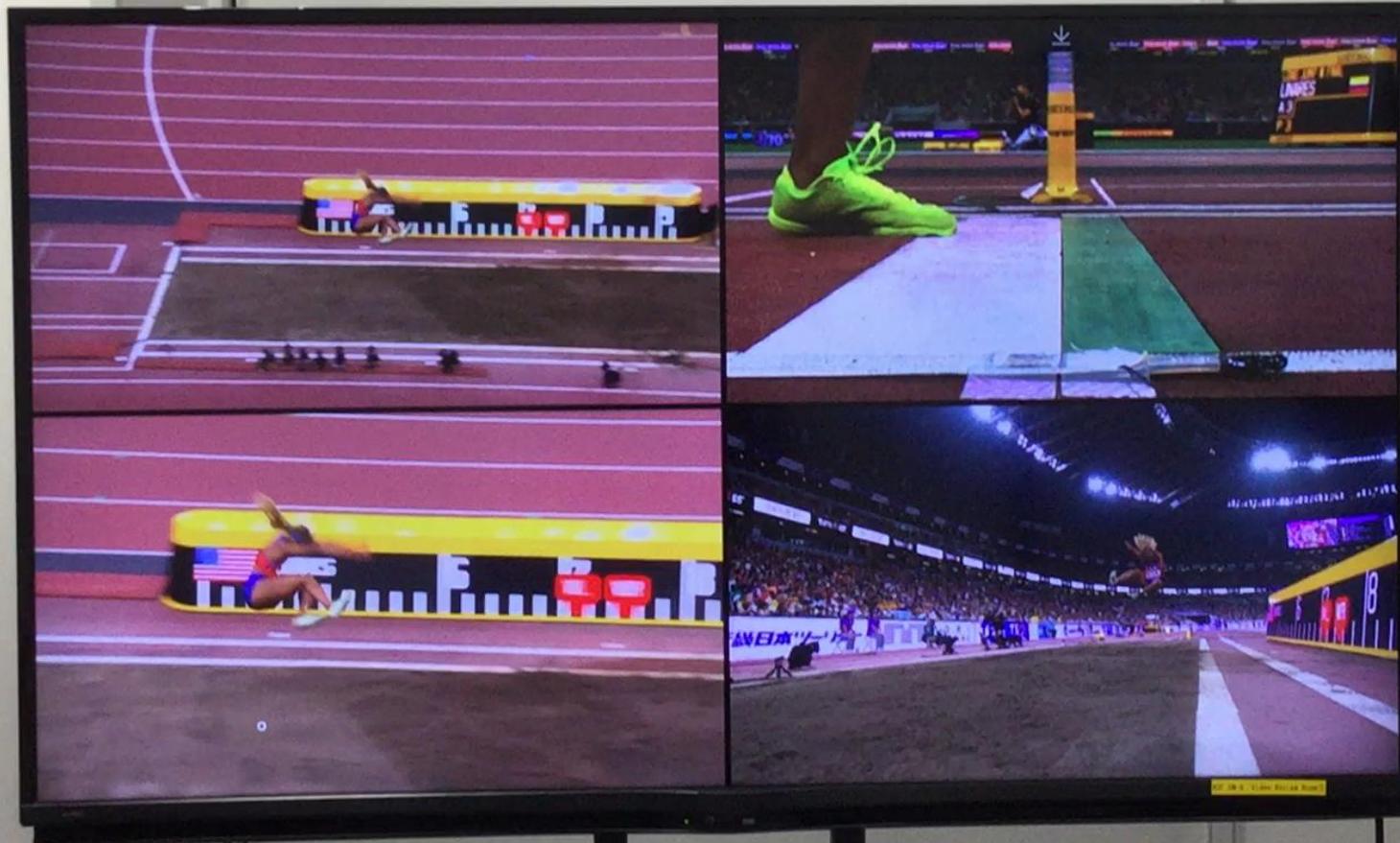
TR30.2 LJ・TJ 着地場所を離れる際の最初に触れる位置②



TR30.1.5 着地の際に砂場の外の境界線に触れていないか①-1



TR30.1.5 着地の際に砂場の外の境界線に触れていないか①-2



TR32.14 投てきの際の足がサークルやラインの縁に触れていないか①



TR32.14 投てきの際の足がサークルやラインの縁に触れていないか②



TR32.17.1 投てき物が着地する前にサークルから出ていないか



2025/09/12

2025/09/12 08:07:32.545

- 男子1500m予選

1300m付近で押合いや接触があり、2名の選手が転倒



立ち上がった後、二人で並んでジョッグをしながらフィニッシュ



結果発表後、両チームから抗議（救済）申立



ビデオ審判長は抗議を却下

「DNFではないが、誠実に力を尽くして完走していない」（TR17.1 最後段）

- 男子100m 優勝者がフィニッシュ後にユニフォームを自ら切り割く (衣類規則違反)
- 男子マラソン 給水所で他競技者の飲食物取得 (反スポーツマンシップ行為)
- 女子マラソン 給水所で他競技者の飲食物取得 (反スポーツマンシップ行為)
- 女子マラソン 給水所以外で飲食物受取 (反スポーツマンシップ行為)

## 世界陸上でのスタート審判長（WA スターター）の判定について

【Case I】男子 100m 予選 6 組でオートリコールが作動し、RT が 0.099sec であった。  
裁定：(SIS の波形、\*SIV を熟考の上で) グリーンカード提示した。

\*SIV=Start Information Video

⇒後刻、WA スターターに「不正スタートでDQなのではないか」と質問。『0.099sec の数字だけでDQとするケースや審判員もいる。もし今回不正スタートでDQと判定すると、抗議中として走らせ、その後ビデオを見せることになる。その時に私(WA スターター)は(不正スタートの)判定を支持する言葉を持たない』との回答。(今回は)SIV から号砲前の動きは一切確認できず、波形も0.099までまったく立ち上がっていないことから上記対応とした。あくまでこの大会での判定ということでご理解していただければ。

【Case II】男子 100m 準決勝 3 組で 3 レーンの競技者の局所的な動きがあり、隣の 4 レーンの競技者が飛び出しオートリコールが作動し、RT は 0.088sec であった。

裁定：3 レーンの動きが 4 レーン的不正スタートを誘発させたとして、3 レーンの競技者にイエローカードが提示された (TR16.5.3)。

【Case III】男子 800m 予選 5 組で 6 レーンの競技者が On your marks の合図の後、ローリングスタート (体を止めずに動いたままスタート) をしようとした。競技者の前方で監察して (リコーラーを務めて) いた WA スターターからイエローカードが提示された (TR16.5.2)。遅延行為としてイエローカード対応とした。

※本来イエローカードを提示するのは審判長であるが、200m や 400m 等の種目では (審判長が現場まで向かうと時間をロスしてしまうため)、権限を委譲された WA スターターがイエローカードを出すことがあると事前にチーム内で情報共有されていた。

【Case IV】男子マラソンで最内の競技者が号砲前に飛び出してしまった。スタート審判長から「レースを止めるように」と指示があり、レースを止めリスタートした。後刻 WA スターターよりマラソン・競歩競技 (ロード種目) については、不正スタートを撃ち戻す必要がないとの指摘を受けた。

### <その他指摘事項>

◎On your marks の合図の後、確実に全競技者の静止を確認して、号砲または Set の合図をかけること。Set の合図の後も、確実に全競技者の静止を確認して、号砲すること。

○すべての種目でローリングスタート (いわゆる動いたままスタートすること) が起こりうる。そのため、ローリングスタートを確認しやすい横から競技者を監察するリコーラーを配置する。

○疑義がありレースをリコールした場合、監察結果 (不正スタートがあった。マイクの調子が悪く、きちんと聞こえなかった。ローリングスタートがあった等の情報) を直ちにスターターのもとに集約させる。さらに審判長や WA スターターにも共有させる。その上で正しい判断をしていく。世界陸上では、撃ち戻しがあった場合、スタート審判長がスタンドマイクで (スタート中断の) 理由を説明していた。尚スターターはただちにマイクを通じて選手を呼び戻し、グリーンカードを出すように指示する。

# 2026年度公認競技会申請について

公益財団法人日本陸上競技連盟

競技運営委員会 競技会カレンダー・記録PT

(2026/02/11)

## 目次

• 申請スケジュール	…3	• ③競技会コード	
• ① 1次申請		1. コード体系について	…14-17
1. Excelファイルを作成する	…4	2. コードについてのお願い	…18
2. システムにログインする	…5	• 担当について	…19
3. Excelファイルをアップロードする	…6	• お願い	…20-21
4. アップロードした内容を確認する	…7		
5. 申請する・承認待ち	…8		
6. 承認済み	…9		
• ② 変更・中止・新規大会追加申請			
1. 編集ボタン	…10		
2. 変更・中止	…11-12		
3. 新規大会追加	…13		

スケジュール	内容	
2/16(月) ～3/6(金)	①1次申請	1. 申請用のExcelファイルを作成してください。  2. 下記URLにログインして、 <a href="https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/">https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/</a> Excelファイルをアップロードしてください。
3/7(土)～	②追加・変更 中止など	1次申請以降は <a href="https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/">https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/</a> にアクセスして追加・変更・中止作業を行ってください。

申請者が26年度から変更になる場合は、kyogi26@jaaf.or.jpまでご連絡ください

# ①-1 一次申請(Excelファイルを作成する)

学連競技会以外の、自県で開催する全ての公認競技会を申請してください。

全国大会、地域大会も開催県から申請してください。

2024(公財)日本陸上競技連盟公認競技会申請フォーム

①都道府県を選択してください

②競技場コードを入力してください

高校総体、高校新人、高校駅伝は「高体連」  
 通信、全中予選、全中駅伝は「中体連」  
 実業団は「実業団」  
 日本マスターズ申請大会は「マスターズ」を選択

月	日	WRk申請競技会	競技会・行事	競技会コード		会場	競技場コード	地域	協力団体	道路競技(主催が加盟団体・協力団体以外)のみ記入		
				年	団体コード					大会コード	主催が加盟団体・協力団体以外	医務員配置
		OW DF GW GL A B C D E F		24								

日本陸連主催大会は地域欄は「全国」を選択してください  
 コードはP15, 16を参照の上、団体コードには各都道府県  
 コード、5桁目は「8」からとなります。

WRk申請大会はグレードを入力してください。  
 基本はFを選択してください。

高校総体、高校新人、高校駅伝は「高体連」  
 通信、全中予選、全中駅伝は「中体連」  
 実業団は「実業団」  
 日本マスターズ申請大会は「マスターズ」を選択

## ①-2 一次申請(システムにログインする)

<https://athleticfamily.jaaf.or.jp/association/>

にログインしてください

JAAF  
Japan Association of Athletics Federations

日本陸連新エントリーシステム (プロトタイプ)

都道府県陸協 ログイン

メールアドレス

.....

ログイン

①で設定したメールアドレスを入力してください

①で設定したパスワードを入力してください

# ①-3 一次申請(Excelファイルをアップロードする)

1. 公認大会申請を選択

2. アップロードを選択

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップロード	編集	確認	Excelダウンロード
2022	確認中	2021-12-01 00:00~2022-02-20 12:00	2022-01-17 19:04:06				
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00					

3. ①で作成したExcelファイルを選択して「確認に進む」を選択

大分県 2022年度  
Excelファイル

ファイルを選択 選択されていません

確認画面に進む

# ①-4 一次申請(アップロードした内容を確認する)



## 1. アップロードされた内容を確認してください

ホーム

### 公認大会申請

内容をご確認の上、ページ下の申請ボタンをクリックしてください。

延期 中止 非公開	月	日	競技会・行事	競技会コード	会場	競技場コード	チェック	地域	協力団体	道路競技(主催が加盟団体・協力団体以外)			
										主催が加盟団体 ・協力団体以外	医務員配置	緊急医療体制 AED配置会	見舞金 補償制度
	4	10	第1回春季陸上競技大会	21 44 0310	大分市営陸上競技場	442040	OK	九州	マスターズ				
	4	18	第1回大分市陸上競技記録会兼第1回大分県長距離記録会	21 44 0701	大分市営陸上競技場	442040	OK						
	4	18	第1回日田市陸上競技記録会	21 44 0501	日田市陸上競技場	442020	OK		マスターズ				
	11	13	第8回大分県高校学年別陸上競技大会	21 44 1003	大分市営陸上競技場	442040	OK						
	11	21	第40回大分国際車いすマラソン(マリツ/ルーフ)	21 44 0020	大分国際車いすマラソンコース	447030	登録なし			○	有り: 3名以上	有り	
	11	28	第5回県長距離記録会兼都道府県駅伝選考会	21 44 0307	大分市営陸上競技場	442040	OK						
	2	6	第70回別府大分毎日マラソン大会(マリツ)	22 50 2003	別府大分毎日長距離競走路	447050	OK	全国		○	有り: 3名以上	有り	
	3	6	2022スプリングチャレンジ陸上inリバスタ	22 44 0315	大分市営陸上競技場	442040	期限切れ						
	3	12	第26回県南陸上競技選手権大会	22 44 0801	佐伯市陸上競技場	443050	期限切れ						

← アップロードをやりなおす

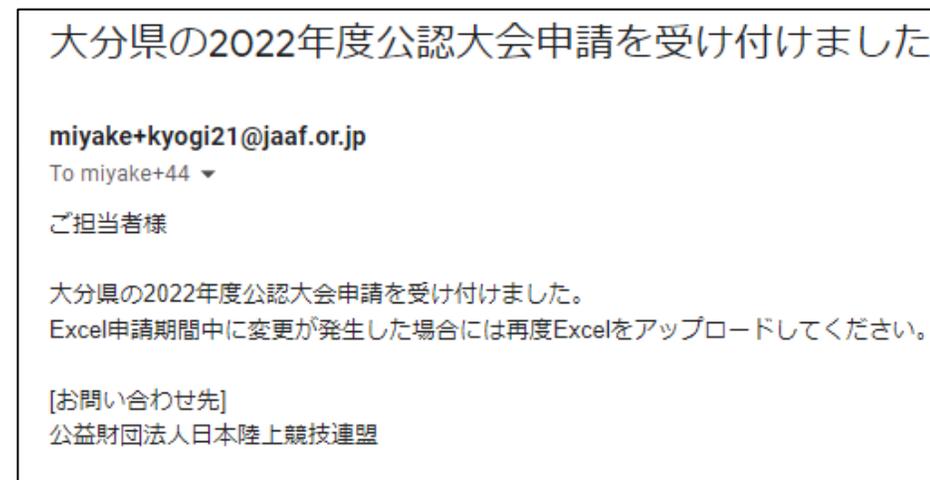
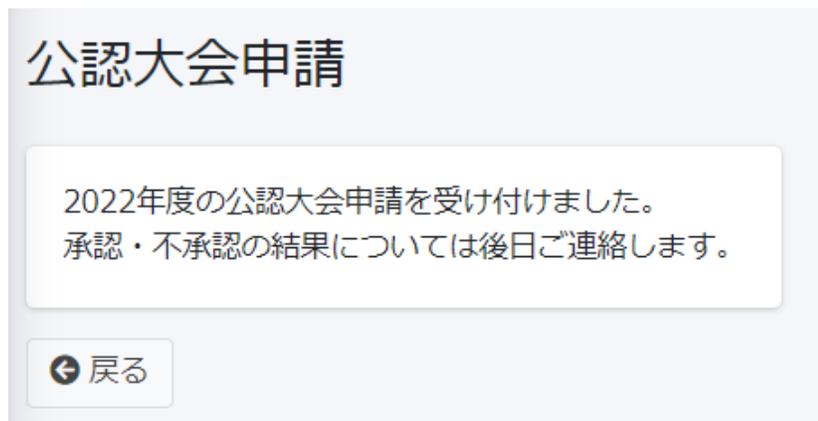
申請する →

2. 競技場の公認期間を確認してください  
期間が切れていれば、期限切れが表示されます

3. アップロードした内容で問題なければ「申請する」を  
修正がある場合はExcelファイルを修正して、再度アップロードしてください

## ①-4 一次申請(申請する・承認待ち)

1. 申請が完了すると受け付けたことが表示されます。  
また自動返信メールが送信されます。



2. 申請状況のステータスが  
「**確認中**」に変わります

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップ ロード	編
2022	確認中	2021-12-01 00:00~2022-02-20 12:00	2022-01-21 19:14:11		
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00			

## ①-4 一次申請(承認済み)

1. 日本陸連に承認されると申請状況のステータスが「チェック済」に変わります。  
また日本陸連からメールが送信される場合があります。

大分県

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップロード	編集	確認	Excelダウンロード
2022	チェック済	2021-12-01 00:00~2022-02-20 12:00	2022-01-21 19:27:09				
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00					

2. 現在の状況をExcelファイルでDLすることができます

## ②-1 変更・中止・新規大会追加申請(編集ボタン)

1. 1次申請期間が過ぎるとExcelファイルがアップロードできなくなります。

\*アップロードボタンが消える

### 大分県

年度	状況	Excel申請期間	Excel申請日時	アップ ロード	編集	確認	Excel ダウンロード
2022	期間外	2021-12-01 00:00~2022-01-06 12:00	2022-01-21 19:42:12				
2021	期間外	2021-01-21 00:00~2021-02-28 12:00					

2. 1次申請期間後の追加・変更・中止の申請に関しては「編集」機能で申請してください。

こちらのボタンを押してください。

## ②-2 変更・中止・新規大会追加申請(変更・中止)

1. 変更・中止する大会の「編集」を押してください

編集	延期 中止 非公開	月	日	競技会・行事	競技会コード	会場
編集		4	10	第1回春季陸上競技大会	21 44 0310	大分市営陸上競技場
編集		4	18	第1回大分市陸上競技記録会兼第1回大分県長距離記録会	21 44 0701	大分市営陸上競技場
編集		4	18	第1回日田市陸上競技記録会	21 44 0501	日田市陸上競技場

2. 内容を変更する場合は、記載内容を変更して「変更する」ボタンを押して下さい。

3. 中止の場合は、「中止」を  
延期の場合は、「延期」を選択してください。

### 公認大会申請

#### 第18回野田市陸上競技記録会

競技初日	2023/04/01
月・日	4 / 1
WRk申請競技会	
競技会・行事	第18回野田市陸上競技記録会
競技会コード	23 / 12 / 0745
会場	千葉 [123220] 野田市総合運動公園(陸)
地域	
協力団体	
道路競技(主催が加盟団体・協力団体以外)のみ記入 ↓	
主催が加盟団体	

ステータス	
中止・延期	通常
公開	通常
	中止
	延期

4. 削除の場合は、「一般非公開にする」にチェックしてください。

公開	<input type="checkbox"/> 一般非公開にする
----	-----------------------------------

## ②-2 変更・中止・新規大会追加申請(変更・中止)

公認大会申請

第57回県記録会 兼国体第一次選考会(種目分散同一大会)

競技初日	2023/04/08	
月・日	4	8~9
WRk申請競技会	▼	
競技会・行事	県記録会 兼国体第一次選考会(種目分散同一大会)	
競技会コード	12	0301
会場	[21010] 千葉県総合スポーツセンター (陸)	
地域	▼	
協力団体	▼	
道路競技 (主催が協力団体以外)のみ記入 ↓	▼	
主催が加盟団体・協力団体以外	▼	

WRk申請競技会の場合は、そのグレードを選択してください。  
国内の競技会はほとんどの場合「F」です。

## ②-3 変更・中止・新規大会追加申請(新規大会追加)

1. 追加する場合は画面の一番下の

「大会を新規登録する」を押してください

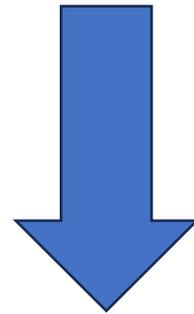
2. 必要な情報を入力して、「追加する」ボタンを押して下さい。

The screenshot shows a web form for registering a new event. At the top, there are two buttons: a grey one labeled '前の画面にもどる' (Return to previous screen) and a teal one labeled '大会を新規登録する' (Register new event). A red arrow points from the text '大会を新規登録する' in the instructions to the teal button. Below the buttons is a form with several fields:

競技初日	年 / 月 / 日 <input type="text"/>
月・日	<input type="text"/>
WRK申請競技会	<input type="text"/>
競技会・行事	<input type="text"/>
競技会コード	<input type="text"/> 12 <input type="text"/>
会場	千葉 <input type="text"/> [] 印西市松山下公園総合体育館室内棒高跳場 <input type="text"/>
地域	<input type="text"/>
協力回体	<input type="text"/>
<b>道路競技（主催が加盟回体・協力回体以外）のみ記入 ↓</b>	
主催が加盟回体・協力回体以外	<input type="text"/>
医務員配置	<input type="text"/>
緊急医療体制 AED配置含	<input type="text"/>
見舞金補償制度	<input type="text"/>

(例) 2 6 (年) ●● (団体CD)

---



年度と団体コードの前4桁  
は変更ありません!!!

### ③ 競技会コード コード体系

(例) 26 (年) ●● (団体CD) → 最初の4桁

0000 (主催者に応じたコード設定)

	5桁目	6桁目~8桁目			3桁目 ~4桁目	5桁目~8桁目
		トラック	ロード			
陸協主催	0	000~799	800~999	日本学連	60	0000~連番
加入団体主催	1	000~799	800~999	北海道学連	61	0000~連番
地域陸協主催	2	000~799	800~999	東北学連	62	0000~連番
中学生だけの大会(全中予選・突破会含む)	3	000~799	800~999	関東学連	63	0000~連番
高校生だけの大会(IH予選など)	4	000~799	800~999	北信越学連	64	0000~連番
日本実業団連合・地域実業団主催	5	000~799	800~999	東海学連	65	0000~連番
マスターズ連合承認	6	000~799	800~999	関西学連	66	0000~連番
その他	7	000~799	800~999	中四国学連	67	0000~連番
日本陸連主催	8	000~799	800~999	九州学連	68	0000~連番
WA・AAAの大会	9	000~799	800~999			

P16 に細かくコード説明あり

P17 に細かくコード説明あり

③ 競技会コード コード体系

(例) 2 5 (年) ●● (団体CD) → 最初の4桁

0 0 0 0 (主催者に応じたコード設定)

中体連・高体連の主催が日本陸連の際は以下の5桁目の番号「3」「4」を優先ください。

中学生だけの大会	5桁目	6桁目 ~8桁目
全日中	3	000
地区中学(例:関東中学)	3	100
通信陸上(県レベル)	3	200
総体(県レベル)	3	201
県中学新人	3	202
混成大会	3	203
それ以外のトラック競技会	3	210~
全中駅伝(全国)男子	3	800
全中駅伝(全国)女子	3	801
全中駅伝(地域)男子	3	810
全中駅伝(地域)女子	3	811
全中駅伝県予選 男子	3	820
全中駅伝県予選 女子	3	821
それ以外のロード競技会	3	830~

高校生だけの大会	5桁目	6桁目 ~8桁目
全国IH	4	000
全国定時制通信制	4	001
地区IH	4	100
地区高校新人	4	120
県IH	4	200
県高校新人	4	220
それ以外のトラック競技会	4	250~
全国高校駅伝 男子	4	800
全国高校駅伝 女子	4	801
高校駅伝(地区)男子	4	810
高校駅伝(地区)女子	4	811
高校駅伝(県)男子	4	820
高校駅伝(県)女子	4	821
それ以外のロード競技会	4	830~

③ 競技会コード コード体系

(例) 2 5 (年) ●● (団体CD) →最初の4桁

0 0 0 0 (主催者に応じたコード設定)

	5桁目	6桁目 ~8桁目
日本陸連主催大会		
日本選手権	8	000
日本選手権・混成競技	8	001
日本選手権10000m	8	002
日本選手権・リレー競技	8	003
国民スポーツ大会	8	004
日本選手権・室内競技	8	005
日本室内陸上競技大阪大会	8	006
ゴールデングランプリ陸上	8	007
ホクレン・ディスタンスチャレンジ深川大会	8	008
ホクレン・ディスタンスチャレンジ土別大会	8	009
ホクレン・ディスタンスチャレンジ千歳大会	8	010
ホクレン・ディスタンスチャレンジ北見大会	8	011
ホクレン・ディスタンスチャレンジ網走大会	8	012
全国高等専門学校体育大会	8	013
U20日本選手権	8	014
U20日本選手権・混成競技	8	015
U18陸上競技大会	8	016
U16陸上競技大会	8	017
全国小学生陸上競技交流大会	8	018
日本選手権・20km競歩	8	800
日本選手権・35km競歩	8	801
日本選手権・クロスカントリー競走	8	802
全国都道府県対抗男子駅伝競走大会	8	803
全国都道府県対抗女子駅伝競走大会	8	804

	5桁目	6桁目 ~8桁目
日本陸連主催大会		
長野マラソン	8	805
東京レガシーハーフマラソン	8	806
福岡国際マラソン	8	807
大阪国際女子マラソン大会	8	808
大阪マラソン	8	809
東京マラソン	8	810
名古屋ウィメンズマラソン	8	811
全日本競歩能美大会	8	812
U20日本選手権・クロスカントリー競走	8	813
U20選抜競歩大会	8	814
全国 U17/U16/U15 クロスカントリー大会	8	815
日本実業団	5桁目	6桁目 ~8桁目
全日本実業団陸上	5	000
全日本実業団駅伝(男子)	5	800
全日本実業団駅伝(女子)	5	801
マスターズ	5桁目	6桁目 ~8桁目
全日本マスターズ	6	000

### ③ 競技会コードについてのお願い

①小学生の競技会について  
0、1、2、8に該当しない  
場合のみ「7 その他」を  
用いてコード設定をお願い  
します。

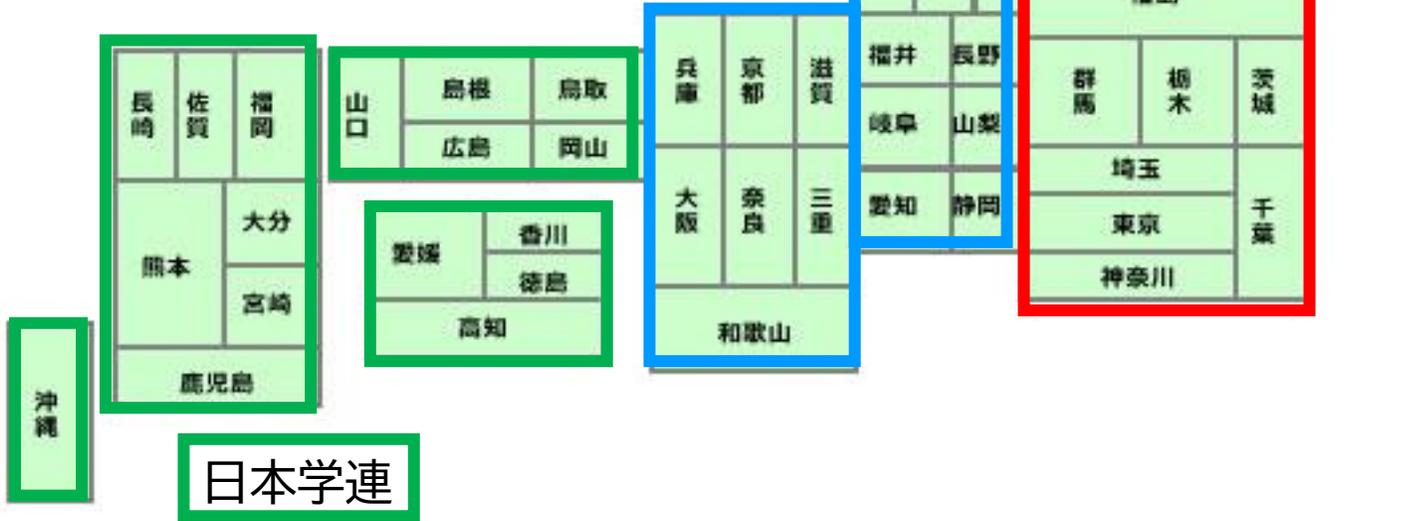
②マスターズの競技会  
(マスターズ連合担当者  
と連絡を取り確認された  
競技会が対象)は開催  
都道府県からの申請は  
必須です。

	5桁目	6桁目~8桁目	
		トラック	ロード
陸協主催	0	000~799	800~999
加入団体主催	1	000~799	800~999
地域陸協主催	2	000~799	800~999
中学生だけの大会(全中予選・突破会含む)	3	000~799	800~999
高校生だけの大会(IH予選など)	4	000~799	800~999
日本実業団連合・地域実業団主催	5	000~799	800~999
マスターズ連合承認	6	000~799	800~999
その他	7	000~799	800~999
日本陸連主催	8	000~799	800~999
WA・AAAの大会	9	000~799	800~999

岩脇 充司 PTリーダー

鍋島 太一 PTサブリーダー

野寺 巧寛 PTメンバー



## お願い

・道路競走について 公認コースで途中距離のレースを行う場合の申請では、必ず競技会名に続いて( )書きで「公認される実施種目」を表示してください。

【記入例】26 13 0800 第71回元旦競歩 (20km,10km,5km) 137230 神宮外苑絵画館20km

申請できる距離は公認がされているものに限り、途中の距離も含めてコースの公認が取れていない申請は無効となります。

駅伝競走およびクロスカントリーは、公認コースでなくても公認競技会として扱っています。

この場合、コースの出発場所～到着場所または、〇〇公園周回コースなどを記入してください。競技場・競走路コードは空欄としてください。

・公認陸上競技場・長距離競走路・競歩路のコードについて

申請時の公認陸上競技場・長距離競走路・競歩路の中には、公認期限が切れているものや、年度内に公認期限が切れるものが見受けられます。

公認期限切れの公認陸上競技場・長距離競走路・競歩路で開催された競技会は非公認になります。

年度途中で有効期限に達する場合は特にご注意ください。また、公認検定で競技場種別が昇格または降格する場合や名称が変更される競技場があります。確認でき次第すぐに更新手続きを行ってください。

くれぐれも「期限切れ」のまま競技会を開催することのないよう、ご留意ください。

- ・すべての競技会は開催前に**事前申請**でお願いします。**事後申請は受け付けません。**  
**申請せずに実施した競技会の記録は公認されません。**

尚、自然災害などで申請が事後になる際、また発生した際はご連絡をお願いします。

- ・昨年度は申請漏れによる事後申請が複数の団体にて発生をいたしました。対策などを検討いただいたうえで申請を受理しております。各団体の連携にて漏れのない**確実な申請**をお願いします。

2026年度も公認競技会申請業務へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

**JAAF**

**Japan Association of  
Athletics Federations**

ご清聴ありがとうございました  
ございました

日本記録申請・公認記録申請について

日本陸上競技連盟  
競技運営委員会

1. 2025年に樹立された日本記録の数

※ 2025年12月31日までの記録を集計してもっともよい記録を日本記録として認定する。

✓ 日本記録	男子…17(含室内(i)を4)	女子…16(含室内(i)を7)	混合…1
✓ 日本タイ記録	男子…1(含室内(i)を1)	女子…0	混合…0
✓ U20 日本記録	男子…7	女子…5	混合…0
✓ U20 日本タイ記録	男子…0	女子…0	混合…0
✓ U18 日本記録	男子…6	女子…9	混合…0
✓ U18 日本タイ記録	男子…1	女子…0	混合…0

2. 日本記録の追加認定について

現時点ではありません

3. 日本記録について

世界陸連(WA)は2024年から各国のナショナルレコード(日本記録)はWRk大会でマークされた記録のみ認定する。

これに伴い、2024年以降、非WRk競技大会でマークされた日本記録がWRk大会でマークされた記録を上回る場合には、以下の略号を付けて記録を区別する。CR34.10

(W):WRk 競技会でマークされた日本記録

(J):非WRk 競技大会でマークされた日本記録

現時点ではありません

		WRk 競技会	非WRk 競技会
国内大会	日本・U20 日本記録	○	○
	U18 日本記録	○	○
	公認記録	○	○
海外大会	日本・U20 日本記録	○	×
	U18 日本記録	○	×
	公認記録	○	×

4. 日本記録を認める種目について

世界陸連(WA)の世界記録を認める種目追加にともない、日本記録も追加する。

注意1) 屋外、室内の区別がなくなる。400mトラックまたは200msh

※ sh ⇒ ショート・トラック

注意2) 風力の報告が必要ない場合がある。

※ ルールの修正を参照し、遺漏のないように気をつける。

例1) 室内での競技会

例2) 200msh で実施された、200m

## 5. 日本記録の申請について

- ※ 審判ハンドブック 2025-2026 年度版 p.45～「世界記録、日本記録が認められるための要件」を参照  
…公認記録申請しても、日本記録がつくられた時は日本記録の申請も忘れずにしてください。

### <日本記録申請に必要な資料>

日本記録がつくられた時には、競技会を統括する加盟団体は本連盟に成績を速やかに連絡し、記録を確認するために必要な資料を揃え送付しなければならない。

⇒ **できるだけ速やかに申請する(競技会終了後、一週間をめどとする)**

日本記録は、(a) 日本記録 (b) U20 日本記録 (c) U18 日本記録  
(d) 日本記録(sh) (e) U20 日本記録(sh) (f) U18 日本記録(sh) とする。

このうち、(a)日本記録、(b)U20 日本記録、(c)U18 日本記録は、本条の日本記録の公認要件を満たしていなければならない。また、(d)日本記録(sh)、(e)U20 日本記録(sh)、(f)U18 日本記録(sh)は、CR31.13 ショート・トラック世界記録の公認条件に準じる

- ✓ 日本記録申請に必要な資料には、以下のものが挙げられる。

#### ① すべての種目に共通して必要なもの

日本陸上競技連盟新(タイ)記録申請書 ⇒ 申請用紙は、JAAF-30A～JAAF30G の用紙

- (1) 当該種目
- (2) 達成記録
- (3) 風力(追い風が問題となる各試技の実施時)
- (4) 競技者名と所属名(競技者が U20、U18 の場合は、生年月日)
- (5) 競技会が行われた日時
- (6) 競技会の開かれた場所
- (7) 競技会名
- (8) 本連盟の規則が正確に適用されたことの確認(総務と当該審判長に署名)
- (9) **競歩競技の場合は、判定を行った 3 人の JRWJ の署名 CR34.4.6**

<添付書類> (1) 印刷した大会プログラム (2) 当該種目の全記録(予選を含む全記録)

#### ② トラック競技の場合、①に加えてさらに必要なもの

- ✓ 写真判定が行われた場合には、その記録の判定写真および該当する種目のスタート地点で実施、またはジャンパー線を使用してスタート地点で使用する機器で行ったゼロ・コントロールテストの写真  
※ 印刷に数値が表示されない機種については画面で確認したものを記入する。

#### ③ フィールド競技の場合、①に加えてさらに必要なもの

- ✓ 全記録用紙。申請に用いる成績表は、コンピュータで記録処理を行った競技会にあっては、コンピュータシステムに直結した印刷装置で出力した記録表もしくは、その記録表をもとにして製版印刷された記録表を使用することができる。また、電子データによる申請も、所定の要件を満たす場合は使用することができる。  
✓ 科学測定を行った場合は、確認を行った全審判員のサインが入った適合確認書を添付する。  
※ フィールド記録用紙は一跳、一投ごとに計測した記録を記入する。

#### ④ 投てき競技の場合、①③に加えてさらに必要なもの

- ✓ 使用した投てき物の試技後の検査(技術総務等確認者のサイン)  
※ 確認者のサインは、申請書 E・F にあるサイン欄に行う。

#### ⑤ その他

- ✓ 日本記録がオリンピック種目の場合は、ドーピングテストを受ける必要があり(U20、U18 は対象外)  
✓ 海外における競技会で、日本記録がつくられた時は、それを確認できる記録証明書等。

#### 【競技会参加前に登録証明承認書(海外大会出場用)の提出が必要】

- ※ 使用されたシューズが、WA が発表しているリストに適合しているかの確認を含めルールに則り競技が行われたことを承認するサイン

## <日本記録申請に関する留意事項>

- ① 日本陸連に一報を入れてください。
- ② 必要な書類を整えてください。

### ✓ 注意を要する点①

#### ・ハードル競技

インターバルが同じ場合、高さが不利になる競技で出された記録は年齢の低いクラスでの日本記録となる。

例1) U18 の競技者が、年齢の高い規格の競技に出場し、U18 の日本記録を超えた場合は、年齢の低いクラスでの日本記録となる。(シニアの競技に出場した場合も同様)

110mH の例(インターバル=9.14m)

	シニア	U20	U18
高さ	1.067m	0.991m	0.914m

### ✓ 注意を要する点②

#### ・投てき競技

重さが不利になる競技で出された記録は、年齢の低いクラスでの日本記録となる。

例2) 砲丸投で U18 の競技者が、6kg の砲丸で U18(5kg) の日本記録を超えた場合は、U18 の日本記録となる。 ※ その他の投擲競技も同様

- ③ U20、U18 日本記録および日本タイ記録については、**生年月日をしっかりと確認**してください。

✓ アンダー18 (U18) 男子・女子：競技会が行われる年の12月31日現在で  
16歳あるいは17歳の競技者

✓ アンダー20 (U20) 男子・女子：競技会が行われる年の12月31日現在で  
18歳あるいは19歳の競技者

〔国内〕 国内のU18、U20 競技会では、年齢区分の下限は設けない。

## 6. 記録の公認申請について

### 公認記録

加盟団体は、主催、共催あるいは所管した競技会の成績表(トラック種目とリレー種目の予選・準決勝・決勝記録表、フィールド種目の記録表、混成競技記録表等)各1部を、できるだけ速やかに本連盟へ送付しなければならない(競技会終了後、一週間をめどとする)。成績表に報告された以外の記録は、いかなる場合も公認記録の対象とはならない。

※ 審判ハンドブック 2025-2026 年度版 p.52「記録公認申請の方法」を参照

日本記録

Table with columns: 種目, 記録, 氏名, 所属, 年月日, 競技会名, 場所. Contains records for men's and women's events like 400m, 800msh, 1000msh, etc.

日本タイ記録

Table with columns: 種目, 記録, 氏名, 所属, 年月日, 競技会名, 場所. Contains records for men's and women's events like 60m.

U20日本記録

Table with columns: 種目, 記録, 氏名, 所属, 年月日, 競技会名, 場所. Contains records for U20 men's and women's events like 60m, 100m, 110mH, etc.

U20日本タイ記録

Table with columns: 種目, 記録, 氏名, 所属, 年月日, 競技会名, 場所. Contains records for U20 men's and women's events like 60m.

U18日本記録

Table with columns: 種目, 記録, 氏名, 所属, 年月日, 競技会名, 場所. Contains records for U18 men's and women's events like 100m, 110mH, 200mH, etc.

U18日本タイ記録

Table with columns: 種目, 記録, 氏名, 所属, 年月日, 競技会名, 場所. Contains records for U18 men's and women's events like 100m.

# 公認記録申請 分科会A

2026年2月11日(水)  
日本陸上競技連盟  
競技運営委員会 岩脇 充司



1

## ○公認記録申請について

### ・現状

陸マガ記録室(陸連 競技運営委員会分室)から日本陸連へ変更

次年度よりペーパーでの申請はできない  
データ申請のみの受付

### 名寄せなどに影響

- ・所属名が正しく反映されているか。
- ・生年月日などにより学齢区分が正しいか。
- ・氏名の漢字(旧字体を含む)や読みがなが正しく入力されているか。
- ・その他

2

## ○公認記録申請について

## ・課題

二重登録が認められている中学生、高校生について、ランキング集計上で出場していない所属名と競技会で達成された記録が紐付けられてしまっている現状について、システム上の修正を行っています。

例 Aクラブで過去に競技会に出場  
その後、所属高校で競技会に出場したが、その時の記録表記では  
Aクラブ、記録〇〇となっている

3

## ○都道府県記録、中学記録、高校記録 等について

- ・これまで通り、それぞれの管理する団体で適切に管理をしてください。  
日本陸連では特に関知いたしません。

例) 日本代表として参加した競技者の記録をどうするか。  
例) 国民スポーツ大会に「ふるさと」選手として参加した競技者の記録が、  
その都道府県記録となった場合

- ・二重登録の競技者の記録をどう扱うのか。  
例) 東京のクラブチームと千葉県の高所に所属する競技者が出した記録をどうするか。

4

・お願い

- ①エントリーの際に、日本陸連に登録している正しい氏名、ヨミ、生年月日、学年 等を求める。
- ②公認申請をするデータに間違いがないかをしっかりと確認する。
- ③ホームページに表示されたデータに間違いが判明した場合は、問合せフォームにより事務局へ連絡する。
- ④非公認競技のデータ申請  
日本陸上競技連盟競技規則にそって行われていない競技の記録  
➡ 種目名(非公認)、または種目名(非)としてデータ申請をしてほしい  
例) 陸連の検定していない投てき物を使用した場合 …ジャベリックスロー など  
例) 競技場の使用許可が得られず、検定をしていない練習場などで行われた投てき競技 など

5

ありがとうございました。



6

## JAAF が定めている記録用紙の改訂について

競技会カレンダー・記録プロジェクトチーム

2026 年度に改訂または、新たに追加される記録用紙は次の 5 種類です。

### JAAF-19 監察員記録用紙

- ハードル・リレーのルール改正を反映させました。
- 規則違反一覧の条文番号を修正しました。TR24.11 に 4×100m 男女混合リレー走順についてのルールが追加されたことにより、それ以降のルール番号の読み替えを反映させました。
- 以前から予告していましたが、複数あった用紙のスタイルを従来の C 様式だけにしました。監察員と審判長が記入し記録情報に流す用紙(外水濠用・内水濠用)と規則違反一覧を完全に分けたものです。規則違反一覧は、規則改正があるまでは繰り返し利用可能となります。

【注意】監察員記録用紙を使用せずに運営している競技会があるようです。

CR20.2 には

「監察員の任務は……審判長にその出来事を書面で報告しなければならない。」と定められています。

トラック競技を行う全ての競技会は、監察員を配置して、CR20.2 を遵守し「書面」での報告が必須となります。(使用する書式に規程はありません)

### JAAF-22 リレーオーダー用紙

男女混合リレーの場合には、性別を記入する欄を追加しました。

TR24.11 ならびに 24.12 に男女混合リレーの走順が定められたことを受けたものです。

### JAAF-30 日本新記録・日本タイ記録申請書 A (トラック個人種目)

審判長確認事項の修正をしました。

CR31.14.4 [注釈] が追加されたことを受けたものです。

混成競技のトラック種目で日本記録・タイ記録がマークされた場合は、不正スタートの有無とその詳細について確認をお願いします。

### JAAF-34 上訴申立書

これまで 1 枚だったものを 2 枚構成としました。

上訴内容の用紙と、上訴申立預託金預かり証 兼 領収書の用紙となります。

### JAAF-39 物品預かり証

新たに追加されました。

## 監 察 員 記 録 用 紙 ① (外水濠)

※記入欄だけのシートです。違反内容を1ページにまとめたJAAF-19②、またトラック共通と種目別を2ページに分けた19③のどちらかを参照にしてください。

競技会名				日時	/	:	
種 目			男・女	予選 / 準決 ( )組・決勝			
○をつける	レーンNo.	ビブスNo.	リレー				
規則違反 / 途中棄権				走→ 走			
			× 発生場所 ▲ 監察員位置  該当する項目に✓  <input type="checkbox"/> 妨害した <input type="checkbox"/> 妨害された  <input type="checkbox"/> 妨害はなかった				
監察員所見 ※ 詳細(ユニフォームの色なども記録しておくとい)							
当該競技者の履歴 [ YC / L ] [ 種目・ラウンド ]							
該当する規則 [ TR / CR ] ※別紙19②または19③参照							
報告者氏名				記入者自署			
※ 以下、審判長記入 上記以外の判定の根拠となる規則No.やその他の判定資料[ビデオ映像(カメラNo.を明記)、SISなど] 抗議中で競技をした場合ビブスNo.と「P」を記入							
裁定/結果	ビブスNo.	失 格	失格としない	途中棄権	救 済		
		Y C ( 警 告 )		Y R C / R C ( 除 外 )			
審判長自署							

※ YC = イエローカード    YRC = 2度目のイエローカード    RC = レッドカード    L = TR17.3.3またはTR17.3.4の適用    P = 抗議中で競技をした

## 監察員記録用紙 ②

※違反内容を1ページにまとめたものです。文字が小さいと感じたら③(2ページ)を使用してください。

規則違反内容	規則No.
服装・靴・アスリートビブスについてTR5を遵守しなかった	TR5.11
競技中、競技区域内で、以下の事象を含む助力を受けた 主催者に任命されていない者からの助力を受けた (TR6.1)	TR 6.2
承認を得ていない者から、途中時... (TR17.14)	
...	TR 6.3.1
...	TR 6.3.2
...	TR 6.3.6
...	TR 6.3~5
警告除外 誠実に力を尽くして競技に参加しなかった。反スポーツマンシップ行為、不適切行為があった。	TR7.1
TR7.1を適用した後の2度目の警告を受けた	TR7.3
リレーチームの失格がTR7.1を適用された個人の行為であり、当該選手は2度目の警告となった	TR7.4
共通 スタート 「On your marks」または「Set」の合図の後で、正当な理由もなく手を挙げた、立ち上がった	TR 16.5.1
合図に従わない。速やかに位置につかない	TR 16.5.2
合図の後、音声・動作などで他の競技者を妨害し、他の競技者の不正スタートを生じさせた	TR 16.5.3
不正スタート [ 単独種目 / 混成競技 (TR39.8.3) ]	TR 16.8
通 妨害 妨害行為があった (詳細は所見欄に記入)	TR 17.1
他者や物に押されて・妨害されて、自分のレーンの外、縁石・ライン上や内側に入った	TR 17.3.1
行 レーン 直走路で自分のレーン外を曲走路で自分のレーンの外側を 踏んだ、走った、歩いた	TR 17.3.2
曲走路で、レーン左側の白線や走路の境界を示す縁石または白線に1回(1歩)だけ触れた	TR 17.3.3
曲走路で、レーン左側の白線や、走路の境界を示す縁石や白線に2回(2歩)以上触れた。または、TR17.3.3を適用した後の2回目の違反	TR 17.3
行 レーン 曲走路で、走路の境界を示す縁石や白線に1回(1歩)だけ踏んだ、完全に越えた(内側に入った)	TR 17.3.4
曲走路で、走路の境界を示す縁石や白線に2回(2歩)以上踏んだ、完全に越えた(内側に入った)または TR17.3.4を適用した後の2回目の違反	TR 17.3
縁石の内側に入ったあと、囲まれた状況から抜け出す際、実質的な利益があった	TR 17.4
...	TR 17.5
...	TR 17.6
...	TR 17.7
...	TR 22.6
...	TR 22.6
ハードル ハードルを越える瞬間に足・脚がハードルをはみ出てバーの高さより低い位置にあった	TR 22.6.1
手や体、振り上げ脚の前側でハードルを [ 倒した / 移動させた ]	TR 22.6.2
自分や他のレーンのハードルを倒して、レース中の他の競技者に影響や妨害を与え、他の規則にも違反した	TR 22.6.3
自分や他のレーンのハードルを移動させ、レース中の他の競技者に影響や妨害を与え、他の規則にも違反した	TR 22.6.4
...	TR 17.3.2
...	TR 23.7
...	TR 23.7.1
...	TR 23.7.2
...	TR 24.4
...	TR 24.5
...	TR 24.5
...	TR 24.6
...	TR 24.7
...	TR 24.8
...	TR 24.9
...	TR 24.9
...	TR 24.13
...	TR 24.19
...	TR 24.21
...	TR 24.22
...	TR 24.23

②は違反一覧を1ページにまとめたタイプ  
③は文字を大きくして2ページに分けたタイプ  
②も③も内容は同じです

ハードルのルール改正を反映させました

リレーのルール改正を反映させました

TR24.11の追加による条文番号の読み替えです

## リレー・オーダー用紙

チーム名	種目	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>チーム名欄を拡張しました</b> </div>	男・女・混合	予選 組 レーン
		準決 組 レーン
		決勝 レーン

オーダー	ナンバー	競技者名	※① 性別	リレー出場に○印		※②リレーエントリー6名以外の場合		
				予選	準決勝	出場種目	組	プロ掲載ページ
1								
2								
4								

**脚注を番号付で追加しました**

**男女混合のみ性別記入します**

- ※① 混合リレーの場合のみ記入（4×100mR・4×400mRともに走順は、男子-女子-男子-女子）
- ※② リレーエントリー(6名)以外の競技者が出場の場合はその出場種目、プロ掲載ページを記載すること。
- ※③ この用紙は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに決められた場所に提出する。

年 月 日 監督自署 \_\_\_\_\_

(案)日本記録・日本タイ記録申請書 A (トラック個人種目)

日本陸上競技連盟競技規則により、次の記録を申請する。

※ 該当するすべての項目の口にしるしをつける。日付は西暦。

<input type="checkbox"/> 男子	<input type="checkbox"/> 女子	種目名	<input type="checkbox"/> WRk
<input type="checkbox"/> 日本記録	<input type="checkbox"/> 日本タイ記録	<input type="checkbox"/> U 20	<input type="checkbox"/> U 18
1. 記録	風向風力	+-	m <input type="checkbox"/> 室内
フリガナ	生年月日	登録都道府県	
2. 氏名	年	月	日
所属団体正式名	JAAF ID (確認できれば記入)		
3. 競技会名	コード		
4. 記録した日	年	月	日
5. 競技場名	コード		

※ 以下の確認した項目・該当するすべての項目の口にしるしをつける

6. 競技場・施設用器具について、私は以下のことについて確認した。	
<input type="checkbox"/>	この競技場が日本陸上競技連盟の公認競技場である
<input type="checkbox"/>	競技場のすべての施設用器具が日本陸上競技連盟競技規則に則るものであり、正しく使用された
技術総務自署	JAAF ID
7. 競技会運営・実施について、私は以下のことについて確認した。	
<input type="checkbox"/>	( <input type="checkbox"/> 写真判定装置 <input type="checkbox"/> 手動計時で使用したストップウォッチ ) が正しく作動し、計測された
<input type="checkbox"/>	風向風力計が正しい位置に設置され、正しく作動し、計測された
<input type="checkbox"/>	競技が日本陸上競技連盟競技規則に則り、正しくおこなわれた
<input type="checkbox"/>	これは混成競技で記録されたものであるが、 <b>風向風力は単独種目の条件を満たしており、本人に1回目の不正スタートの責任がない。</b>
トラック競技審判長自署	JAAF ID
スタート審判長自署 (任命されている場合)	<b>CR31.14.4(注釈)により 本人に1回目の不正スタートの責任がない レースであったことを確認してください</b>
混成競技審判長自署 (混成競技の場合)	
総務自署	JAAF ID
8. 私は上記すべてについて正しいことを確認し、以下の書類を添付して申請する。	
<input type="checkbox"/>	大会プログラム <input type="checkbox"/> 当該レースの全記録 (風向風力・ハードルの規格などを記入した)
<input type="checkbox"/>	判定写真 (トラック競技審判長・写真判定員主任・写真判定員の3名がサインした)
<input type="checkbox"/>	ゼロコントロールテスト写真 (トラック競技審判長・スターター・写真判定員主任・派遣されていればJTOがサインした。装置のメーカー名・品番が明記されている)
<input type="checkbox"/>	(手動計時の場合) 計時順位判定表・計時記録判定表
<input type="checkbox"/>	ドーピング検査の依頼をした。(オリンピック種目のみ。U20/18・シヨートトラックは不要)
依頼日	年 月 日 / 実施日 年 月 日
記録申請日	年 月 日
加盟団体名/協力団体名	
代表者自署	

## 上訴申立書

No. \_\_\_\_\_

競技規則 TR8により、預託金 **20,000 円** を添えて、下記の通り上訴申立てをします  
ただし、本申立てが却下された場合は、この預託金が没収されることを了承します。

西 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

競技 \_\_\_\_\_

**2万円になりました**

**2枚目の用紙と同じ番号を振り、  
複数件出た場合は通し番号で管理します**

競技者氏名またはチーム名 \_\_\_\_\_ (ビブスNo. \_\_\_\_\_)

申立人自署 \_\_\_\_\_

所属団体名または加盟団体名 \_\_\_\_\_

上訴理由

**上訴内容についての文書です**

※以下主催者による記入

競技結果正式発表時刻 \_\_\_\_\_ :

口頭による抗議申立時刻 \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_ 受理者自署

審判長裁定時刻 \_\_\_\_\_ :

上訴申立書受理時刻 \_\_\_\_\_ : \_\_\_\_\_ 受理者自署

裁定結果および理由

\_\_\_\_\_ **ジュリー代表自署**

上訴裁定通知時刻 \_\_\_\_\_ :

裁定結果通知者自署 \_\_\_\_\_

上訴申立預託金預かり証 兼 領収書

No. \_\_\_\_\_

預託金についての文書です

殿

上訴申立預託金として金 20,000 円を受領しました。

1 枚目と同じ番号を振ります

上訴申立を受け入れた場合

本証と引き換えに返金します。

裁定結果の通知を受ける際には、必ず本証を持参してください。

本証を紛失した場合は、返金できません。

上訴申立を棄却した場合

この預り証が上訴金 20,000 円の受領証明書となります。

西 暦                      年                      月                      日

競技会主催者名

責任者自署

印をなくしました



## 2025年度 S級公認審判員昇格審査(2026年4月1日昇格予定者)結果について

1. 昇格審査結果報告

- 昇格候補者審査は、2026年1月18(日)に実施。
- 申請159名中、155名を昇格候補者とした。

<p>《審議対象の内訳》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会3回のうち、1回分の講習会開催日が手帳と講習会実績一覧表で相違 ⇒ ×不可</li> <li>・過去6年の手帳がなく、一覧表の内容が確認できない(競技会は2年半で規定回数を超えていることを確認できたが、講習会は2回しか確認できず) ⇒ ×不可</li> <li>・担当役員がほとんど庶務係 ⇒ ○可(「感染症対策室」というものは除いた。)</li> <li>・陸協提出の講習会実績一覧表と、手帳記載の実施日の相違が複数 ⇒ 相違のものを除いても3回を超えているので ○可<sup>注1)</sup></li> </ul> <p>注1) 来年度以降も相違が出てくる可能性があるので、各陸協での確認をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会3回のうち、1回分の講習会開催日が講習会実績一覧表にない ⇒ ×不可</li> <li>・講習会4回のうち、1回分は上記と同様、もう1回分は講習会講師名が手帳と講習会実績一覧表で相違+証印なし(黒で手書き) ⇒ ×不可</li> </ul>
---





- 競技会の出席回数は申請時点での直近6年間<sup>注1)</sup>で30回以上を基準とし、陸連主催及び加盟団体からの申請による公認競技会を基本とした(各年度4月1日～3月31日の競技会出席回数)。同一日に複数の競技会に出席していても1回とカウントした(競技会は1日単位でカウント)。
- 審判講習会<sup>注2)</sup>出席回数は、直近6年間<sup>注1)</sup>で3回以上を基準とした。同一年度に複数回出席している場合でも1回とカウントした。実技講習会の類はこの講習会の回数には含めない。

注1) 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、通常の講習会が行われず、競技会実施数も激減しました。そのことを考慮し、講習会・競技会の出席回数を直近6年間でカウントすることとします。(2026年度分申請までの措置…今年度限り)

注2) 審判講習会：都道府県主催の伝達講習会、陸連主催の全国競技運営責任者会議

- S級昇格者には委嘱状及びS級バッジを贈呈する。

2. 今年度の審査と今後について

- 書類の不備が多く複数の団体に問い合わせを行った結果、全国会議までに審査が終わらなかったことが以前ありました。そのため、現在は提出物の不備について問い合わせは行わず、提出物から確認できる内容のみで審査しています。

※書類に不備があると昇格対象者が不利益を被るため、引き続き各団体できちんと確認をお願いします。

- 申請期日までに書類提出のない場合は該当者なしと判断し、その後のものについては受理いたしません。ほとんどの加盟団体は、期日を守って提出していただいております。ご協力のほど、お願いします。(なお、昇格候補の該当者がいない場合は、申請期日までに該当者なしのご一報をいただけるとうれしいです。)

- 講習会開催実績報告書は、2023年度申請までは直近6年度分を提出していただきましたが、2024年度申請から当該年度のみ提出いたしました。今後もこの方向で実施します。  
⇒前年度までに提出されたものと、当該年度の書類で審査を行います。提出されたものが間違っていますと、当該年度だけでなく、今後4～5年間手帳と不一致となり、昇格対象者が不利益を被るため、記載漏れ・記載ミスが無いよう確認した上、ご提出ください。
- 昇格対象者がいない場合も、講習会開催実績報告書はご提出ください。

### 3. 昇格審査におけるお願い等

《審判員手帳について》

**記載すべきことを、正しい場所に正確に記載してください。**

- 加盟団体の審査でのA級昇格時には、必ず手帳に昇格年月日の記載と承認印の押印を。  
⇒手帳の送付は、申請に関わる部分のみでお願いします。
- 講習会への出席は「審判講習会」欄へ、競技会への出席は「審判の記録（競技会記載欄）」の欄に、日付、講師名、担当役員等、それぞれ正確に記入してください。  
⇒改ざんを疑われることがあるので、捺印や短冊を作成する際に十分にご注意ください。（陸協認印のないものは、認めません（カウントしません））  
⇒講習会講師名や講習会の日付は、都道府県陸協で確認の段階できちんと整備して下さい。  
⇒講師名複数の場合、講師名を全て記載するか、手帳と実績報告書を一致させることをご確認ください。
- 日付の記載は、できる限り西暦で統一してください。
- 「審判の記録（競技会記載欄）」には、競技役員（審判員）として出席した場合のみ記載してください。大会役員（会長、副会長等）としての参加は、競技会出席回数に含まれません。また、担当役員欄は空欄にせず、具体的な競技役員名を主催者が記載してください。  
⇒担当役員名が明記されていないもの（空欄）は、認めません（カウントしません）。  
⇒担当役員名が「競技役員」となっているものも、具体的な役員名としてください。

《提出書類について》

**記載漏れ、記載誤り、不要な資料添付がないようにお願いします。**

- 講習会一覧の日付が違う・あいまい、講師名が抜けている。  
⇒講習会一覧と審判手帳の日付が一致しないものはカウントしません。
- 申請書、理由書が過去のデータを利用している。そのため、数式や形式が違っていたりしている。  
⇒必ず今年度送付した新しいもの（当該年度のフォーマット）を利用してください。
- 申請書と審判手帳の相違  
⇒都道府県陸協で確認をしっかりといただき、正確に（特に数）申請をお願いします。
- 条件に合った申請がされていない。  
⇒離島以外は、競技会の回数30回は譲れません。また、仕事等の理由で競技会・講習会の数が不足していても、理由にはなりません。
- 黒手帳で提出 ⇒ 審査自体問題はありませんでしたが、旧手帳は「S級欄」が無いため、陸連の認印を押すことができません。事務局より当該陸協に連絡し、新手帳を送っていただくことで対応しました。

《理由書について》

災害による影響、離島に居住など、やむを得ない事情のみ、記入してください。

- 家庭の事情、仕事の都合、体調の問題による回数不足は、認められません。
- 申請書類提出後の競技会出席回数は、カウントされません。

《その他》

- 明らかに55歳以上であることは確認できたが、手帳と一覧表で生年月日の相違があるなど、陸協の審査の段階で気付くはずのミスが少なくありませんでした。きちんと整えた上で送付をお願いいたします。

以上

# 2025年度 S級公認審判員昇格審査 (2026年4月1日昇格予定者) 結果について

2026.2.11 (Wed.) 全国競技運営責任者会議

日本陸上競技連盟 競技運営委員会  
審判員研修PT



# ◆2024年度 S級昇格審査概要



2026.1.18

日本陸連事務局にて審査

競技会の出席回数：

直近6年間で30回以上

審判講習会の出席回数：

直近6年間で3回以上

★新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、「直近6年間」のカウントは、2026年度申請までの措置

# ◆今年度の審査と今後について

## 【過去の事例】

不備が多く、多くの団体に問い合わせを行ったため、全国会議までに審査が終了できなかった。



## 【一昨年度より】

- 提出物の不備についての問い合わせは行わない。
- 提出物から確認できる内容のみで審査を行う。

# ◆今年度の審査と今後について

## 【今年度より】

**申請期日までに書類提出のない場合は該当者なしと判断し、その後のものについては受理いたしません。**

**（昇格候補の該当者がいない場合は、**

**申請期日までに該当者なしのご一報をいただけるとありがたい）**

# ◆今年度の審査と今後について

## 【2024年度申請より】

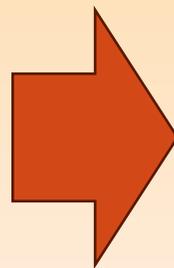
### 講習会開催実績報告書は、当該年度のみ提出

2023年度申請  
(2024年4月1日付昇格)

都道府県No.

2018年～2023年審判講習会開催実績報告書

	年月日	会場	講師名
1	2018年 月 日		
2	年 月 日		
3	年 月 日		
4	年 月 日		
5	年 月 日		
6	年 月 日		
7	2019年 月 日		
8	年 月 日		
9	年 月 日		
10	年 月 日		
11	年 月 日		
12	年 月 日		
13	2020年 月 日		
14	年 月 日		
15	年 月 日		
16	年 月 日		
17	2021年 月 日		
18	年 月 日		
19	2022年 月 日		
20	年 月 日		



2024年度申請  
(2025年4月1日付昇格)

都道府県No.

2024年審判講習会(伝達講習)開催実績報告書

	年月日	会場	講師名
1	2024年 月 日		
2	年 月 日		
3	年 月 日		
4	年 月 日		
5	年 月 日		
6	年 月 日		
7	年 月 日		
8	年 月 日		
9	年 月 日		
10	年 月 日		
(例)	2024年 3月 4日	東京体育館	陸連太郎、江戸花子
(例)	2024年 3月 3日	オンライン講義	陸連太郎、江戸花子

\*各陸協で開催した審判講習会(伝達講習)を古いものから順に記入する。(昇格審査に関係なく、実施した全てを記載)  
\*単一部署の講習会は除く(スターター講習、アナウンサー講習等)。  
\*記入欄が不足する場合は用紙をコピーして付けたしてください。

陸上競技協会 印

● 当該年度の報告を確実に！

(今後4～5年間手帳と不一致となる恐れ)

# ◆2025年度 S級昇格結果



2026.1.18

日本陸連事務局にて審査

## 【不合格者の内容】

- 講習会の回数不足  
⇒ 手帳の講習会日時が講習会実績報告書記載の日付と異なる  
(合計3回の確認ができません)
- 提出された手帳の不足  
⇒ 一覧表の内容の確認ができません

# ◆昇格審査におけるお願い

## 【①審判員手帳について】

- ★ 毎年お願いしている内容です。
- ★ 申請案内の要項にも 記載してあります。
- ★ 多くの加盟団体は、正確に処理されています。

講習会／競技会の欄が時系列になっていない方は、改ざんを疑われるので、捺印・短冊作成にご注意を

# ◆昇格審査におけるお願い

## 【①審判員手帳について】

★審判の記録の担当役員欄には、競技役員として出席した場合のみ記載。

⇒大会役員（会長・副会長等）はNG

⇒担当役員名が明記されていないもの（空欄）は、引き続き一切認めない。

※具体的な競技役員名を主催者が記載のこと

競技会名	担当役員	連年月日	証印
2025 日本室内・日本選手権陸上競技大会		25. 2. 1	日本陸連印

# ◆昇格審査におけるお願い

## 【①審判員手帳について】

★講師名、陸協認印、日付の確認をお願いします。

審判講習会・研修会	本陸上競技連盟日本	担当講師	年	月	日	証印
2024(R6)年度長野陸協審判講習会		青柳智之	2024	3	17	長野陸協印
2024年度 JTO研修会	日本陸連競技運営委員会		2025	1	25	日本陸連印

⇒改ざんを疑われることがあるので 陸協認印のないものは、認められません。

⇒講師名・日付について、確認の段階で整備を。

# ◆昇格審査におけるお願い

## 【②提出書類について】

★講習会一覧の日付が違ふ／講師名空欄

⇒前述の通り、再度確認をお願いします。

★申請書・理由書が過去のデータを使用

⇒必ず当該年度のフォーマットを使用のこと。

★申請書と手帳の相違

⇒特に回数のカウントは正確に。

## ◆昇格審査におけるお願い

### 【③理由書について】

★家庭の事情、仕事の都合、体調の問題による回数不足は認められません。

- 離島以外は、競技会の回数30回は譲れない。
- 災害による影響・離島に居住など、やむを得ない事情のみ記入して下さい。

# 2025年度 S級公認審判員昇格審査 (2026年4月1日昇格予定者) 結果について

お忙しい中、いつもありがとうございます。

対象者が不利益を被らないために、よろしくお願ひします。

日本陸上競技連盟 競技運営委員会  
審判員研修PT



全国会議資料（審判ハンドブック PT）  
～ 2027－2028 年審判ハンドブック作成方針 ～

- 審判員や読者に読みやすく誤解のない表現を心掛ける
  - 表現の統一
  - わかりやすい表現を利用
  - 写真の差し替え
  
- 世界陸上を終えて国際化を取り入れていく
  - コラム（図や表）や必要に応じて本文で紹介していく

# 2025年度 全国競技運営責任者会議 分科会2

## 競技運営委員会 審判員研修プロジェクト

# ■「World Athletics Bronze Referee」 資格取得試験に向けた「人材バンク登録」について

1. 今後、「ブロンズ写真判定員」および「ブロンズスターター」試験を実施予定  
→現時点では具体的な連絡が届いていない状況、推薦手続きの円滑化
2. 登録期限 → **2026年2月28日(土)**
  - (1) B級取得後3年以上経過し、加盟団体が責任をもって推薦する者。  
※各都道府県大会におけるWRk競技会において、今後永く審判長や主任を担うことが見込まれる方を推薦。
  - (2) ブロンズレフェリー → 加盟団体男女各5名以内(合計10名以内)  
※60歳未満の年齢制限は撤廃
  - (3) ブロンズ写真判定員・ブロンズスターター → 加盟団体男女各1名
  - (4) 男女同数であること

# ■競技会運営の合理化に向けたアンケートの実施

## 1. 少子高齢化に対応した今後の競技会運営の在り方

- 限られた人数での競技会運営
- 持続可能な競技会運営の構築

## 2. 東京陸協の取り組み

- ①「フィールド審判員」 → 跳躍審判員と投てき審判員を合わせる  
競技実施日の偏りに対応が可能、委嘱時のバランスの見極め
- ②「周回記録員」と「風力計測員」の兼務の検討

## 3. 回答期限 → 2026年1月26日(月)

今後、アンケート結果の集計

## ■WRk競技会のブロンズレフェリーの配置について

1. WA 規則に準じて競技が行われていることを監督する「競技運営監督者」  
→ 2025年5月19日発出文書 「WRk競技会に於ける競技運営監督者  
について」の体勢を原則保持

2. 日本選手権、WAコンチネンタルツアー（GGP、静岡国際、木南記念、  
織田記念）、ラベルロードレース  
→ 審判長、主任はブロンズレフェリーを配置

※審判長にブロンズレフェリー以上の者が配置できる場合には  
「競技運営監督者」の配置は不要

## ■NARの申請方法について

1. 各都道府県の競技会で実技研修を実施



2. 各都道府県陸協でPDF化された個人の修了証（ Evidence Form ）  
をとりまとめる



3. 日本陸連に修了証を添付してメール( compe-tech@jaaf.or.jp ) を送る



4. 日本陸連がWAに申請



5. WAから日本陸連にNAR資格認定証が送付され、日本陸連から  
各都道府県陸協にメールで送付

# J T O s 活動報告

日本陸上競技連盟 競技運営委員会

幹事・J T O 杉本太郎

2025年度は第1期から第7期まで総勢55名体制で、日本陸連主催・共催競技会を中心に、全国各地で行われた競技会の運用支援にあたってまいりました。

## 1 2025年度派遣競技会の状況

(2024年度全国会議以降)

- ・日本選手権20km競歩 ・日本選手権クロスカントリー ・東京マラソン
- ・名古屋ウィメンズマラソン ・全日本・日本学生20km競歩
- (2025年度) 4月1日~2025年1月25日まで
- ・金栗記念選抜中長距離/日本選手権10000m ・吉岡隆徳記念出雲陸上
- ・長野マラソン ・兵庫リレーカーニバル ・織田記念 ・静岡国際 ・木南道孝記念
- ・ゴールデンゲームス in のべおか ・水戸招待陸上 ・布勢スプリント
- ・SEIKO ゴールデングランプリ陸上2025 東京 ・田島直人記念陸上
- ・日本陸上競技選手権 ・日本陸上競技選手権混成/リレー ・北海道マラソン
- ・MIDDLE DISTANCE CIRCUIT 2025 ・全国高等学校陸上競技選手権
- ・2025 オールナイト陸上(実業団・学生対抗) ・富士北麓ワールドトライアル
- ・Athlete Night Games in FUKUI2025 ・全国中学校陸上競技選手権
- ・全日本実業団選手権 U20日本陸上競技選手権 ・全日本マスタース
- ・国民スポーツ大会 ・U16/U18陸上競技大会 ・全日本競歩高畠
- ・東京レガシーハーフマラソン2025 ・神戸マラソン ・防府読売マラソン
- ・福岡国際マラソン2025 ・全国中学校駅伝 ・全国高等学校駅伝
- ・全国都道府県対抗女子駅伝 ・全国都道府県対抗男子駅伝 ・大阪国際女子マラソン

## 2 報告事例紹介

全国各地の審判技術の向上やJ T O sの派遣による未然防止により、トラブル事例は減少してきましたが、まだまだトラブル事例が報告されています。これらの事例を生かしていただき、今後のトラブル防止につなげていただけたら幸いです。

### ○トラック競技にかかわるもの

#### ・ビデオ観察装置

110mHで黄旗が上がらなかった妨害行為をビデオで発見し、当該競技者を失格とした。(CR18、TR17.1.2)

- ・陸連強化サイドから、「風が回っているので『吹き流し』を複数設置したい。」との要

望があり、競技規則に抵触するものでもなく、全競技者が視認できるものであることから問題ない旨を回答した。

- 男子400m決勝において、1着でフィニッシュした競技者が曲走路部分で2歩内側のラインを踏んだと監察員からの報告。決勝の1着の競技者の事象だけに、確実なエビデンスが必要とトラック審判長と確認。ビデオ室へ審判長と急行し、確認することとなった。コンペティションディレクターには、officialが遅れると連絡する。

以下事象について

- ①当該レースを撮影したSDカードを回収に回る。
- ②コンペティションディレクターより、「officialが出ているが良いか？」と連絡あり。FOPに残ったもう1人の審判長が監察員の報告どおり失格の裁定をしたと報告を受ける。
- ③1つ目のビデオを確認。内側の線を踏んだように見える部分を審判長と複数確認。三脚を使用していないため、手振れも有り、再生もコマ送りできないことから、ややはっきりしない映像であった。
- ④2つ目のビデオを確認。上記箇所からしばらく進んだ地点で比較的是っきりした映像を確認。失格は間違いないと判断した。
- ⑤抗議に対し審判長が対応（FOPで実際にジャッジをした審判長ではないもう1人の審判長）。（JTO自身は）監察員の報告どおり「複数回ラインを踏んだ」との説明を行ったと思っていたが実際は2つ目のビデオの「踏み越し」の説明を行った。
- ⑥リザルトの「2歩以上走った」と説明が異なるため、抗議者が説明を求める。審判長は失格理由を「内側ラインを踏み越した」に訂正。
- ⑦ラインを完全に踏み越していないと上訴。ジュリーは審判長裁定を支持。  
（裁定時刻 21:15）
- ⑧その後も22時過ぎまで残って説明を求めたり、翌日以降も陸連事務局へ電話・メールの連絡が続いたりした。7月9日（水）、陸連事務局に当該チームから「お伺い書」が届いたため、関係者で対応。陸連としての回答を事務局より14日（月）に送付した。  
⇒ビデオ監察の体制、審判長の役割分担について（判断した審判長と説明した審判長が異なるという事象が起きていた）、課題が残った。  
⇒抗議者の指摘に基づき審判長は失格事由を1回変更したが、抗議者の伺い書には2回変更されたリザルト（速報サイトのスクリーンショット）が添付されていた。（失格理由①T3(TR17.3)縁石または内側のラインの上、または内側を2歩以上走った→②T12(TR17.3.1)自分のレーンの内側を完全に1歩入った→③T12(TR17.2.3)曲走路において、内側のラインを踏み越した）しかも、条文番号と事由の内容が異なったところもあった。
- ⑨上記のことからも、失格にする場合はその対象となる事象を明らかにした上で根拠となる条文番号を明確にするという、基本的な手続きの大切さを改めて確認した

い。

- レースが確定していない状態で、「先ほどのレース、○レーン失格」とアナウンスがあった。

#### ○フィールド競技にかかわるもの

- やり投げにおいて、やりの落下前に助走路を離脱したと見られる試技を有効試技としていた。
- IH円盤投げ予選中、タイマーやEDMが作動しなくなった。原因は、1つの電源ドラムに多くの配線が集中したことによるオーバーヒートであるとのこと。
- ハンマー投げで、ターンの途中でバランスを崩して転倒し身体がサークルから出てしまった。無効試技の判定が出たが、後から確認したところTR36.3には無効試技には数えず、新試技が与えられるべきであったのではないかと思われる。

#### ○ロード競技にかかわるもの

- 競歩競技において、許可されたチーム関係者ではあるが、飲食物供給所のテーブルラインよりもやや前に出て渡そうとしている関係者がいたので注意を促した。  
(TR54.10.5)
- 折り返し地点が複数あるマラソン競技会において、先頭集団と後続がすれ違う際に、後ろに行けば行くほど、手持ちスマートフォンで先頭を撮影、中央分離帯や規制コーンを超えて撮影する者もあり、急な停止や振り返り等で周囲や後続ランナーの邪魔になっているように見え、中には転倒する者もいた。

### 3 JTOs研修会

JTOsとしてのスキルアップを目指して、1月31日(土)にオンラインにて研修会を行いました。2026年度競技修改正案、広告展示物規程、スタートに関する研修を行った後、分科会を実施しました。そこでは今年度JTO活動の情報の共有などを中心に、他のJTOと共有すべき事項や色々な規則解釈について、活発な意見交換が行われました。

## 第 109 回日本陸上競技選手権大会 報告

公益財団法人 東京陸上競技協会

### 1. 大会についての概要

- 競技日程 2025 年 7 月 4 日（金）～6 日（日）  
会場 国立競技場  
世界選手権代表選考会として実施  
最終日にサブイベントとして小学生 50m、デフ・パラ・マスターズの種目を実施した。
- 世界選手権標準記録突破  
男子 3 種目（200m, 110mH, やり投）5 名
- 大会記録  
男子 1500m, やり投 女子 800m, 5000m, ハンマー投
- 大会タイ記録  
女子 100mH
- 日本記録（U20, U18 日本記録）  
女子 800m 久保 凜（東大阪大敬愛高）1'59"52
- U18 日本タイ記録  
男子 100m 清水 空跳（星稜高）10"19

### 2. 競技運営等について

- ・ 世界陸上のリハーサルも兼ねていたため、全国から主任クラス・オリンピックを経験していないNARに委嘱し、その方々に加え東京陸協の審判員という編成で行った。リハーサルを兼ねながら東京陸協の運営方法で進めていくという変則的な運営となった。それに伴い人員の不足などを感じる場面があった。より多くの補助員の動員も望まれたがJTOの指導の下運営を進めることができた。
- ・ 事前の準備等については、審判要領を作成し周知した。競技日程や投てき用具リストの作成については、日本陸連事務局・東京陸協と連携を図った。
- ・ サブトラックがないため、午前中～競技開始までメインスタジアムを開放し、暑熱対策で室内練習場に空調を効かせ開放した。時間によってレイアウトを変え各種目のウォーミングアップに対応した。ハードルのインターバルの位置出しを行った。
- ・ 暑熱対策のため、フィールド時間の大幅な変更があった。前日に判断し決定していたが、それに伴う競技役員への配慮等も課題となった。
- ・ 3000mSCについて、内水濠のため1周目を400mトラックで走り、通過後内水濠への縁石への入れ替え、3・4台目の移動式障害物の設置を行った。高さ変更の時には確実に固定するように指示をし、徹底した。水濠に向かう直線と曲走路の境にコーンを置いた。水濠の水が減っていくので、競技中水を注水した。ラップ旗は監

察が担当した。

- ・ 投てき用具リストに複数ないもの（日本陸上競技連盟検定品に限る）は、持ち込みを認めた。男子やり 9、女子やり 11、男子円盤 6、女子円盤 1、男子ハンマー 3 の持ち込みがあった。
- ・ 「クリーン FOP」を目指して、FOP のケーブルを全天候の端材等を被せることを行った。競技役員の配置にも気を配ったが、フィニッシュエリアでの報道・メディアの動きが気になる場面があり、今後の検討事項になった。
- ・ 女子 100mH 決勝において、写真判定のミスにより着順を取り違えて大型スクリーンに表示される事態があり関係の方にはご迷惑をおかけした。再発防止を徹底したい。

### 3. 抗議・上訴について

- ・ 抗議は 4 件うち 1 件上訴

〔上訴案件〕

男子 400m 決勝において、競技規則 T R 17.2.3 により大会当日失格と裁定された選手の失格が、大会終了後 Jury による再審議の結果、取り消され競技結果の訂正が行われた。

《審判長及び Jury による再審議の理由、経緯については、日本陸上競技連盟公式サイト【ニュース 2025.08.25 (月)】「第 109 回日本選手権大会・男子 4 0 0 m 決勝の競技結果の訂正について」を参照願います。》

令和8年1月6日

第109回日本陸上競技選手権大会・混成競技  
第41回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技  
第109回日本陸上競技選手権大会・リレー競技  
U16 4×100mリレー大会 報告

(一財)岐阜陸上競技協会

1 大会の狙い

- ア) トップアスリートの高い競技力を県民に紹介
- イ) 日本選手権混成競技(キング・クイーン誕生)にふさわしい大会の雰囲気づくり
- ウ) トップアスリートの競技力と観衆(応援)との一体感づくり
- エ) トップアスリートと県内ジュニア選手との交流・交歓
- オ) 競技運営力 審判技量の向上を図る

2 大会の方針

ア) テーマ:「アスリートのアイデアを取り入れた新たな競技会・イベント、アスリート中心の大会を目指して」

イ) テーマの具現化のために

視点1「アスリートコラボレーター」の参加…昨年に引き続き、中村明彦氏(所属スズキ)を「アスリートコラボレーター」として迎え、さらなる競技運営・広報活動の充実に協力を依頼する

視点2 ルールにのっとりながらできうる限り、選手のパフォーマンス発揮のための意見、アイデアを競技運営に取り入れ大会の雰囲気作りに努める

視点3 陸上および混成競技普及のために地元小・中学生を対象とした事業を実施する

視点4 昨年度実施した実績をもとにより充実した大会となるよう計画し取り組む

ウ) 事業

◎アスリート対策

- ・高温が予想される気候と多数の競技者(リレー競技)対策としてサンサンデッキ下駐車場を選手控え場所として確保した(岐阜市消防局の協力)
- ・各種目優勝選手の表彰並びにインタビューの実施
- ・2種目目以降総合成績1位選手専用のビブス着用
- ・混成競技選手控室の整備(電子レンジ・湯沸かしポットの設置など)
- ・800m 1500mトラック周囲(限定区域内)での応援を実施
- ・選手の人権擁護(盗撮防止・所轄警察官による巡回指導の実施)

◎陸上競技、混成競技の普及

- ・小学校、中学校とトップアスリート交流事業  
(岐阜市内・近郊の小中各2校への訪問指導)
- ※トップアスリート 中村明彦氏(スズキ)、大学生(アシスタント)
- ・キッズイベント、周辺の利用計画で、興味付けや交流を図る

- ・スタジアムツアーの実施 ※対象：小学生  
(競技開始直前の練習場面の見学と競技運営のバックヤード(情報室、写真判定室)など競技役員の活動場所の見学)
- ・ボランティア活動 ※対象 小学生・中学生(選手へのドリンクサービス他)

◎大会広報活動

- ・岐阜市内小学校・中学校(69校)に大会ポスター、大会案内リーフレットの配布
- ・新聞社2社(取材)

3 実施事業内容の報告

ア) 日本選手権大会・混成競技 ・U20 混成競技大会 参加選手数

- ・男子十種 24名 女子七種 24名
- ・U20 男子十種 15名 U20 女子七種 15名

イ) 日本選手権大会・リレー競技 参加チーム数

- ・男子 4×100m・4×400mリレー 各27チーム
- ・女子 4×100m・4×400mリレー 各27チーム

ウ) 日本選手権大会・リレー競技・U16 4×100mリレー 参加チーム数

- ・男子リレー 40チーム ・女子リレー 37チーム

エ) 普及事業参加者数

- ・小学生交流教室 6月11日(水) 三里小学校、 6月20日(金) 本田小学校
- ・中学生交流事業 6月18日(水) 午前：東長良中学校、 午後：境川中学校
- ・スタジアムツアー(コンバインド体感会)・ボランティア活動(ドリンクサービス)  
暑熱対策のために競技日程が急遽変更になりやむなく中止した
- ・キッズイベント：芝生広場に設置  
天候に恵まれ多くを子供たちがチャレンジしていた。

オ) その他

- ・キッチンカー6台配置(対象：大会関係者・観衆) 暑さ対策の一環としても活用。  
好評であった

4 総 評

ア) 全体

- ① 今大会は選手権大会のリレー競技とU16 4×100mリレーが加わったため、参加人数が大幅に増えたことと時期的に暑さを考慮した控え場所の確保をすることが課題であったが、岐阜市消防局の寛大なる判断のもと、サンサンデッキ下駐車場を選手控え場所として確保することができた。
- ② 大会期間中の暑さが、暑さ指数WBGTが31℃を超える可能性が高いと判断され、事前に競技日程の変更が行われ11:30~14:00の間で競技を中断することが決定された、しかし直前になり、対応が不十分ではないかと中断時間を11:30~15:00に延長することが決定された、現状の競技開催条件では暑熱対策を実施することで競技者をはじめ競

技役員・競技補助員に多大な負担を強いることになってしまっている。今までの経験から何とか無事に終わることができたが、次年度以降は、午前午後セッションの競技会の運営になれることや、効率的な競技役員・競技補助員の配置・役割分担を計画する必要がある。もちろん、競技会開催条件の実情に応じた暑さ対策を計画することは必然である。

③競技会内容としては2日間にわたり変更された競技時間に沿って大きく影響されることなく進行できた。会場来訪者も2日間とも多くの方々が来場され、盛り上がった大会となった。特に、アスリートコラボレーターの存在が選手、観衆・応援者、競技役員の連帯感を高め円滑な展開に効果大であった。

④事前事業はほぼ計画通りに達成できた。

## イ) アスリート対策

①アスリート中心をキーワードに選手の競技環境の整備に努めた。

昨年と同様に選手控室を雨天練習所横の更衣室を利用。控室に近接した所にトレーナールームの配置。電子レンジ・湯沸かしポットなど選手の希望で設置した。

②9種目表彰を実施：各種目のトップ得点選手に表彰とインタビューを実施。選手全体のモチベーションの維持・向上を図った。

③要望に応じて、大会2日間にわたり第一種目、走高跳、棒高跳、ハードル、ダッシュなどのwarming-up場所を確保するために、競技中であってもメイン競技場のトラックを時間で利用できるようにした。

## ウ) 陸上競技 混成競技の普及

①小学校・中学校との交流陸上教室に参加した児童・生徒は、中村アスリートコラボレーターの巧みなトレーニング指導を受け、競技仕様の用器具に触るなどして、楽しい体験することができ好評であった。

②チャレンジキッズのコーナーは、

○ハードル体験・測定

○走高跳チャレンジ

○20m走測定

○投測定

○ターゲットスロー

の場所を設置して多くの参加者があり盛況であった。陸上競技の普及活動として十分な成果であった。

③小中学生を対象とした競技会におけるボランティア活動、スタジアムツアーは競技日程の変更により中止した。

## エ) その他

①混成競技の選手たちにとって、リレー競技のにぎやかな雰囲気はどのように影響するか不安もあったが、選手たちからは競技場の雰囲気に活気が感じられ競技に意欲が沸いたとのことであった。競技場の雰囲気つくりのために、小・中学年齢期の子供たちを巻き込んだ競技会つくりの実践が重要である。

②混成競技の醍醐味は各種目に全力を出し切ることですが、高さを競う種目（走り高跳び、棒高跳び）は失敗しない限り競技を続けることができます。個人差も大きく時間を費やす種目となっています。競技運営上大きな課題です。競技役員からも敬遠される要素となっています。

そこで提案ですが、高さへの挑戦する種目は、試技数を一定化する、または失敗試技数の上限を決め数に達したら試技をやめるなどのルールに改修して、全体の競技時間の短縮、円滑化を図ることが必要ではないかと思います。109回大会では女子の走り高跳びで粘って自己新を出しましたが、次の種目で熱中症になってしまい競技を中断するという事態も出ていました。個人の暑熱対策が不十分といえればそれまでですが、暑いコンディションの中ではチャレンジし続ける選手も、次の種目の開始を待つ選手にとっても無制限に競技が続けられることはよい影響を出さないのではないのでしょうか。WAのルールといえればそれまでですが。

最後に、昨年に引き続き日本陸上競技選手権大会・混成競技、リレー競技を開催しましたが、暑熱対応で急遽の競技時間変更など今まで経験のなかった対応をすることになり緊張感がある大会となりました、運営にあたり日本陸上競技連盟スタッフ、アスリートコーラボレーター・中村明彦氏など多くの皆様にご協力ご支援をいただきなんとか大過なく競技運営にあたることができました。心より感謝申し上げます報告とさせていただきます。

令和 7 年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会  
秩父宮賜杯 第 77 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 報告書

一般財団法人 広島陸上競技協会

- 1 期 日 2025 年 7 月 25 日（金）～29 日（火）
- 2 場 所 広島広域公園陸上競技場（広島市安佐南区）
- 3 実施種目 【男子】 21 種目【女子】 20 種目
- 4 報告事項

(1) 競技運営上の発生事象

① リレーにおける事象

- ・内側ラインを 2 歩以上踏み、失格になる事例が複数あった。  
抗議についてはビデオ確認をもらった。
- ・オーバーゾーンについても監察員からの報告後、ビデオで確認し失格とした。

② 砂場の痕跡への質問もビデオにより確認し対応した。

(2) 大会運営上の対処

① 競技日程の見直し

前年度より競技日程の見直し（長距離種目の時間変更や、400m の分散化等）を進め、令和 7 年度競技日程を準備してきた。しかしながら「令和 7 年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会暑熱対策チェックリスト」に基づき、日本陸上競技連盟、全国高等学校体育連盟陸上競技専門部、広島陸上競技協会等と連携を図り、令和 7 年 7 月 22 日（火）に競技日程および競技方法の変更を発表し、7 月 24 日（木）の監督会議での意見・要望も取り入れ、最終競技日程を確定した。

② 役員・医療体制等

【役員体制】・競技役員：698 名（C 級審判 116 名含む）

競技役員の暑熱対策、拘束時間の観点から交代制を導入した。

競技日程の変更などの理由により、時間的に人員不足や道具・物品の不足等が実際の現場では反省としてあがった。

・審判長複数制

日本陸連のアドバイス・助言により複数審判長制の配置とした。

審判長 9 名（スタート 2 名、トラック 2 名、招集所 2 名、跳躍、投てき、混成各 1 名）

日本陸連 JTO の増員も大いに助かった。

・教職員の公務参加の決定が早く、審判編成も早めに対応することができた。また、中国・四国地区からの応援参加により、地域における審判技能の向上に対して効果があった。

【補助員体制】・競技補助員：477 名

高校生の大会を支えてくれた。C 級審判員との協力体制を築いた。

【公式練習日の医療体制】

（当初計画）・トレーナー：5 名

（実際の体制）医師 2 名、看護師 2 名、トレーナー 8 名

【大会期間中の医療体制】

（当初計画）・医師：2 名 ・救急救命士：2 名 ・看護師：2 名 ・トレーナー：10 名

（実際の体制）・医師：3～4 名 ・救急救命士：2～3 名 ・看護師：4～7 名

・トレーナー：12～20 名

多くのスタッフの協力により、メイン競技場のみならず練習会場まで医療体制が行き届いた。

【暑熱対策の具体的取組】

・医務室に男女各 1 台、計 2 台のアイスバスを設置（リース）

当初は稼働率が低かったが、日本陸連の助言を受け、医療チームと連携することで稼働率が向上した。

・ゴール付近に簡易アイスバス（ビニールプール）2 台を設置

使用状況を踏まえミックスゾーン横へ移設した結果、女子選手の利用も増加した。

## <2025 年度全国競技運営責任者会議資料>

- ・氷水入りバケツを用いた散水対応を実施  
本人の許可を得て頭部への散水も行い、より高い冷却効果が得られた。
- ・大塚製薬によるブース設置  
飲料水および氷の配付を行った。
- ・その際、氷の確保を重点的に行った。製氷会社と連携し、板氷・砕氷を十分に確保した。  
また、冷凍庫を5台確保し、氷をタイムリーに補給できる体制を整えた。

### 【選手控場所の充実】

- ・競技場サイドスタンド・バックスタンド下→日陰が多く、風通しも良好であった。
- ・第1・第2球技場諸室および廊下開放→空調が効いており快適であった。
- ・第1球技場芝生スタンド→ウォーミングアップエリアに近く、効率的であった。
- ・常設テントエリア  
→第2球技場、補助競技場、第1球技場間に多数設置し、ミスト扇風機や冷風機を配置した。

## ③ C級審判員の活動報告

広島大会においては、高校生によるC級審判員制度が発足してから、その活用を目指し、また広島インターハイでの活躍を期待し、養成を続けてきた。本大会では、C級審判員が各現場において積極的かつ的確な役割を果たし、その活躍が大会運営の質の向上に大きく寄与した。

### 【C級審判員の主な配置および担当業務】

- ・トラック競技（出発、周回記録）
  - ・フィールド競技（試技計測補助、記録確認）
  - ・競技全般（風力計測、混成競技補助）
  - ・競技区域外（記録情報処理、大型映像、TIC、競技者係、ウォームアップ場、会場管理）
- などの業務に配置され、上位資格審判員の指示のもと、主体的に業務を遂行した。

### 【具体的な活動内容】

フィールド競技では計測補助や記録確認を丁寧に行い、測定誤差や記録トラブルの防止に努めた。また、器具点検や競技エリアの安全確認を自主的に行う姿勢が見られ、安全な競技環境の確保に寄与した。

指示待ちに終始することなく、状況を判断して上位審判員に報告・提案を行うなど、C級審判員として期待される以上の主体的な行動が多く確認された。加えて、他の審判員や大会スタッフとの円滑な連携により、チームとしての運営力向上に貢献した。

今後の全国大会運営においても大いに期待される。

## ④ まとめ（反省と課題）

本年度の大会において、熱中症（疑い）による救護利用者は19名（選手12名、監督1名、役員1名、補助員1名、観客等4名）であり、そのうち3名が救急搬送となった「熱中症患者数ゼロ」を目標に準備を進めてきただけに、手放して評価できる結果ではない。一方で、重篤な事案が発生しなかったことは不幸中の幸いであった。

大会期間中においても、日本陸連から散水の重要性について助言を受け、全国高体連関係者と連携して実施した。その結果、競技日程や競技方法の変更、練習会場の閉鎖といった判断を適切に行うことができた。

また、日本選手権や日本選手権混成大会等における取組事例や反省点についても情報提供を受け、大会準備に活かすことができた。競技日程や方法変更時には、広島陸上競技協会と一体となり、全国委員長会議および監督会議に臨むことができた。

さらに、日本陸連科学委員会を中心とした関係者から、科学的根拠に基づく助言と継続的な支援を受け、大会前から大会期間中に至るまで、自信をもって対応することができた。

一方で、暑熱対策チェックリストに明記していたとはいえ、大会直前に競技日程や方法を変更したことにより、選手・監督をはじめ多くの関係者に混乱を与えたが「命を守る」「安心・安全な大会運営」を最優先に判断したことについて理解を求めたい。

2026 年 1 月 23 日

(一社) 沖縄陸上競技協会 中体連担当 阿利 義一

(実行委員会 陸上競技専門委員長)

## 1, 大会名

第 52 回全日本中学校陸上競技選手権大会

## 2, 主な内容

### (1) 大会前の準備について

- 中央連絡会議では、直接顔を合わせて会議を行うことで、確認事項や疑問点を確認でき、その後の連携を円滑に行うことに繋がったので良かった。また、行政や沖縄陸上競技協会がオンラインで参加できる形態であったのが良かった。
- 予算計画の中で会場費（テント設営、熱中症対策関係機材、競技運営機材、その他）物価高騰の影響から費用が心配されたが、各業者のご理解のもと当初予算より低価格で協力していただいた。
- 当初、競技運営機材として LED 電光掲示板を借用し使用する予定をしていたが、輸送費や物価高騰等による大幅な予算増となったため使用せず競技を運営した。そのために今年度は協会主催大会を含め競技場既存の機材でシミュレーション、近隣競技場や市町村より借用し大会運営を行った。
- 当初より懸念されていた駐車場の確保と宿泊施設から競技場までの移動手段に問題があった。そのためシャトルバスを最大限活用できるよう旅行者と綿密な打ち合わせを行い対応した。直前の競技日程の変更に伴い最終競技が遅くなったことで競技終了後、シャトルバスが利用できない問題が発生した。そのため最終バス後に予備のバスを配置してもらった。
- 当初計画の競技日程（案）のホームページ掲載後、熱中症対策のため競技日程の変更が必要となり競技日程変更（案）をアップした。変更に伴い種目の日にちの移動は行わなかったが、チームや関係者から航空便に関する苦情が多くあった。
- 日本陸連のエントリーシステムを使用し資格審査、番組編成を行った。スムーズな資格審査、番組編成を行うことができた半面、専門部と情報処理担当との確認不足や認識の違いで細かいミスがあり修正で大幅な時間を要した。
- 大会前日に主任会議を行い、日本陸連、JOT も参加していただき多くの内容を確認することができた。

### (2) 大会期間中について（問題点とその解決方法等、今度の課題）

#### 【日程等について】

- 福井全中で前日練習の A D 規制をなくし役員の負担軽減ができないか。が反省としてあげられていたため、前日練習の A D 規制はメイン競技場正面出入口のみとし、それ以外の A D 規制は実施しなかった。
- 1500m（予選）、3000m（予選）で各組人数を増やすことで組数を減らし、競技

日程の短縮を行った。スタート時の接触、転倒等心配されたが人数を増やしたことによるトラブルはなかったと思われる。

- 熱帯低気圧襲来により 1500mの予選、決勝が最終日（同日）となったことによる抗議があった。全種目実施、全選手が出場するための判断であることを説明し理解していただいた。
- 開閉会式や表彰は昨年同様、競技場内で行わない。対応として昨年度より県内中学生大会の表彰は全中方式で行ってきたため混乱はなくスムーズであった。
- 暑熱対策の為、日中の競技会運営を避け、朝夕の2部に分け競技会を行ったが、通常の大会より審判員の拘束時間が長くなり、疲労の蓄積が気になった。

#### 【競技運営について】

- 熱帯低気圧襲来による3日目・4日目の急な競技日程変更により最新の競技日程を確認しなかった4選手が失格となった。
- 熱中症対策として沖縄県消防職員競技会ユース部（救急救命士21名）のボランティアで会場の巡回による見守り・注意喚気をしていただき救護体制の強化と安心・安全な運営ができた。
- 熱中症対策の取り組みとして科学委員会の方と連携しWBGTの状況や予測を含め対応した。救急車両の要請については最終日の男子1500m予選後の熱中症1名が搬送されたが、その後、回復した。
- 女子800m予選1組出発前のスタート練習を行わなかったことによる監督からの抗議があった。出発係が選手入場後、スタート練習を促さなかったため、8名とも練習を行わないままスタートした。上訴にはならなかったが2組目からは練習を促していることなど、経緯を説明した。

#### 【その他】

- 無断動画配信が2件あったが、会場アナウンスで呼びかけたところ、すぐに解除された。
- 宿泊ホテルの食事が少ない等のクレームがあったが、旅行者からホテルに直接連絡を取り対応して頂いた。

### 3. 終わりに

本県にとって過去、国体、二度のインターハイが行われているが、全国規模の大会は過去7年間実施されていない。審判員の減少と高齢化等の不安を抱えながらの運営となりましたが、様々な方のご協力をいただくことで、無事終えることができました。開催にあたり尽力いただいた全ての方に感謝申し上げます。離島である沖縄においては、全国規模のハイレベルな大会を直接目にする機会は貴重であり、陸上競技を志す中学生にとって大きな刺激と学びの場になったことと思います。

大会費用、熱中症を含む安全対策、働き方、部活動地域展開など、課題は山積してありますが令和9年度から実施される全中大会の規模縮小をめざした運営と次年度山口県の開催参考の一助になればと思います。

JOCジュニアオリンピックカップ  
第 19 回 U18/第 56 回 U16 陸上競技大会 報告書

(一財) 三重陸上競技協会  
競技委員長 藤原康喬

1.期 日 2025 年 10 月 17 日(金)~10 月 19 日(日)

2.場 所 三重交通 G スポーツの杜伊勢陸上競技場

3.種 目

U16 男子(5 種目) 100m、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投

U16 女子(5 種目) 100m、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投

U16 男子都道府県代表枠(6 種目) 150m、1000m、110mH、三段跳、円盤投、ジャベリックスロー

U16 女子都道府県代表枠(6 種目) 150m、1000m、100mH、三段跳、円盤投、ジャベリックスロー

U18 男子(15 種目) 100m、300m、800m、3000m、110mH、300mH、3000mW、走高跳、棒高跳  
走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

U18 女子(15 種目) 100m、300m、800m、1500m、100mH、3000mW、走高跳、棒高跳、走幅跳  
三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

4.大会概要

今年度は、三重県3ヶ年開催の2年目にあたる年であり、開催に向けて日本陸連や関係機関と連絡を取りながら、大会開催までの準備を進めた。今大会では、U18 男子5種目・女子4種目、U16 男子5種目、女子2種目の大会新・大会タイ記録が記録されました。U18 男子300mHでは、日本記録が誕生いたしました。

5.競技運営等について

○トラック

- ① フライングによる失格は、U18 男子1件、U16 男子1件の合計2件であった。
- ② U18 女子100mH 予選5組で5レーンの選手が号砲前に動き止まり切れずスターティングブロックから離れる事象があった。目視によりあきらかに不正スタートと判断できた。SIS の波形を確認したところ、5レーンの選手は動いているが不正スタートと判定されるまで大きな波形は出ていなかったが、7レーンの選手が5レーンの選手につられたかたちで、リアクションタイムが0.051秒と表示されていた。スタートチームでの協議の結果、Aゾーンで行われた円盤投の音に5レーンの選手が反応したと判断し、グリーンカードを提示し、スタートやり直しとなった。
- ③ U18 女子100mB 決勝で9レーンの選手が号砲前に動いた。スタートチームで競技し、スタート前方のピットで走幅跳の練習をしていた選手の影響でスタートを切ったと判断し、グリーンカードを提示し、スタートのやり直しとなった。

- ④ U16 男子 110mH6 組で 5 レーンの選手がハードルを倒してしまった。ビデオで確認したところ、ハードルを越えていなかったため、失格と判定した。その際、隣のハードルが下がっていることが確認できたが、レースに影響なかったと判断し、5 レーンの選手の失格のみと判定した。

#### ○フィールド

- ① U16 女子棒高跳は、風が競技開始時点で 4m 吹いていた。ポールを押し戻すが風でバーの方向に戻り、バーを倒す事例が数回あり、監督やコーチからポールがバーを倒して有効試技と無効試技があるのはなぜかと抗議が寄せられたが、「ポールが風の影響で押し戻されているかどうかを主審が判定している」との回答をした。上訴はなし。
- ② U18 女子棒高跳は、棒高跳開始前に風が逆になるとの予報を加味して、ピットは変更したため、競技開始が遅れた。予定より約 2 時間遅れて終了した。
- ③ U16 男子棒高跳は、雨天での競技会実施となった。開始前、コーチから「雨でぬれるので、ポールのテーピングをコーチエリアで実施したい」と申し出があったが、競技時間や公平性・平等性を配慮し選手自身に行ってもらったこととした。
- ④ 今大会の投てき競技は、昨年と同様にストップコーンを使用せず、すべて主審の旗による試技開始の合図を行った。ケージ種目はスピーディに進行するため、次投てき者をサークル脇まで促す形で開始合図を行い、タイトなスケジュールでも運営できた。
- ⑤ U18 男子円盤投の競技開始 20 分経過した試技 2 回目途中で、LED 記録表示盤に送れず表示できなくなった。光波距離計測器での計測には問題なかったため、競技は進行したその際トップ 8 表示盤も記録が更新されないため一時非表示となったが、トップ 8 表示盤はすぐ復旧した。しかし、LED 記録表示盤はなかなか復旧しなかったため、コーチや観客にわかるよう手動式距離表示盤を用意し対応した。イレギュラーな事象にも速やかに対応できた。

#### 7.終わりに

昨年度の大会初日、投擲種目で競技進行が遅れた事では、選手・指導者をはじめ皆様にご迷惑をおかけ致しましたが、今年度は競技日程と時間の反省を活かして改善できたのではないかと考えております。ただ、U18 女子棒高跳では風の関係でピット変更により競技終了時間が予定よりも大幅に遅れました。仕方がない部分もありますが、このようなケースでも限りなく予定時間に近づけられるように運営して参りたいと思います。その他の部分では、時間通り進めた中で、大きなトラブルなく各区部署が臨機応変に対応しながら、スムーズな競技運営できたのではないかと考えております。

来年度は、3 年目の集大成の競技運営となります。日本陸連や関係機関としっかりと連絡を取り合いながら、これまでの反省をしっかりと活かして、良い競技運営をして参りたいと思います。

## 第 41 回 U20日本陸上競技選手権大会 報告書

(一財) 静岡陸上競技協会  
競技委員長 堀之内 大

1. 期 日 2025 年 10 月 18 日(土)～10 月 19 日(日)
2. 場 所 草薙総合運動場陸上競技場
3. 種 目 男子・女子(各18種目)
  - ・ 100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、5000m
  - ・ 110mH、400mH、3000mSC
  - ・ 走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳
  - ・ 砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

### 4. 大会概要

U20単独開催の初年度にあたり、開催に向けて日本陸連や関係機関と連絡を取りながら大会開催までの準備を進めた。大会では、男子ハンマー投で大会記録・U20日本記録、女子3000mSCで大会記録(2名)・U18日本記録が更新された。

大会2日目は、草薙競技場特有のバックストレート使用の200mを実施でき、本来向かい風の中での競技を追い風で実施でき選手にとって良い条件となった。来年度も草薙での実施が決まっている。

### 5. 競技運営等について

#### ○トラック

- ・ フライングによる失格は、男子110mHの1件であった。
- ・ 練習時の混雑を避け、選手によりよい準備をしてもらうためにトラックの練習時間やハードルのレーン設定等細かな計画を立てた。限られた時間と設備の中でさらなる改善を行い、練習環境を整えていきたい。
- ・ 2日目の空き時間にサブイベントを実施した。中高生の100m30組(240人)を無料で募った。希望者が多く最終的に抽選で参加者を決定した。選手はU20と同じ場所で同じ雰囲気味わうという貴重な体験ができて大変喜んでいた。

#### ○フィールド

- ・ 選手紹介の時間がトラック競技と重なり、スタート時間がずれることがあった。途中から改善された。
- ・ 男子棒高跳 残り1名(優勝決定)で、大会記録挑戦であり、試技時間5分+1分の助言をJTOよりいただいた。
- ・ 女子三段跳 風が2Rあたりから逆風となり、トップ8確定からピット変更。ピット変更と練習跳躍などスムーズに実施できた。

## ○その他

- ・毎年G P 静岡国際を運営しているが、毎年のルール変更や最新の競技会運営に理解不足でJ T Oより多くの助言をいただいた。
- ・日本記録誕生の際の手続きや整えるべき書面についても慣れていない処理で手間取ってしまった。
- ・ゼロコントロールテスト実施後に、結果用紙にJ T Oがサインをする必要があるのに、すみやかに用紙の印刷出力をすることができなかった。
- ・これまでの競技会ではJTOが立ち会ったり、サインをする機会はなかったため、そのような段取りができていない。今後はしっかり準備する。
- ・待機場所（ベンチ）については、参加者数にたいしてスペースが広がったため、混乱はなかった。ただし、雨天時には対策が必要であると思われる。
- ・駐車場が少ないことが懸案であったが、少し離れた駐車場を借り、参加者にも周知され協力が得られたことで問題なく終了できた。

## 6. 抗議（質問）等について

- ・男子110mHで、不正スタートにより失格となったことに対して抗議があった。

### 【内容】

「スターター及びリコーラーからのピストルでリコールがなかった状況（目視では不正スタートと判断しなかった）にもかかわらず、SISによるリコールだけでなぜ不正スタートになるのか。目視の判断はどのように扱われるのか。その他の競技会ではどうされているのか。」という抗議であった。

『ビデオが設置されず、ビデオ監察審判長も配置されていない競技会では、SISでの判定が基準になり、その波形を見て判定した』と説明。上訴はなし。

## 7. 終わりに

草薙で久しぶりの全国規模の大会を開催することで不安もありましたが、日本陸連と連携を取りながら無事実施することができました。本当にありがとうございました。

終了後は、審判員が多くの学びと貴重な経験をすることができ、達成感のある大会となりました。大きなトラブルもなく各部署で臨機応変に対応しながら、競技運営ができたのではないかと考えています。来年度は、2年目の競技運営となります。日本陸連や関係機関としっかりと連絡を取り合いながら、1年目の反省をしっかりと活かして、さらに良い競技会にしていきたいと思えます。

# わた SHIGA 輝く国スポ 第 79 回国民スポーツ大会 報告書

(一財) 滋賀陸上競技協会  
競技委員長 藤田 武志

## 1. 開催期日

令和 7 年 10 月 3 日 (金) ~ 7 日 (火)

## 2. 会 場

平和堂 HATO スタジアム (彦根総合スポーツ公園陸上競技場)

## 3. 実施種目

男子 29 種目・女子 26 種目・男女混合 1 種目 計 56 種目

## 4. 新記録

U20 日本新記録: 4

U18 日本新記録: 6

大会新記録: 29

大会タイ記録: 5

日本高校新記録: 1

(詳細: <https://www.jaaf.or.jp/files/competition/document/1928-7.pdf>)

## 5. 抗議・上訴事例等

### (1) 少年男子 B 100m 予選 3 組

スタート時、隣のレーンの選手がバランスを崩して本選手のレーンに入ってきたため、レーン侵害を受けたのではないかと抗議があった。

ビデオ映像を確認した結果、レーン侵害には該当しないと判断し、抗議を棄却した。

### (2) 少年女子 A 100m 準決勝 2 組

スタート時、「セット」の号令後に静止する前に号砲が鳴り、ピストル音も不明瞭であったため、スタート音と認識できず出遅れたとの申し出があった。

該当選手の両隣の選手はいずれも通常どおりスタートしていたことから、特に問題はないと判断し、抗議を棄却した。

### (3) 成年少年共通女子 4×100m リレー準決勝 1 組

2 着チームの第 1 走者がインレーンを踏み越えて走行したとして、順位の繰り上げを求める抗議があった。

抗議者から提出されたビデオ映像をもとに再確認を行った結果、当該チームによるレーン侵害が認められたため、審判長が失格の裁定を行った。

その後、決勝のスタートリスト発表後に当該チームから失格を不服とする上訴があったが、 Jury は審判長の裁定を支持した。

#### (4) 成年少年男女混合 4×400m リレー予選1組

練習会場でウォーミングアップ中、当該チームの選手が他の選手と衝突し、走行不能となった。チームから救済の申し出があったが、ルール (TR24.12) に基づき「予選を走らない限り救済はできない」と回答した。

当該チームは「交代できる選手が時間的にいないこと」および「衝突が運営側の不手際によるものではないか」として再度救済を求めた。これに対し、ルール上選手変更は認められる旨を伝え、変更手続きを行うよう求めるとともに、衝突の原因について関係部署への聴き取り調査を実施した。

一連のやり取りの中で招集完了時刻を過ぎたため、当初は欠場扱いとしたが、当該チームより「完了時刻を過ぎたのは運営側対応の遅れによるもの」との抗議があった。

聴き取り調査の結果、衝突については双方に明確な過失はないと判断した。これを踏まえ、総務で協議した結果、予選欠場は当該チームの責任によるものではないと認め、特例として翌10月7日9時30分より、予選第5組として当該チーム単独でのレースを設定した。レーンは予選第1組と同一とした。

なお、決勝進出については、タイムによる決勝進出の第4位記録 (3分22秒78) 以内であれば、決勝を9チームで実施することとし、その場合、9番目のチームの対抗得点は0点とした。この決定については、各チームに対しオープンチャットで「当該チームの申し出により、総務の決定で特別予選を実施する」と通知するとともに、報道用サイトにも同内容を掲載した。

#### (5) 成年少年男女混合 4×400m リレー予選3組

第3走者がバトンを落とす事例が発生し、当該チームより「他チームとの接触が原因であるため救済してほしい」との抗議があった。審判長がビデオ映像を確認した結果、レースインシデントと判断し、裁定の変更は行わなかった。また、当該チームより「第3走者のバトン待機順序の呼び出しに誤りがあったのではないか」との抗議があった。関係する審判員への聴き取りおよびビデオ映像を確認した結果、呼び出しに誤りはなかったことが確認され、その旨を説明した。その後、「他チームが呼び出し順と異なる順番で待機していたため不利益を被った」と主訴を変更して上訴がなされたが、ジュリーは、ルールに照らすと当該チームも失格となり得る事案であるとして、審判長の裁定を支持した。

#### (6) 成年少年男女混合 4×400m リレー予選4組

第4走者がバトンを落とす事例が発生し、当該チームより以下の抗議があった。

A：他チームとの接触が原因でバトンを落とした。

B：バトンを拾う際、失速を余儀なくされ妨害を受けた。

C：バトンを拾う際、進路変更を余儀なくされ妨害を受けた。

いずれの抗議についても審判長は裁定の変更を行わなかった。全てのチームから上訴がなされたが、ジュリーは全ての上訴において審判長の裁定を支持した。

### 6. 競技運営の工夫

#### (1) 競技日程

各種目の紹介をどこに入れるか。フィールド競技の終わりの時間をどのタイミングにするかにこだわり、全ての種目の優勝者決定の瞬間に観客の注目が届くように設定した。また、地元滋賀県選手が出場する競技を、学校観戦が来やすい時間帯に設定し、会場が盛り上がるようにした。

## (2) 成年女子走高跳

参加人数が 30 人と想定より多いエントリーがあり、国スポでは過去例があまりないと思われる、2ピットにわけての実施とした。日本陸連のハンドブック P381 記載の通り、試技順序と試技時間を設定し、競技結果も 2ピットに分けたものと、合体したものを、2つ同時に競技運営システムに入力した。

## (3) 世界選手権東京大会から

大きな盛り上がりがあった大会からのレガシーとして、フィールド競技の停止告知機をコーンから彦根市のマスコットにしたり、会場が一体となるアナウンスの工夫を行ったりした。

## (4) マイルリレーの呼び出し方法（裁定の検証性確保）

競技場設備の有線インカムを使用し、その音声出力をスターター用トランペットメガホンに入力することで、200m 地点に配置された審判員による通過順の読み上げを、選手に直接伝えるとともに、ビデオ監察映像にも音声として記録されるようにした。

〔構成〕

ベルトパックインカム → 埋設配線 → ベルトパックインカム → イヤホン出力 → 2.5mm モノラル-3.5mm モノラルケーブル → スターター用トランペットメガホン

## 7. 終わりに

会場となった平和堂 HATO スタジアムは 2023 年に竣工した競技場であり、国スポ開催が決定する以前は、情報処理システムや大型映像装置、インカム等の通信機器も十分に整備されておらず、全国規模大会の運営体制は確立されていない状況であった。そのため、滋賀陸協が全国大会を運営するにあたり、体制づくりそのものから取り組む必要があった。

2019 年に開催された本会議における報告資料では、福井県が国体開催に至るまでの経過が示されており、その内容が滋賀県の状況と極めて類似していたことから、まずは全国大会の現場に足を運び、実際の競技運営を学ぶことを重視した。準備段階から多大なるご助言・ご協力をいただいた日本陸連競技運営委員会の皆様、ならびに各都道府県陸協の皆様へ深く感謝いたします。

「滋賀国スポ（第 79 回国民スポーツ大会）」は、昭和 56 年（1981 年）の「びわこ国体」以来、実に 44 年ぶりの開催となった。長期間にわたり全国規模の大会開催がなかった中で、準備にあたっては先県への視察を重ね、計画的に大会運営体制の構築を進めた。

主会場である平和堂 HATO スタジアムは、新型コロナウイルスの影響により開場が 1 年延期され、加えて昨年度に予定されていたリハーサル大会は台風接近により中止となった。そのため、ミックスゾーンの運営や衣類運搬等、国スポ特有の運営項目について十分な事前検証が行えなかった点が懸念事項であった。

4 月以降は、審判長・主任・実行委員会を中心に月 1 回のオンラインミーティングを実施し、大会までの準備状況や課題の共有を図った。また、県内で開催された各競技会においても国スポ本番を意識した運営を行い、各部署の競技運営能力の向上に努めた。

大会期間中は、日本陸連（JT0）の皆様から運営面について高い評価をいただき、関係者一同、大きな自信をもって大会運営に臨むことができた。また、東京世界陸上の出場選手 40 名がエントリーしたこともあり、大会全体として非常に盛り上がりを見せた。各都道府県選手団や関係者からも「近年の国スポ（国体）の中でも最も盛り上がった大会であった」との評価をいただいたことは、大きな成果である。

今回の大会で得られた経験と課題を、2026 年度の全国高等学校総合体育大会および 2027 年度の全国中学校体育大会の運営に活かし、今後のさらなる発展につなげていきたい。

# 第20回アジア競技大会 準備状況の報告

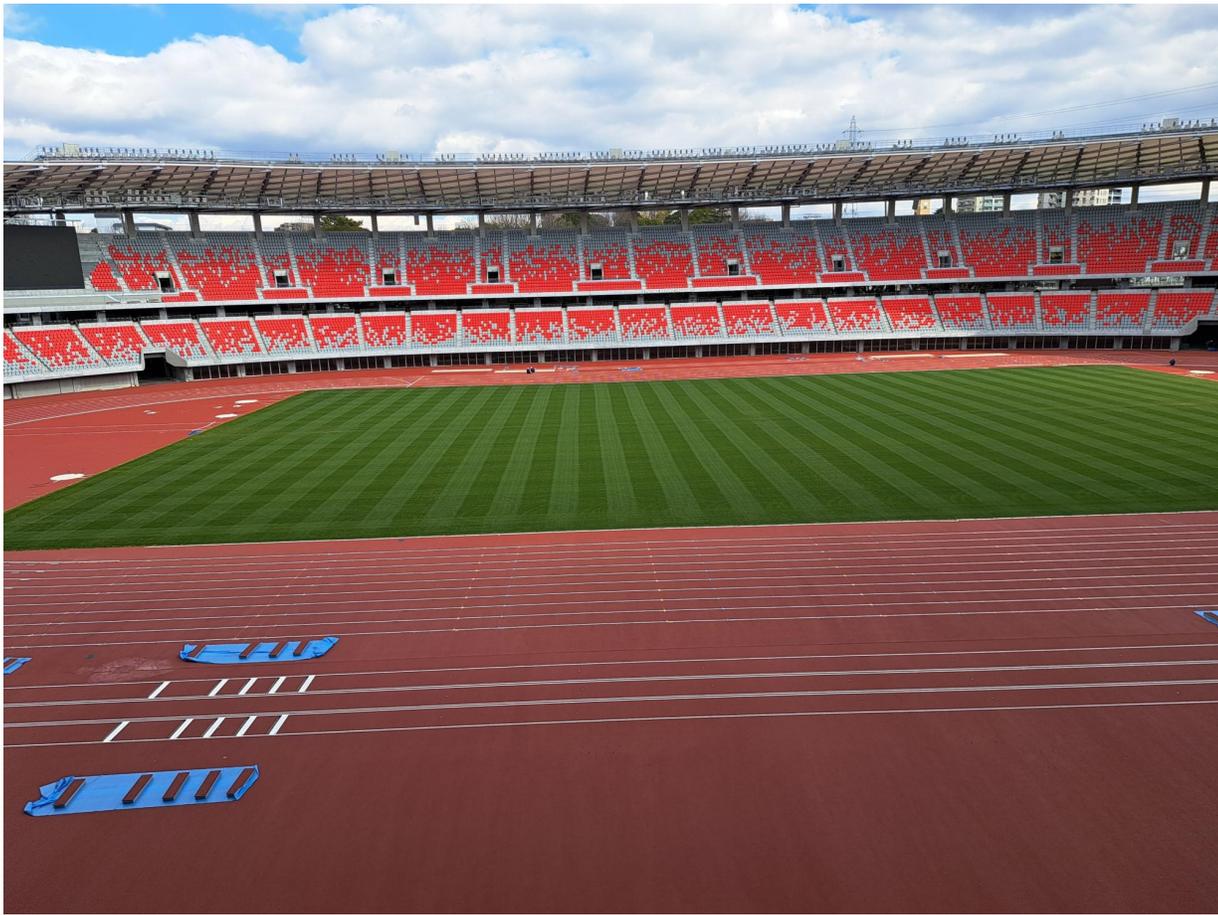
公益財団法人 愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会

Ver.00  
2026/02/11

## Aichi-Nagoya 2026



Aichi-Nagoya 2026



## 大会スローガン

**IMAGINE ONE ASIA** ここで、ひとつに。

1951年、アジア競技大会の歴史は始まった。

4年に1度開催され、アジアを熱狂させるこの大会は、世界で活躍するアスリートや未来へ羽ばたく若い才能が競い合い、互いを高め合う。

その姿は、国も、民族も、文化も超えて、あらゆる人の心を震わせる。

平和の祭典としての想いが引き継がれている、アジア競技大会。

ひとりひとりが、ひとつのアジアを想像することで、この大会は出来上がっていく。

**2026年、アジア最大のスポーツの祭典が、愛知・名古屋に。**

## 大会エンブレムと大会マスコット



## 大会概要

正式名称	第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)
期 間	2026年9月19日(土)～10月4日(日)
参加国	アジア45の国と地域
選手数	約750人
競技会場	メイン 名古屋市瑞穂公園陸上競技場 マラソン 名古屋市瑞穂公園陸上競技場(都心コース) 競歩 愛知県庁・名古屋市役所周辺コース
練習会場	競走・跳躍 美浜町運動公園陸上競技場 投てき 知多運動公園陸上競技場

## 大会概要

実施種目 50種目(男子24種目、女子24種目、男女混合2種目)  
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m  
10000m、3000m障害物、110mハードル  
100mハードル、400mハードル、4×100mリレー  
4×400mリレー、**混合4×100mリレー**、  
混合4×400mリレー、  
走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、  
砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、  
男子十種競技、女子七種競技、  
**ハーフマラソン競歩**、**マラソン競歩**、  
マラソン

Aichi-Nagoya 2026

7

## 競技スケジュール

- ハーフマラソン競歩 9月23日(水祝) 7:30男女同時スタート
- マラソン 9月26日(土) 7:30男子スタート  
7:50女子スタート
- マラソン競歩 9月27日(日) 7:30男女同時スタート
- T&Fについては未定

Aichi-Nagoya 2026

8



メイン会場  
瑞穂公園陸上競技場



練習会場  
知多運動公園陸上競技場



練習会場  
美浜町運動公園陸上競技場



## < NTO選考基準 >

### 必須条件

- I 日本陸連登録会員かつ公認審判員であること
- II 2026年5月31日までにNAR以上の資格を取得し、WAセーフガーディングコースを修了すること
- III 2026年度末で原則65歳以下であること

### 優先条件(優先条件はいずれかを満たす者)

- A アジア大会・アジアパラ大会 全日程出席可
- B 女性
- C 英語・中国語・ロシア語・アラビア語が中級以上

## < NTO選考基準 >

- 1 愛知陸協に所属または同加入団体に所属する登録会員（以下各号の順に選考する）
  - (ア) 東京2025世界陸上に競技役員として出席した者
  - (イ) 2025年6月30日時点で日本陸連公認審判員でブロンズレフェリー資格取得済みの者
  - (ウ) 2025年9月21日時点で日本陸連公認審判員でNAR資格またはパラNTO取得済みの者
  - (エ) 愛知県内の競技役員で過去3年間に30日以上、出席している者。
  - (オ) 今大会や長期にわたり将来の競技会運営での貢献が有望視される愛知陸協の推薦を受けた者あるいは優先条件を満たす者。

## NTO候補者年代別内訳(愛知陸協)

年代	男性	女性	計
20代	10人	4人	14人
30代	17人	4人	21人
40代	40人	13人	53人
50代	18人	13人	31人
60代	25人	5人	30人
70代	1人	0人	1人
	111人	39人	150人

# アジア競技大会競技役員選考について

## アジア競技大会

アジア競技大会陸上競技は愛知県および東海地区の審判員を中心に編成するが、大規模国際選手権大会では特有の予測困難な事象でも迅速に対処し、運営していくことが求められる。そのため、同規模大会の経験者の力が不可欠である。国際大会経験者が不足する各部署にそれぞれ定めた必要人数を、当該部署で貢献できる人員を補充できるよう本連盟に依頼された。

このため、愛知県外東海地区内からは東京2025世界陸上の競技役員経験者でWARブロンズ以上あるいはJTO(競歩はWARWJ資格者)の資格を有する者と東海地区加盟団体に所属するWARブロンズ資格者(競歩はWARWJ)で円滑な運営に貢献することが期待される者を選考することとした。

また、東海地区外からは、東京2025世界陸上の競技役員経験者で、全国規模の大会の派遣経験があり、東京2025での著しい活躍があり、アジア大会の円滑な運営に必要な知識と経験を有する人員を推薦することとした。

欠員が発生した場合は別途選考方法を定める。

### 【選考条件】

#### 東海

- ・東京2025世界陸上で競技役員経験者で次のいずれかに該当している。  
WAR・JTO
- ・WAR資格者で、担当部署において円滑な運営に貢献することが期待される者

#### 東海外

- ・東京2025世界陸上で競技役員経験者で次のいずれかに該当している。  
競技運営委員・施設用器具委員・JTO・JRWJ・検定員/技術役員・  
WAR・WACD・パラNTOの役職・資格を有する者、  
語学力が特に高い者のいずれかに該当している。

#### かつ

- ・東京2025で競技役員として特に活躍し、アジア競技大会の円滑な運営に必要な知識と経験を有する者。

## 2. スポーツエントリー・テクニカルハンドブック タイムライン

Timing	Action
2025年6月10日～6月30日	エントリーバイスポーツ期間
2025年7月15日	競技プログラムの確定
2025年7月	テクニカルハンドブック(初版)の配布
2025年7月〇日～〇月〇日	エントリーバイナンバー期間
2025年9月	デイリー&セッションスケジュール(ドラフト)の配布
2025年12月	ア kredィテーションシステムのオープン テクニカルハンドブック(第2版)の配布
2026年3月	スポーツエントリーマニュアルの配布
2026年5月	ア kredィテーションの申請締切
2026年5月～6月	プレ選手団登録会議の実施
2026年5月～7月	エントリーバイネーム期間
2026年6月～7月	デジタル選手団登録会議の実施
2026年7月	有効化前カード
2026年8月	チームドロー 競技スケジュールの確定・配布 テクニカルハンドブック最終版の配布
2026年8月～9月	最終選手団登録会議の実施

Aichi-Nagoya 2026

22

## テストイベント

- ★ 第15回愛知競歩競技会 2月21日(土)  
会場:名古屋市三の丸官公庁コース(日本陸連公認競歩路)
- ★ 名古屋ウィメンズマラソン2026 3月8日(日)  
会場:バンテリンドームナゴヤ発着(WA/AIMS公認コース)
- ☆ ジャパンパラ陸上競技大会 5月16日(土)・17日(日)  
会場:名古屋市瑞穂公園陸上競技場
- ★ 第110回日本陸上競技選手権大会 6月12日(金)～14日(日)  
会場:名古屋市瑞穂公園陸上競技場

Aichi-Nagoya 2026

23

# 安全・安心 information

～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

- 1) 迷惑撮影対策
- 2) リレー／駅伝のユニフォームのルール（選択制ユニフォーム）
- 3) ロードレースにおける助力の認識

陸上安全ナビサイトのご案内・問い合わせ先



## 1. 迷惑撮影対策

### 2026年陸連主催大会での取り組み予定

本連盟主催大会での迷惑撮影対策は以下の通り予定しています。

※FOP=グラウンドレベルに観戦席を設置する場合

	開催地	FOP	1階	2階
GGP	国立	調整中	△	○
日本選手権	瑞穂	なし	△	○
混成	岐阜	なし	△	—
リレフェス	国立	調整中	△	—
10000m	世田谷	調整中	調整中	—
U20	静岡	×	△	—
U16/18	三重	×	△	—

- ：規制なし  
 △：スマホ、タブレットのみ可（一眼レフ、ビデオカメラNG）  
 ×：撮影不可

### 陸連主催大会での取り組み例

- ▶1階層での撮影禁止（スマホ・タブレットのみ可）
  - ・スマホに望遠レンズ等を着用することもNG
  - ・1FコンコースもNG
  - ・選手至近距離での撮影をなくすことで、心理的負担を軽減
- ▶100mスタート後方の撮影禁止エリア設定（その他、種目による撮影制限実施検討中）
- ▶通報フォーム（QRコード）設置
- ▶アスリート委員会との取り組み（リボン活動・迷惑撮影禁止アナウンス）
- ▶所轄の警察と連携し、巡回体制を整える



## 1. 迷惑撮影対策

### 引き続きのお願い事項

- ▶ **会場整備・啓発活動の徹底**
  - ・会場内への注意喚起ポスターの掲示
  - ・大型ビジョンおよび会場アナウンスでの呼びかけ
  - ・大会プログラムへの注意喚起広告の掲載
  - ・スタッフ/審判による会場巡回  
(特に、女子短距離種目、跳躍種目)
  - ・トイレへの啓発ポスター・チラシ掲示
- ▶ **競技運営面の工夫**
  - ・表彰式での所属ウェアやTシャツ着用の推進
  - ・レース後の速やかな誘導と、安全な導線の確保  
(荷物運搬が無い場合、レース後にユニフォーム姿のまま歩いて安全な導線の確保)
- ▶ **地域管轄警察署との連携**
  - ・開催期間中の定期的な会場巡回
  - ・警察署名の入った盗撮禁止看板の制作



## 2. リレー／駅伝のユニフォームのルール (選択制ユニフォーム)

### 【背景】

- 近年、迷惑撮影（盗撮）の問題が拡大しており、選手自身が自らの身を守る意識を持っている。
- 自身の身を守る観点から、「**ユニフォームの形式（セパレート・ブルマ・スパッツなど）を選択したい**」と考えている選手が一定数いることが、アンケート回答等から判明した。  
→「リレー種目に出場の際には、学校・チーム単位で形式を揃える必要がある」と思い、**仕方なく望んでいないユニフォームを着用しているケースがあった。**

### 【競技規則】

- ◆ルールブック－TR.5 服装、競技用靴、アスリートピブス  
5.1 全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する
- ◆ハンドブック－競技者係 実施要領 ③留意点 (5) 服装  
全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者はランナーの誤認をなくすために、同一のユニフォームを着用する。（短パン・スパッツの違い等は許容範囲）

### 国体 女子リレー種目における ユニフォーム着用割合の変化（2019年→2022年）

○4選手ともブルマタイプ	94%	→	<b>64%</b>
○4選手ともスパッツタイプ	6%	→	<b>18% UP!</b>
○選手により選択	0%	→	<b>18% UP!</b>

※陸連調査のため誤差あり



△選手により、異なるタイプのユニフォームを選択している例

- ▶ **同じチームであることが分かれば、ユニフォームの形式は問いません。**  
(ブルマの選手、スパッツの選手、セパレートの選手、ランニングシャツの選手が混在していても、**デザインや配色が同一であれば、ルール上は問題ありません**) ※駅伝も同様

陸連  
NEWS



### 3. 助力について（ロードレース）

#### 【背景】

特に駅伝競走において、レース中の負傷（疲労骨折や捻挫など）や疾病（低体温・低血糖など）により、通常歩行が困難な状況の中で、競技を継続し危険な場面が生まれている。



#### 【競技規則（助力に関するルール）の再確認】

- ・転倒や意識混濁、疾病等により明らかに通常歩行や競技続行が困難となり、立ち止まりや横臥等の行動を行う競技者に対して、**審判員や公式の医療スタッフが声掛けを行うことは、助力とは見なさない。**
- ・本人がなお競技続行の意思を持っていても、競技者の生命・身体保護の観点から**審判員もしくは医師の判断で競技を中止させることができる。**
- ・審判員や公式の医療スタッフが一時的に介護するために競技者の身体の一部に触れることは、**助力とは見なさない。**
- ・審判長の権限を技術総務、競走審判員、監察員等に委任しておく必要がある。

- ▶ 競技規則を再確認のうえ、**競技注意事項や申し合わせ事項での周知**、および**監督会議等でのご説明**をお願いいたします。
- ▶ **医療体制・緊急時の連絡系統の確認**および**審判会議等での周知徹底**に、ご協力をお願いいたします。
- ▶ 医師を含む医務員を複数名任命し、**緊急医療体制（AED配置を含む）を整備**の上、競技会の開催をお願いいたします。

陸連  
NEWS



## 陸連HP「陸上安全ナビ」サイト

～すべてのアスリートが安心して競技に取り組める環境を目指して～



#### 【安全・安心に関わる報告/問い合わせ先】

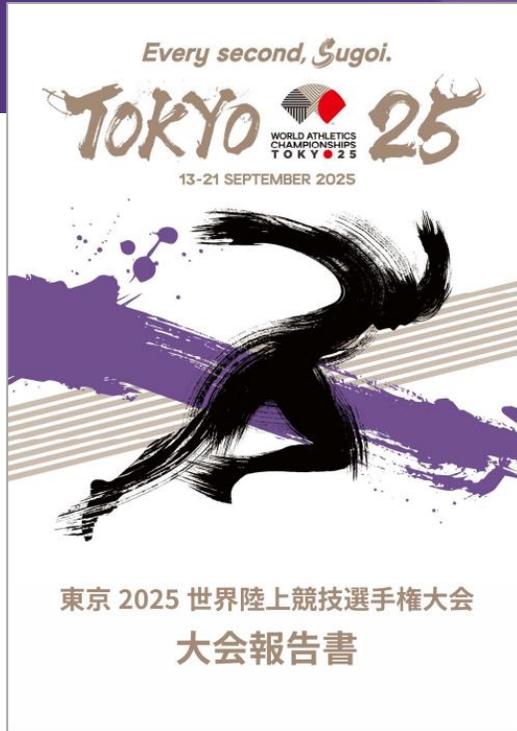
安全・安心に関わるお問い合わせや、大会中に発生した事故等については、以下の連絡先までご連絡をお願いします。

- ▶ **問い合わせ先**  
jigy@jaif.or.jp （担当：安全安心PT 高橋・肥田埜）

#### 【ドーピング検査に関する問合せ先】

土日祝日、時間外も対応できる電話番号を開設しました。（2026年度より）日本新記録が誕生するなど、急遽検査が必要となった場合は、以下へご連絡をお願いいたします。

- ▶ **緊急時の問い合わせ先（土日祝日、時間外も繋がります）NEW**  
日本陸連 ドーピング検査専用ダイヤル 050-1746-6422
- ▶ **緊急時以外の問い合わせ先**  
medical@jaif.or.jp （担当：日本陸連事務局 医事委員会担当）  
050-1746-8410 （日本陸連代表電話 平日10～18時）



## 〈東京2025世界陸上 大会報告書〉

本連盟HPに、PDF版を掲載しています。  
300ページ以上にわたって、大会ハイライト、  
準備・運営業務などの総括などを盛り込んでいます。  
その他、サステナビリティレポートなども掲載中。  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1927/>



DAY 1 | 2025. 9. 13

MORNING SESSION		EVENING SESSION	
07:30	35 km 競歩 男 決勝	開会式	
07:30	35 km 競歩 女 決勝	18:05	3000m 障害物 男 予選
09:00	円盤投 女 予選A	18:30	走幅跳 女 予選
10:40	円盤投 女 予選B	18:55	100m 女 予選
10:55	砲丸投 男 予選	19:05	棒高跳 男 予選
11:10	100m 男 予選	19:50	1500m 女 予選
11:40	4 x 400m リレー 混 予選	20:35	100m 男 予選
		21:10	砲丸投 女 決勝
		21:30	10000m 女 決勝
		22:20	4 x 400m リレー 混 決勝

9月13日

競技 1 日目  
2025年9月13日

男子35km競歩 決勝  
銀メダル獲得  
大会前日のモーニングセッションから  
国立競技場は大きな歓声に包まれた。

女子4 x 400mリレー 決勝  
アメリカチーム  
3分14秒61の大会新記録を樹立

9月13日

女子4 x 400mリレー 決勝  
アメリカチーム  
3分14秒61の大会新記録を樹立

CHAMP RECORD (女子4 x 400mリレー)

9月13日

競技 9 日目  
2025年9月21日

天皇皇后両陛下に愛子内親王殿下による競技観戦

9月21日

3. 事務局運営

開催基本計画の策定

11. 総括

12. 総括

13. 総括

14. 総括

15. 総括

16. 総括

17. 総括

18. 総括

19. 総括

20. 総括

21. 総括

22. 総括

23. 総括

24. 総括

25. 総括

26. 総括

27. 総括

28. 総括

29. 総括

30. 総括

31. 総括

32. 総括

33. 総括

34. 総括

35. 総括

36. 総括

37. 総括

38. 総括

39. 総括

40. 総括

41. 総括

42. 総括

43. 総括

44. 総括

45. 総括

46. 総括

47. 総括

48. 総括

49. 総括

50. 総括

51. 総括

52. 総括

53. 総括

54. 総括

55. 総括

56. 総括

57. 総括

58. 総括

59. 総括

60. 総括

61. 総括

62. 総括

63. 総括

64. 総括

65. 総括

66. 総括

67. 総括

68. 総括

69. 総括

70. 総括

71. 総括

72. 総括

73. 総括

74. 総括

75. 総括

76. 総括

77. 総括

78. 総括

79. 総括

80. 総括

81. 総括

82. 総括

83. 総括

84. 総括

85. 総括

86. 総括

87. 総括

88. 総括

89. 総括

90. 総括

91. 総括

92. 総括

93. 総括

94. 総括

95. 総括

96. 総括

97. 総括

98. 総括

99. 総括

100. 総括

6. 競技運営

実施体制の構築等

11. 総括

12. 総括

13. 総括

14. 総括

15. 総括

16. 総括

17. 総括

18. 総括

19. 総括

20. 総括

21. 総括

22. 総括

23. 総括

24. 総括

25. 総括

26. 総括

27. 総括

28. 総括

29. 総括

30. 総括

31. 総括

32. 総括

33. 総括

34. 総括

35. 総括

36. 総括

37. 総括

38. 総括

39. 総括

40. 総括

41. 総括

42. 総括

43. 総括

44. 総括

45. 総括

46. 総括

47. 総括

48. 総括

49. 総括

50. 総括

51. 総括

52. 総括

53. 総括

54. 総括

55. 総括

56. 総括

57. 総括

58. 総括

59. 総括

60. 総括

61. 総括

62. 総括

63. 総括

64. 総括

65. 総括

66. 総括

67. 総括

68. 総括

69. 総括

70. 総括

71. 総括

72. 総括

73. 総括

74. 総括

75. 総括

76. 総括

77. 総括

78. 総括

79. 総括

80. 総括

81. 総括

82. 総括

83. 総括

84. 総括

85. 総括

86. 総括

87. 総括

88. 総括

89. 総括

90. 総括

91. 総括

92. 総括

93. 総括

94. 総括

95. 総括

96. 総括

97. 総括

98. 総括

99. 総括

100. 総括

# 「JAAF人権ポリシー」「JAAFインテグリティ行動指針」

この秋、日本では2007年大阪大会以来18年ぶりとなる世界陸上競技選手権大会が東京で開催されました。東京での開催は、1991年以来34年ぶりでした。

大会は、世界中から多くの人を迎え入れ、相互理解と国際交流の輪を広げる機会になります。この貴重な機会に組織としての「JAAF人権ポリシー」と同ポリシーの考え方の下で主体的に取り組む行動の指針を公表しました。

自国で開催される国際競技会を機に、世界の人々と豊かな人権感覚を共有し、より良い社会をめざしたい。

2025年8月20日に策定された「JAAF人権ポリシー」と「JAAFインテグリティ行動指針」には、そのような願いがこめられています。



**日本陸上競技連盟 人権ポリシー**

「陸上競技」をより多くの人々や社会とともに歩む「陸上」へ。  
日本陸上競技連盟(以下、JAAF)は、ワールドアスレティックス(以下、WA)の人権ポリシーに基づき、人権の尊重と保護に向け、陸上に関わるすべての人々に以下を呼びかけます。

- 競技者・指導者・その他の陸上に関わるすべての人々を大切に、尊敬を尊重します
- スポーツに適切な役割や意欲を与える活動を行い、より良い社会に向けた変革を促します
- 公平性、特に性に関わる機会の公平性、個人の尊厳の尊重、競技者やスポーツのガバナンスに関する公正を促進します
- 差別、暴力、搾取、ハラスメントなどの人権侵害を防止し、その根絶に向けて自ら積極的に行動します
- 陸上に間接的に関わる第三者による人権侵害の防止に努めます
- 加害団体、協力団体、地域陸上競技協会などに働きかけ、人権侵害の防止のための連携を促進します

陸上に関わる人々の権利と他の人々の権利との間、このポリシーと他のポリシーとの間、このポリシーと公正な競争を確保するというJAAFの正当な目的との間に、矛盾や衝突が起きる場合もあります。そのような時には、JAAFはすべての当事者を尊重できる解決策を見つけて出るよう、努めます。

このポリシーは、2025年8月20日に理事会によって承認され、定期的に見直しが行われます。

<このポリシーに関連するJAAFの「定義」および「倫理に関するガイドライン」の記載>

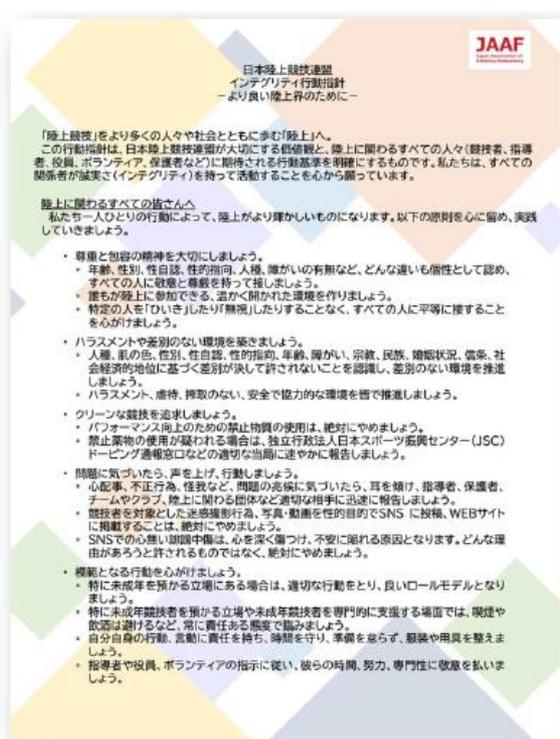
- 本連盟の定義は、「この法人は、わが国における陸上競技界を統括し、代表する団体として、陸上競技を先進スポーツ文化の普及及び振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与し、豊かな人間性を涵養することを目的とする。」とされています(第3条)。
- 本連盟の「倫理に関するガイドライン」に役員・指導者・競技者等は、陸上競技を愛する者として、自らの地位を保持し、お互いに人格を尊重しあわなければならない(このガイドラインの目的と理念)(役員・指導者・競技者等は)人種・年齢・性別・種がけの異なる有無等の違いによる理由のない差別をすることなく、平等の精神を持ち、他人の人格を尊重すること(社会の善となるために)と記されています。

<このポリシーで用いられている「人権」について>

このポリシーで用いられている「人権」は、日本国憲法で保障されている人権、日本国内法で保護されている権利のほか、以下で認められている権利をさします。

- ・ 国際宣言(以下、国連)の「世界人権宣言」、ユニセフ「児童の権利に関する条約」、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」、国連の「グローバルコンパクト」
- ・ 国際労働機関の「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」

注記)このポリシーで用いられる「排斥」は、力関係や信頼関係に基づく地位が低い立場の相手に対し不当に必要に用いる行為あるいはその試みをさします。



**日本陸上競技連盟 インテグリティ行動指針**  
—より良い陸上界のために—

「陸上競技」をより多くの人々や社会とともに歩む「陸上」へ。  
この行動指針は、日本陸上競技連盟が大切にしている価値観と、陸上に関わるすべての人々(競技者、指導者、役員、ボランティア、保護者など)に期待される行動基準を明確にするものです。私たちは、すべての関係者が誠実で(インテグリティ)を持って活動することを心から願っています。

陸上に関わるすべての皆さまへ  
私たち一人ひとりの行動によって、陸上がより輝かしいものになります。以下の原則を心に留め、実践していきましょう。

- ・ 尊厳と包容の精神を大切にしましょう。
- ・ 年齢、性別、性自認、性的指向、人種、種がけの有無など、どんな違いも個性として認め、すべての人に敬意と尊敬を持って接しましょう。
- ・ 誰もが陸上に参加できる、舌く開かれた環境を作りましょう。
- ・ 特定の人を「むいし」たり「無視」したりすることなく、すべての人に平等に接することを心がけましょう。
- ・ ハラスメントや差別のない環境を築きましょう。
- ・ 人種、肌の色、性別、性自認、性的指向、年齢、障がい、宗教、民族、婚姻状況、信条、社会的経済的地位に基づく差別が決して許されないことを認識し、差別のない環境を推進しましょう。
- ・ ハラスメント、虐待、搾取のない、安全で協力的な環境を皆で推進しましょう。
- ・ クリーンな競技を追求しましょう。
- ・ パフォーマンス向上のための禁止物質の使用は、絶対にやめましょう。
- ・ 禁止薬物の使用が疑われる場合は、独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSO)ドーピング連絡窓口などの適切な当局に速やかに報告しましょう。
- ・ 問題に気づいたら、声を上げ、行動しましょう。
- ・ 心配事、不正行為、怪我など、問題の兆候に気づいたら、耳を傾け、指導者、保護者、チームやクラブ、陸上に関わる団体など適切な相手に迅速に報告しましょう。
- 競技者を対象とした迷惑行為、写真・動画を性的目的でSNS に投稿、WEBサイトに掲載することは、絶対にやめましょう。
- SNSでの心無い誹謗中傷は、心を深く傷つけ、不安に陥れる原因となります。どんな理由があろうと許されるものではなく、絶対にやめましょう。
- 規範となる行動を心がけましょう。
- 特に未成年を預かる立場にある場合は、適切な行動をとり、良いロールモデルとなりましょう。
- 特に未成年競技者を預かる立場や未成年競技者を専門的に支援する場面では、喫煙や飲酒は避けると、常に責任ある態度で臨みましょう。
- 自分自身の行動、活動に責任を持ち、時間を守り、準備を怠らず、服装や用具を整えましょう。
- 指導者や役員、ボランティアの指示に従い、彼らの時間、努力、専門性に敬意を払いましょう。

[JAAF人権ポリシー]  
の全文はこちら



[JAAFインテグリティ行動指針]  
の全文はこちら



自由にダウンロードしていただき、ご活用ください。